



平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業

# 山形ワークライフバランス・ イノベーション

## 第2部 男女共同参画に係るアンケート結果報告書

work  
life  
balance  
innovation

# 山形ワークライフバランス・イノベーション

## 第2部 平成21年度男女共同参画に係るアンケート結果報告書

### 目次

平成21年度男女共同参画に係るアンケート結果ダイジェスト版	4
1. 調査方法	7
調査方法の概要	7
調査スケジュール	7
先行調査の検討	8
調査票の作成	8
質問項目	8
調査票の配布と回収	9
調査対象者と回収率	9
データ入力と分析	11
調査結果	
2. 回答者のプロフィール	12
性別	12
職種	12
性別と職種	13
所属部局・キャンパス	13
年齢構成	14
昨年度のアンケート回答の有無	17
3. ライフについて	18
婚姻状況	18
配偶者等の職業	21
家事・育児・介護の時間	21
子ども数と理想の子ども数	22
子育ての状況	23
4. ワークについて	27
仕事上のストレス	27
大学教員の研究・業務環境	28
教育研究活動の男女差はあるか	29

5. ワークライフバランスについて .....	32
仕事の阻害要因.....	32
仕事と生活の調和についての意識.....	33
仕事と家庭を両立するために必要な方策.....	34
6. 次世代の女性研究者・職員の育成 .....	36
女性教員が少ない理由について.....	36
出身地・出身校.....	37
山形大学内部の女性研究者育成について.....	40
7. 取り組みの周知度 .....	41
法律や本学の取り組みの周知度.....	41
キャンパスごとの周知度の違い.....	42
8. 自由記述の分析 .....	43
資料1 平成21年度「男女共同参画に係るアンケート調査」調査票 .....	47
資料2 アンケート依頼添書「男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）」.....	55
資料3 基礎集計表 .....	56
資料4 先行調査 .....	92
9. おわりに .....	94

# 平成 21 年度 男女共同参画に係るアンケート

## 結果ダイジェスト版

2010 年（平成 22 年）3 月 山形大学男女共同参画推進室

### 1. 調査概要

調査名：平成 21 年度「男女共同参画に係るアンケート調査」

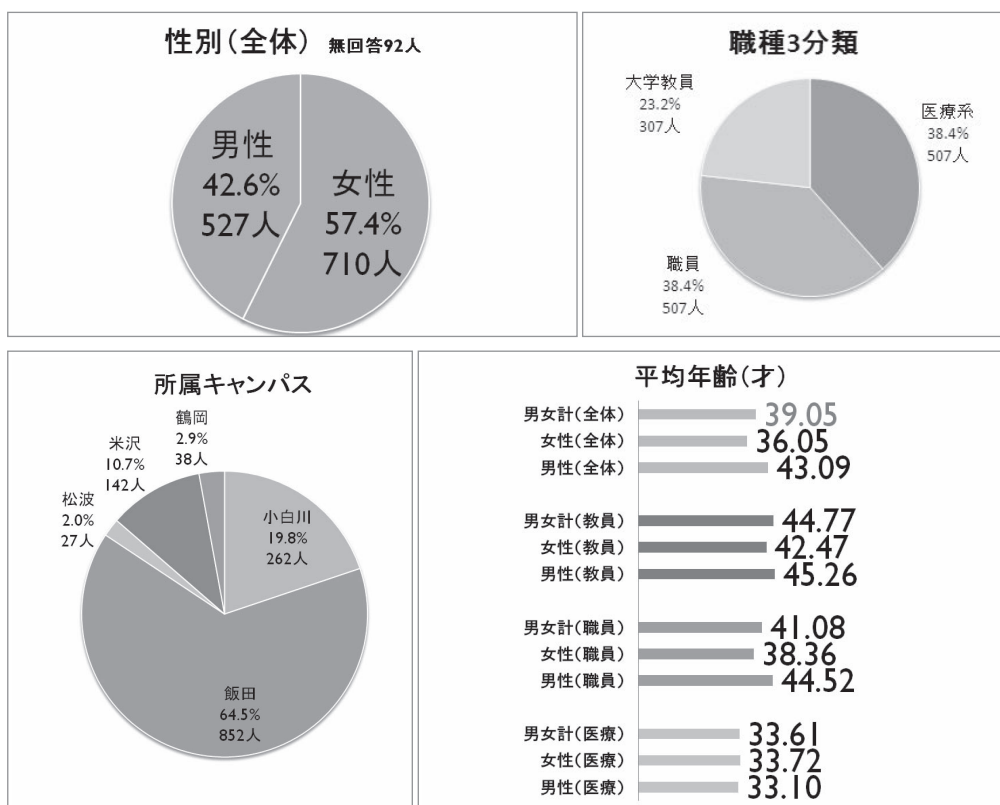
調査対象：山形大学の全ての常勤教職員と定時・短時間勤務職員

（2471 人配布、有効回答数 1329 人、回収率 53.8%）

調査時期：2009 年（平成 21 年）10 月～11 月

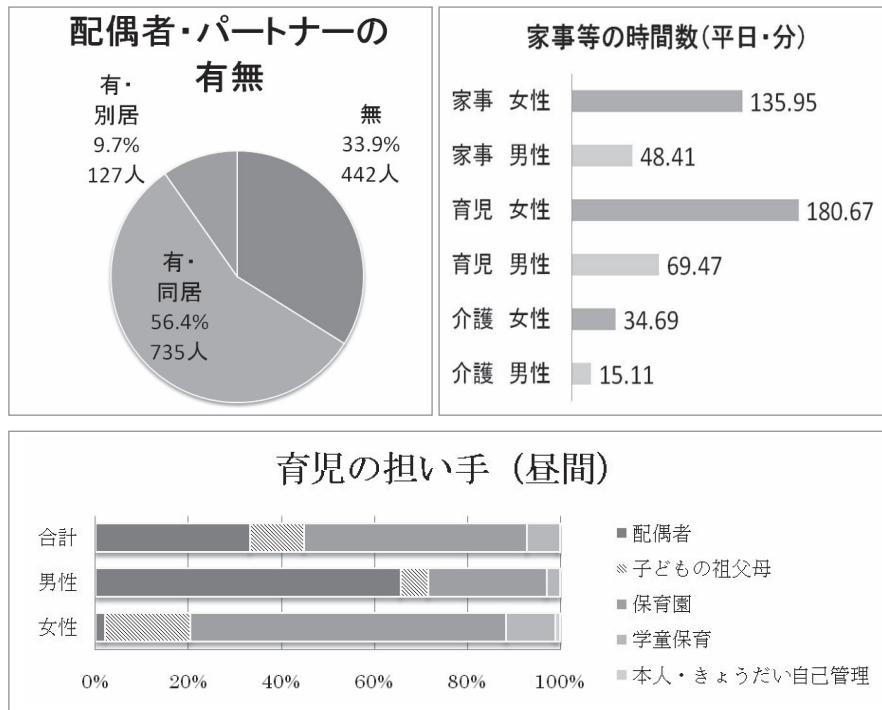
調査内容：仕事について、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、生活について、問 1 から 30 まで。

### 2. 回答者のプロフィール



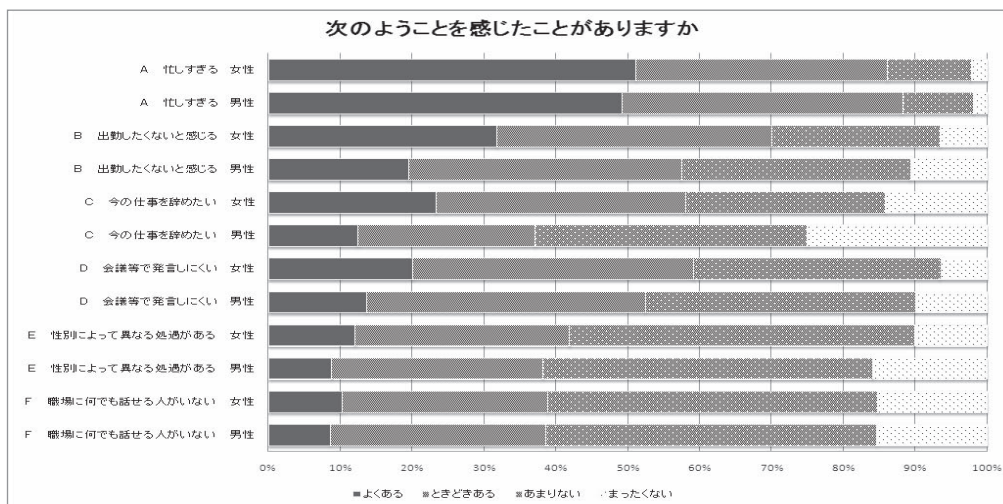
### 3. ライフについて

- ・ 配偶者・パートナーと離れて暮らしている教職員が 1 割近くいる。
- ・ 家事・育児・介護は女性が多くを担う傾向がある。
- ・ 育児の主な担い手は「保育園」、「配偶者」。それを「子どもの祖父母」が補完。多くの女性にとって「配偶者」（夫）は主な育児の担い手ではなく、「子どもの祖父母」に依存している。
- ・ 男性の配偶者・パートナーには無職・学生が多く、女性の配偶者・パートナーには常勤が多い。



#### 4. ワークについて

- ・男女ともに「忙しすぎる」など、仕事上のストレスを感じる人が多い。さらに女性は男性よりも、「出勤したくないと感じる」「今の仕事を辞めたい」などを感じる傾向がある。
- ・大学教員の教育・研究活動・会議等の業績については、分野や職階の影響はあるが、男女でどちらが高いということとはできない。



#### 5. ワークライフバランスについて

- ・仕事の阻害要因：どの職種・性別とも、時間や補助人員などに対し、主たる業務と関係のない業務など仕事量が多いことを上位に選択。さらに女性では育児・教育など生活関連の項目が選択される。
- ・固定的な性別役割分業観を持つ人は多くない。しかし、本学は女性が働きやすい環境が整っている、育児休暇を取得しやすい雰囲気があるという人は男女とも少ない。

- ・必要な両立支援の方策は、全ての項目で女性の方が男性よりも「そう思う」と答える傾向がある。

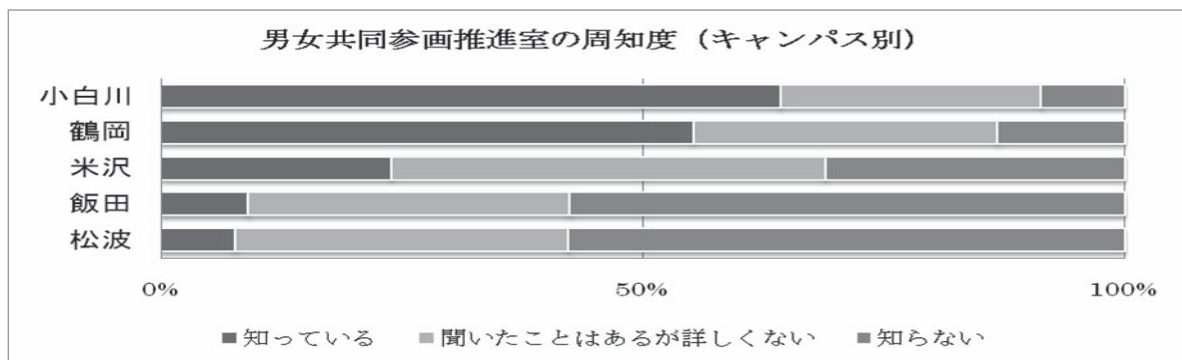
	教員・女性	教員・男性	職員または医療系・女性	職員または医療系・男性
1位	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務
2位	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務の時間が十分取れない	職場の人間関係	職場の人間関係
3位	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務を補助する人がいない
4位	研究・業務費の金額	研究・業務費の金額	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務の時間が十分取れない
5位	職場の人間関係	管理的事務	家事	スペース・設備
6位	育児・教育	スペース・設備	育児・教育	管理的事務
7位	管理的事務(スペース・設備と同率)	職場の人間関係	管理的事務	研究・業務費の金額
8位	スペース・設備	育児・教育	スペース・設備	その他
9位	介護・看病	その他	妊娠・出産	育児・教育
10位	妊娠・出産	家事	介護・看病	家事
11位	家族の人間関係	介護・看病	その他	介護・看病
12位	その他	家族の人間関係	研究・業務費の金額	家族の人間関係
13位	家事	妊娠・出産	家族の人間関係	妊娠・出産
14位	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別

## 6. 次世代の女性研究者・職員の育成

- ・女性研究者が少ない要因は、「家庭と仕事の両立が困難」など働き方に関する要因が挙げられる。
- ・全教職員では65.6%が山形県の出身、41.5%が山形県の大学出身である。
- ・大学教員では、女性では27.7%、男性では21.4%が山形県の出身、山形県の大学出身者は、女性では39.6%、男性では34.0%である。
- ・大学院生のうち、男女とも4～5人に1人が研究職を志望していた(過去3年度)。

## 7. 取り組みの周知度

- ・法律や制度、本学の取り組みについての周知度は、「聞いたことはあるが内容に詳しくない」という人は多いが、「知っている」という人は多くない。
- ・周知度にはキャンパスによって差が有る。男女共同参画推進室の周知度では、本年度実施した活動が多かった小白川・鶴岡キャンパスで高い傾向がある。



## まとめ

- ・仕事が忙しく、ワークライフバランスを実現できない現状に不満を感じている人が非常に多い。その中でも家事、育児、介護などの家庭面での負担から、女性には特に負担感が強い。
- ・大きな負担を感じている人たちを含めた全ての教職員のワークライフバランスを改善することが必要である。

# 平成 21 年度 男女共同参画に係るアンケート結果

## 1. 調査方法

### 調査方法の概要

本調査では、2009年10月から11月に山形大学の常勤教職員と定時・短時間勤務職員全てに対して、男女共同参画に係るアンケート調査を行った。調査対象者 2471 人に配布し、有効回答数は 1329 人分、回収率 53.8%であった。質問項目は、Ⅰ.仕事について、Ⅱ.仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、Ⅲ.生活について、問 1～30 までである。

### 調査スケジュール

#### a) 調査準備 2009年8月から10月下旬

- 8月 アンケート実施方法と調査票の検討開始。  
他大学・研究機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の調査票と報告書の収集。男女共同参画推進室で調査票の検討開始。
- 9月2日 男女共同参画推進室ミーティングにて、調査票の検討。
- 9月28日～10月8日 男女共同参画推進委員会委員、男女共同参画推進室員で調査票について検討。
- 9月29日 調査票の印刷について印刷業者と打合せ。
- 10月5日 データ入力について業者と打合せ。
- 10月8日 男女共同参画推進委員会にて、アンケートの実施方法と調査票について決定。
- 10月13日 調査票の印刷開始。
- 10月20日 各部局長へ「男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）」。
- 10月23日 印刷業者から調査票納入。  
調査票の配布（各学部へは印刷業者から各部局総務へ送付。小白川事務部、附属学校園、事務局等へは男女共同参画推進室から送付）。

#### b) 調査実施 2009年10月下旬から11月中旬

- 10月28日～30日 各部局で調査票を調査対象者へ配布。
- 11月13日 各部局での調査票提出期限。
- 11月18日 各部局から男女共同参画推進室への調査票送付期限。

#### c) データ入力・分析・報告書作成 2009年11月下旬から2010年3月

- 11月20日～12月9日 データ入力。
- 12月～2月 調査結果分析。
- 2月12日 「山形大学男女共同参画シンポジウム in2010～見つけよう！あなたのワークライフバランス」で調査結果の一部報告。
- 3月 報告書作成、印刷、配布。

## 先行調査の検討

男女共同参画推進室に専任教員の着任した8月から、先行調査の検討を始めた。まず、平成18年度～20年度の女性研究者支援モデル育成採択機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の情報を収集した。各機関の調査報告書と調査票を各機関のホームページや、直接各大学に問い合わせるなどして収集した。調査結果についてはホームページや報告書で公表されている機関が多かったが、どのような質問をしたかという調査票については公表していないところも多く、その場合、各機関の担当者に問い合わせ、郵送をいただいた。

今回の調査との調査目的の一致の観点から、特に以下の大学・研究機関の調査を重点的に検討した。熊本大学(2009)、早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所(2008)、森林総合研究所男女共同参画室(2009)、産業技術総合研究所(2006)、神戸大学男女共同参画推進室(2008)、千葉大学両立支援企画室(2009)の調査を中心に参考にさせていただいた。さらに、女性研究者支援モデル育成採択機関の調査以外にも、関連する調査について結果と調査票を収集・検討した。以上の先行調査は巻末の資料4 先行調査にまとめている。

## 調査票の作成

平成20年12月に全学の教職員と大学院生を対象に行った調査「男女共同参画に係るアンケート」の調査票(山形大学男女共同参画推進準備室 2009)を土台に、今年度の調査票を検討した。さらに、他大学・研究機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の調査票と分析結果を参考にした。

昨年度との大きな変更点として、今年度は大学院生を調査対象者に含まず、教職員のみを対象にすることとした。そのため、大学院生に関する項目を除外した。さらに年齢の聞き方等、昨年度調査への回答者からのコメントを生かし修正を行った。

また、今年度加えた大きな項目として、山形大学の女性研究者を今後、内部で育てていくべきか、外部から採用するかという戦略を考えるために、以下の2つを加えた。まず、現在の山形大学の研究者の経歴を聞いた。具体的には大学や大学院等で、どのような大学出身だったかを聞いた。また、大学教員に対して、過去3年度に指導した大学院生が何人か、またそのうち何人が研究者を志望していたかを聞いた。

これらの点を中心に、男女共同参画推進室で調査票の検討を行い、その後、各学部の男女共同参画推進委員会委員に調査票の検討を依頼した。そこでの修正を経て、男女共同参画推進委員会にて調査方法と調査票の内容を決定した。

調査票はA4両面印刷で8ページあり、冒頭にアンケートのお願い文、以下質問項目が続く。調査票には、のり付きの封筒をホッチキスで留めてあり、記入後は封筒に入れ、各部局の回収ポスト等に入れてもらうようにした。また、調査票の印刷は、平成20年度も依頼した印刷会社に引き続き依頼した。

回答の多くは数字に○をつける方法であり、自由記述は多くないものの、質問数が多く、回答者の負担は少なくないと思われる。調査に協力していただいた方々に感謝したい。

## 質問項目

質問項目は問1～問30まであり、いくつかの質問にサブ・クエスチョンがある。質問の内容は以下の



通りである。大きく分けてⅠでは仕事について、Ⅱでは仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、Ⅲでは生活について質問している。詳細は巻末の資料1 アンケート調査票を参照してほしい。

#### Ⅰ.仕事について

問1～問4 勤務キャンパスなど仕事についての基本属性ほか

問5～問8 大学教員の研究・教育・業務の実態

#### Ⅱ.仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問9～問15 ワーク・ライフ・バランスに関する意識、仕事の障害となる要因、制度等の認知ほか

#### Ⅲ.生活について

問16～問21 家族構成など私生活についての基本属性ほか

問22～問28 育児について

問29～問30 昨年度アンケートへの回答・自由記述

#### 調査票の配布と回収

平成20年度の調査と同様に、各部局の総務に担当部局の調査対象者へのアンケートの配布と回収を依頼した。アンケートが調査対象者の手元に届いてから2週間を各部局の締め切りとし、その後、各部局から男女共同参画推進室へと調査票を郵送してもらった。また、本部事務局の各部に対しては男女共同参画推進室から配布と回収を行った。

#### 調査対象者と回収率

調査対象者は山形大学の全ての常勤教職員と、定時・短時間勤務教職員とした。医学部では医員及び研修医、また、他学部では附属支援施設等の教職員を含んでいる。今回の調査も昨年度の調査と同様に、母集団からサンプルを抽出する方法ではなく、山形大学の全ての常勤教職員と定時・短時間勤務教職員を対象とした全数調査である。

手順としては、まず、総務部人事ユニットに依頼し、アンケート調査直前の平成21年10月13日現在の各部局の在籍者数をカウントした。その結果、全学で合計2472人の調査対象者がいることがわかった。

その後、調査対象者在籍数よりも、若干多い部数の調査票を各部局の総務に送付し、全ての調査対象者への配布を依頼した。その際、実際に配布できた部数をカウントしてもらった。その数が次の表での「実際の配布数」である。各部局での配布期間は、平成21年10月28日～30日であり、10月13日現在の調査対象者在籍数から、新たに雇用された者や、逆に退職・休職した者などがあるため、若干であるが人数が異なっている部局がある。その結果、全学で2471人の調査対象者に調査票を配布できた。

回収数は、11月18日までに各部局から男女共同参画推進室へ送付された数であり、全学で1332部である。また、有効回答数は回収部数から白票等3部を除いた数であり、全学で1329部であった。

回収率＝有効回答数(1329)÷実際の配布数(2471)とし、53.8%となった。各部局別の回収率の違いは次の表のとおりである。

## 各部局別配布・回収数と回収率

部 局	送付・回収 依頼先	調査対象 者在籍数 (注 1)	実際の 配布数 (注 2)	回収数 (注 3)	有効回 答数(注 4)	回収率＝ 有効回答 数/実際の 配布数
人文学部	総務チーム	106	102	31	31	30.4%
地域教育文化学部 大学院教育実践研究科	総務チーム	114	115	34	34	29.6%
理学部	事務ユニッ ト	99	96	45	45	46.9%
医学部 大学院医学系研究科 医学部附属病院	総務ユニッ ト労務チー ム	1323	1322	839	838	63.4%
工学部 大学院理工学研究科	企画総務チ ーム	366	361	144	142	39.3%
農学部	学部チーム (総務担当)	120	120	42	42	35.0%
小白川事務部(基盤教育院, 保健 管理センター, 小白川図書館, 附 属博物館を含む)	総括・人事 ユニット	111	107	43	43	40.2%
附属幼稚園, 附属小学校, 附属中 学校(小白川事務部所属の附属 学校職員を含む)	附属学校事 務ユニット	75	77	33	33	42.9%
附属特別支援学校	学校園チー ム	34	34	27	27	79.4%
事務局(監査室, EM室, 国際化 主幹, 教養教育担当部長, 研究プ ロジェクト戦略室, 評価分析室, 大 学連携推進室, 男女共同参画推 進室を含む)	男女共同参 画推進室	124	137	94	94	68.6%
合 計		2,472	2471	1332	1329	53.8%

注 1) アンケート調査配布前の平成 21 年 10 月 13 日現在の常勤、定時・短時間教職員の在籍数

注 2) 調査期間に実際に調査対象者の手元に配布された数

注 3) 各部局より男女共同参画推進室へ送付された数

注 4) 回収数から白票等を除いた数

この部局別回収率をみると、看護職などを含む医学部、大学院医学系研究科、附属病院の回収率(63.4%)と、事務職員の多い事務局の回収率(68.6%)が他よりも高い。このように部局ごとに回収率の差がかなりある。ここから、以下の2つの点が考えられるので、調査結果を読んでもらう際には、それらを考慮して読んでほしい。まず、1つめに、職種によって回答の協力のしやすさに差があり(例、大学教員は回収率が低いなど)、回答に協力しやすい職種が多い部局の回収率が高くなった可能性がある。2つめに、調査表の回収方法は各部局に一任し、各部局の内情にあわせて回収をしてもらったので、回収方法の違いが、部局の回収率の差になった可能性がある。

その他、今回の調査は、山形大学の全ての常勤教職員と定時・短時間勤務教職員に対する全数調査であり、母集団から無作為にサンプルを抽出し、母集団に対して統計的な推定や検定を行うという標本調査ではない。そのため、今回の調査結果を、山形大学の全ての教職員と定時・短時間職員という母集団に対してもいえるかという統計的な推定や検定は基本的には行わない。ただし、分析結果によっては表や本文中で、検定等の結果を記すこととするので、適宜参考としてほしい。

## データ入力と分析

回収した調査票のデータ入力に関しては、平成20年度調査のデータ入力を行った業者に依頼した。データを入力したエクセルファイルを男女共同参画推進室へ納入してもらい、その後、回収した調査票はシュレッダー処分を行った。

データ入力に関しては、適宜対応したが、主な原則として以下のように対応した。

### ・空欄等の処理

無回答(答えるべき質問に答えておらず、空欄) 777

不正回答(答えるべきでない質問に答えている、文字が読めない等) 888

非該当(答えるべきでない質問に答えていないので、空欄) 999

### ・問9から12の4件法の入力について

数字の間に○をつけている場合は、○に近い数字を入力した。数字のちょうど中間に○を付けている場合は、中心に近い数字を選択した。具体的には1と2のちょうど中間の場合は2を、3と4の間の場合は3を入力した。2と3の間の場合は、不正回答888とした。また、1より左の場合は1を、4より右の場合は4を入力した。2つ以上の数字に○をつけている場合、不正回答888とした。

### ・問19 家事の時間等

時間は分に変換して入力した。

### ・問21 理想の子供数について

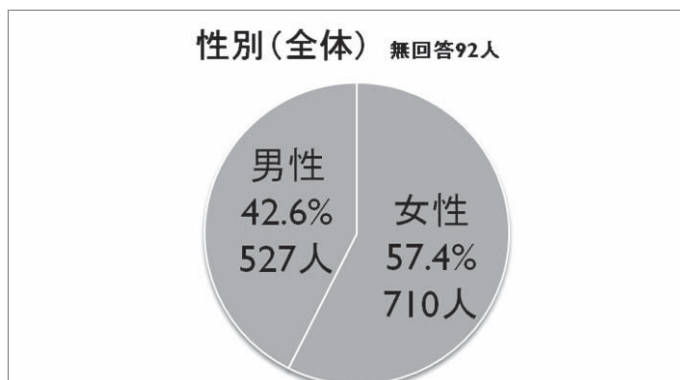
2~3人などの場合は平均をとって2.5人とした。

調査結果の分析は男女共同参画推進室で行った。入力後のデータを整え、統計解析ソフト PASW Statistics 18(IBM SPSS Statistics 18)を使用し、分析を行った。その後、図表等については主に EXCEL を使用し、作成した。

## 2. 回答者のプロフィール

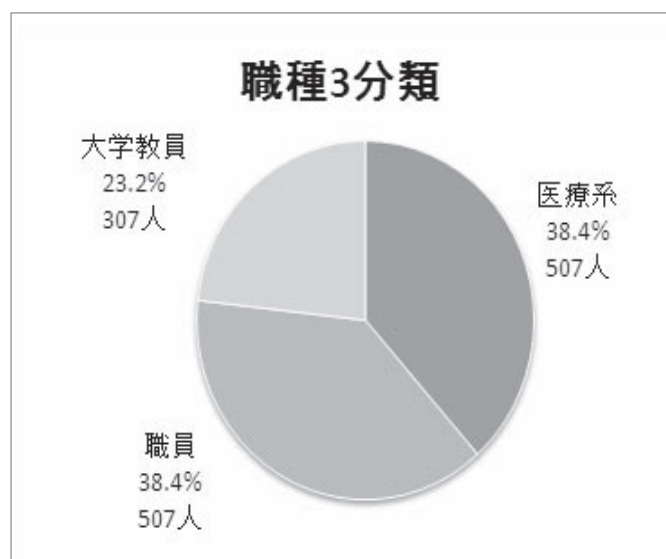
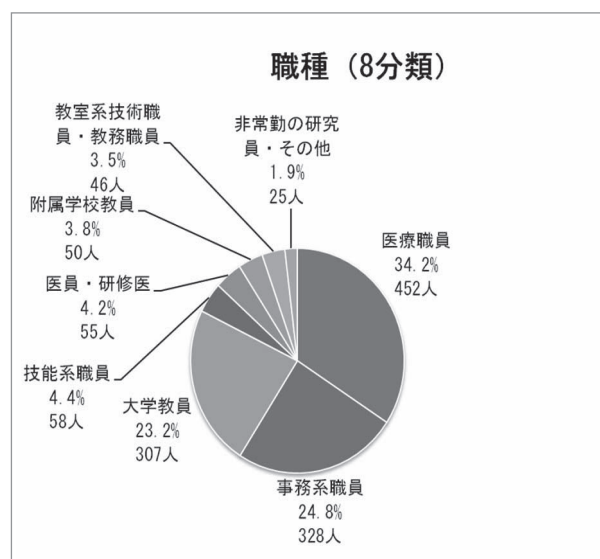
### 性別

問 16 では回答者の性別を聞いている。下図のように女性が 57.4% (710 人)、男性が 42.6% (527 人) となっており女性が多い。ただし、無回答の人も 92 人いたことに注意したい。



### 職種

問 3 では職種 (1 大学教員から 8 非常勤の研究員まで) を聞いている。8 つある職種の分布は左下図のようになり、看護師などを含む医療職員が最も多く 34.2% (452 人)、次に事務系職員 24.8% (328 人)、大学教員 23.2% (307 人) と続く。

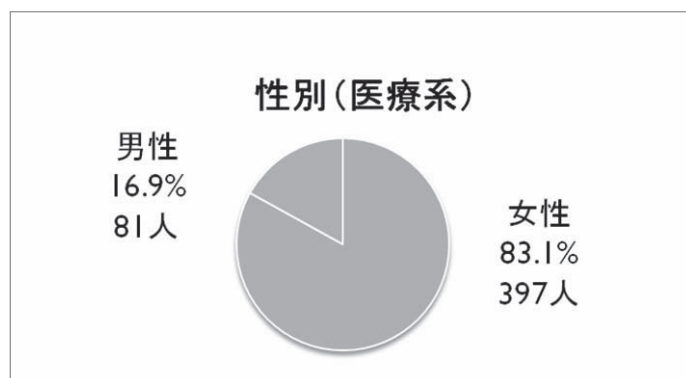


職種 8 分類ではカテゴリーが多く、複雑なので、便宜的に「大学教員」、「医療系」、「職員」の 3 分類にまとめたのが右上図である。「大学教員」は問 3 の職種 8 分類の大学教員そのままを指し、「医療系」は医療職員、医員・研修医をまとめた。また「職員」は「大学教員」と「医療系」以外の全ての職種をまとめたものである。具体的には事務系職員、技能系職員、附属学校教員、教室系技術職員・教務職員、非常勤の研究員・その他の人を「職員」としてまとめている。以下、単に職種という際には、基本的にこの 3 分類の職種を指すこととする。

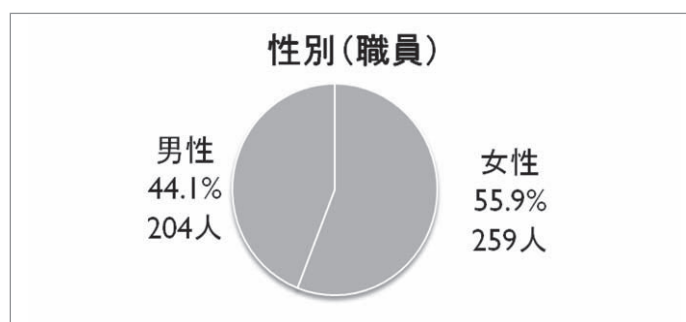
その結果、「医療系」が 38.4% (507 人)、「職員」が同じ人数で 38.4% (507 人)、「大学教員」が 23.2% (307 人) となっている。

## 性別と職種

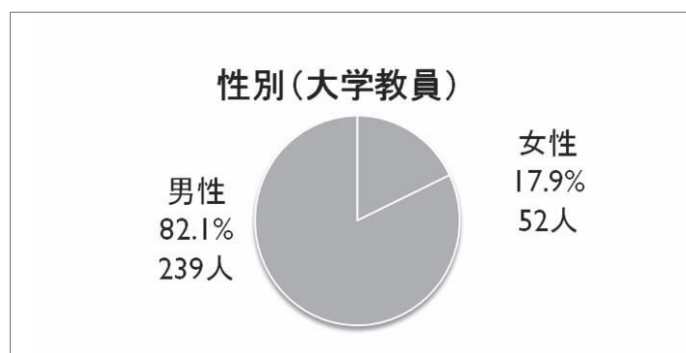
職種ごとに男女の人数をまとめたものが以下の3つの図である。医療系では女性が多く 83.1% (397人) であり、男性は 16.9% (81人) である。



また、職員でも女性が 55.9% (259人) と半数を超え、男性が 44.1% (204人) である。



一方、大学教員では女性は少なく、17.9% (52人) であり、男性が 82.1% (239人) と大半を占めている。参考として、アンケート実施時期と同月の平成 21 年 10 月 1 日現在の山形大学の在籍大学教員数は 825 人であり、女性は 110 人で 13.3% である (山形大学男女共同参画推進室 2009)。アンケートの回答者ではそれよりも若干、女性教員の割合が高くなっていることから、男性教員よりは女性教員の方が調査に協力的であったと考えられる。

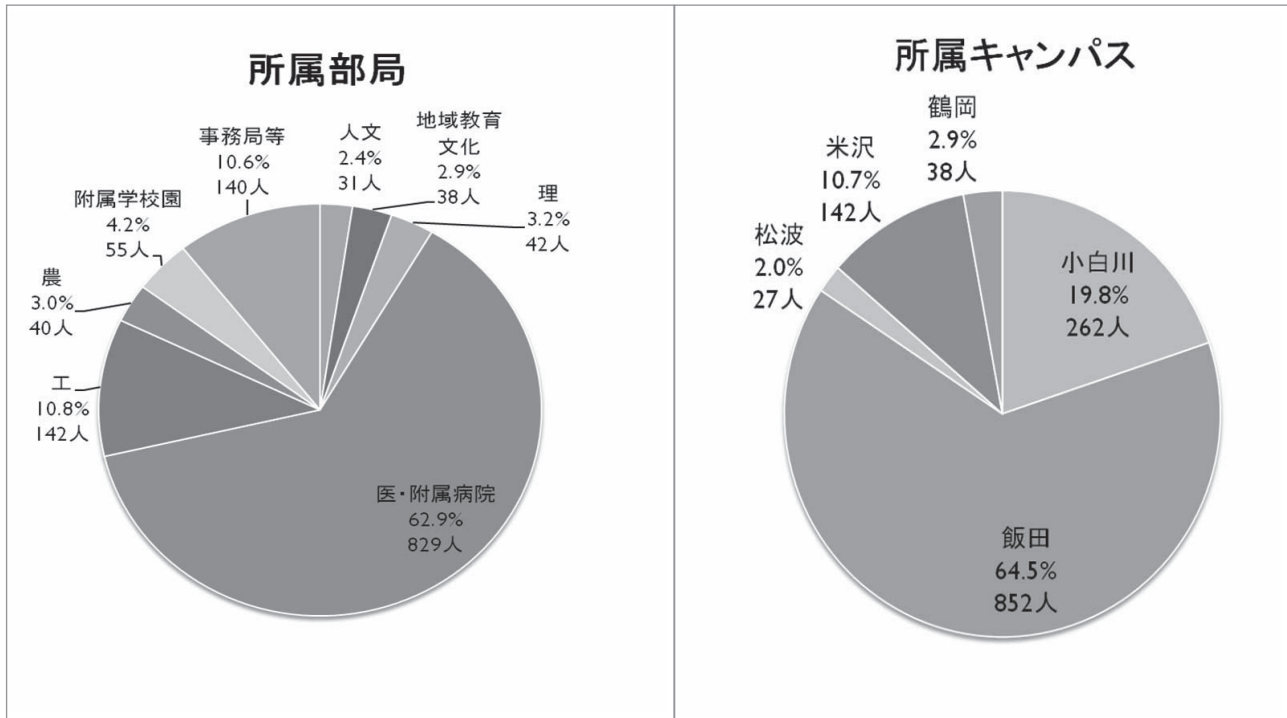


## 所属部局・キャンパス

問 1、2 では所属部局とキャンパスを聞いているが、所属部局は次の図のように、医学部・附属病院 (問 2 の項目 4) が最も多く、62.9% (829人) を占めている。その後、工学部 10.8% (142人)、事務局等 (問 2 の項目 9 事務局・小白川事務部等と 7 基盤教育院) が 10.6% (140人) となっている。このように医学部・附属病院の割合が高いが、その部局に在籍人数が多いことと、回収率も他の部局よりも高かったことを反映している。

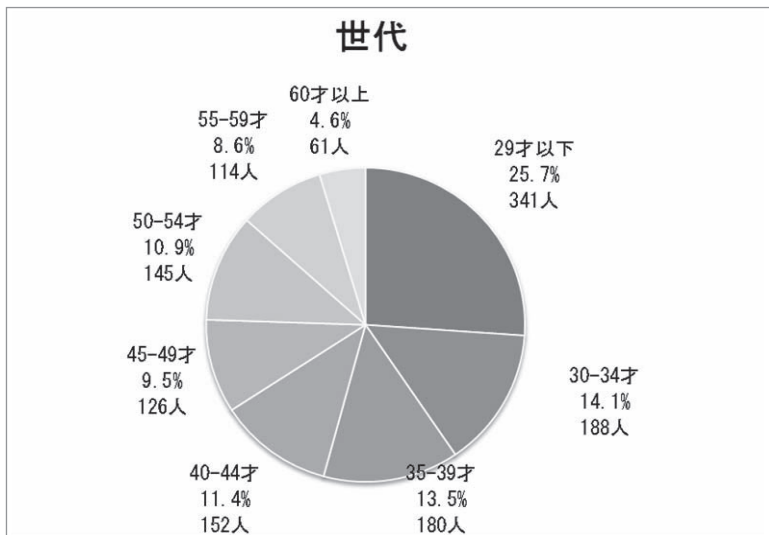
山形大学には、山形市に3つ、また米沢市に1つ、鶴岡市に1つという計5つのキャンパスがあり、キャンパスが分散している。山形市にある3つのキャンパスのうち小白川キャンパスには人文学部、地域教育文化学部、理学部、また事務局等がある。また飯田キャンパスには医学部、附属病院、附属特別支援学校等がある。松波キャンパスには附属幼稚園、小学校、中学校がある。米沢市の米沢キャンパスには、工学部等がある。鶴岡市の鶴岡キャンパスには農学部等がある。

所属部局と同じように、所属キャンパスでも医学部、附属病院がある飯田キャンパスが64.5%（852人）となっており、小白川キャンパスが19.8%（262人）、米沢キャンパスが10.7%（142人）、鶴岡キャンパスが2.9%（38人）、松波キャンパスが2.0%（27人）と続く。

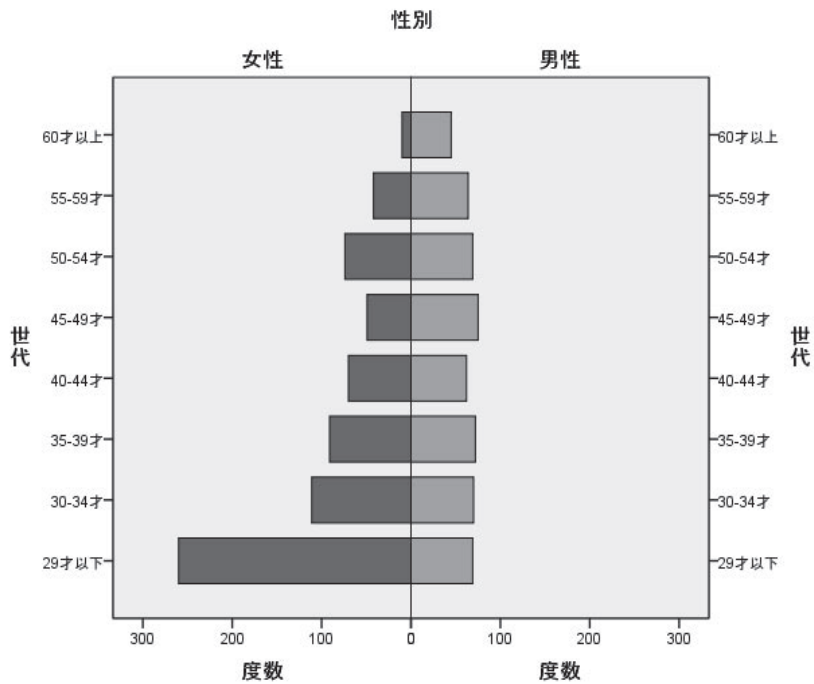


**年齢構成**

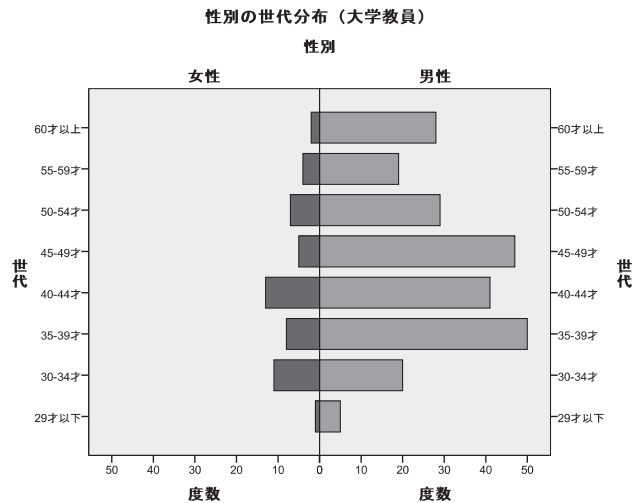
問16では5歳刻みで年齢を聞いている。回答者の世代をまとめた下図によると、20代から30代という若い世代が山形大学の大半を構成していることがわかる。



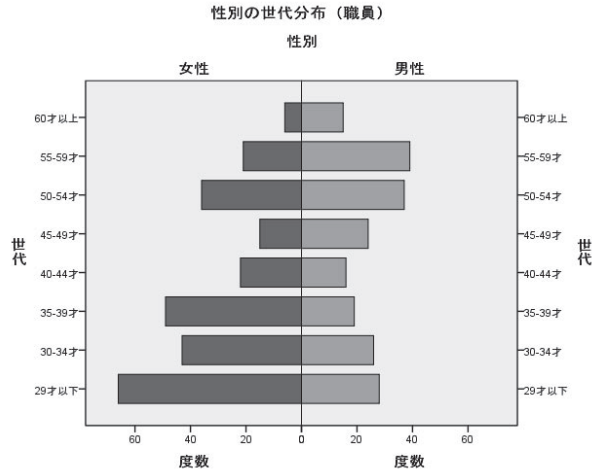
性別に世代をみると次の図のようになる。男性では全ての年代にほぼ均等にばらついているのに対し、女性では20代が非常に多く、また30代も比較的多いことがわかる。これは以下で述べるように、医療系の職員と、職員において若い世代の女性が多いことを反映している。



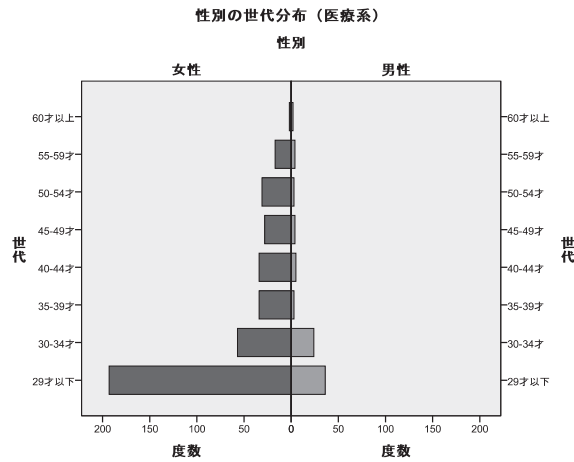
職種別にみると、大学教員では、どの世代においても男性が多い（以下の3つの図では職種によって度数（人数）の軸が違うことに注意してほしい）。



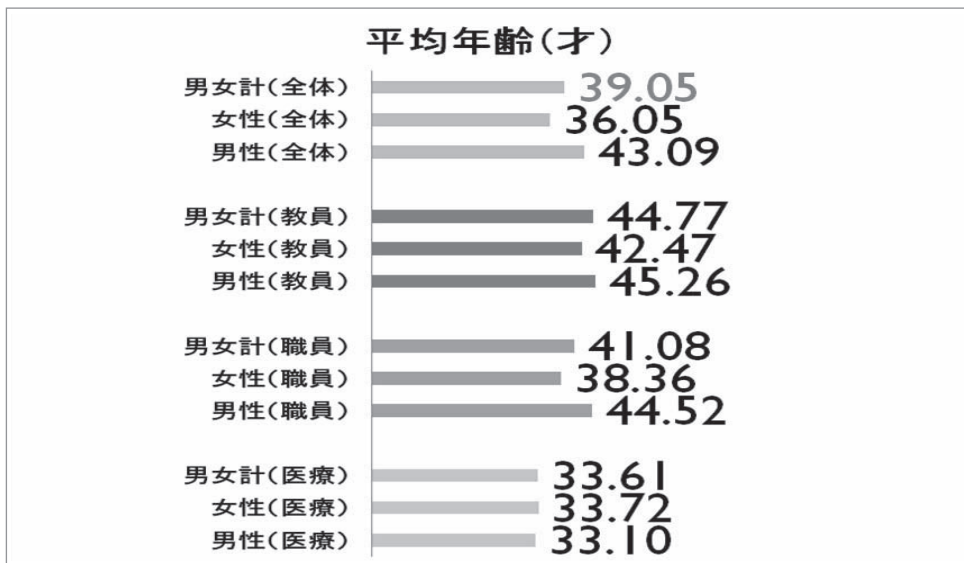
職員では、合計でも女性の方が男性よりも多いが、特に44才以下の若い世代では女性が多い。これらの世代は1985年（昭和60年）改正の男女雇用機会均等法以後の世代とほぼ一致する。一方で、45才以上の世代には比較的男性の職員が多い。



医療系の職員では、どの世代でも女性が大半を占めるが、特に 20 代の若い女性が非常に多い。



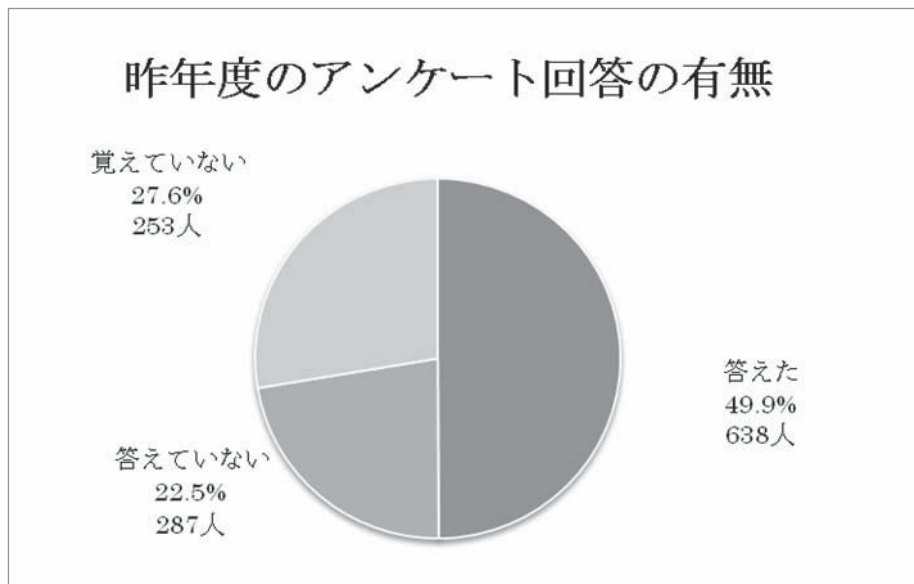
世代を年齢へ変換（29 才以下=25 才、30-34 才=32 才、35-39 才=37 才、40-44 才=42 才、45-49 才=47 才、50-54 才=52 才、55-59 才=57 才、60 才以上=60 才）し、職種別・性別に平均年齢を求めると以下の図のようになる。大学全体では平均年齢が 39.05 才となり、女性は 36.05 才、男性は 43.09 才である。





### 昨年度のアンケート回答の有無

山形大学男女共同参画推進室では、前身の山形大学男女共同参画推進準備室でも昨年度（平成 20 年）に同様のアンケート調査（山形大学男女共同参画推進準備室 2009）を行っているが、問 29 では、昨年度のアンケート回答の有無を聞いている。今年度の調査に回答した人のうち 49.9%（638 人）が昨年度のアンケート調査に回答していた。



### 3. ライフについて

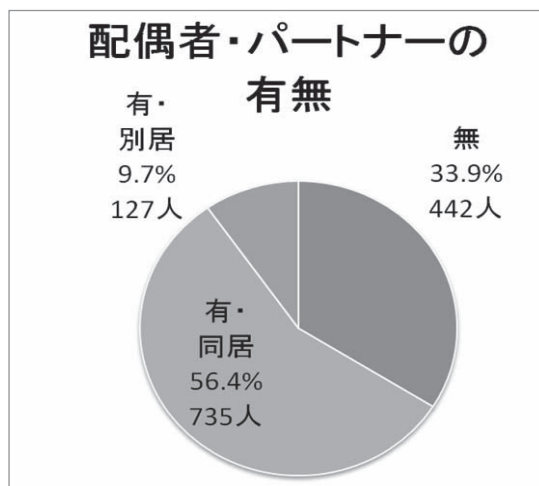
#### 婚姻状況

問 18 では、配偶者・パートナーの有無、また配偶者・パートナーと一緒に暮らしている（同居）か、別に暮らしている（別居）か、を聞いている。

回答のうち、配偶者・パートナーはいないという独身の人が、33.9%と 3 分の 1 強である。配偶者・パートナーが有・同居という人が 56.4%、有・別居が 9.7%と 1 割近くいる。

特徴的なのは「有・別居」が 9.7%というように配偶者・パートナーと離れて暮らしている教職員が多い点である。

定義が違い、また少し古いのであくまで参考でしかないが、独立行政法人労働政策研究・研修機構の「単身赴任割合」（雇用者の単身世帯数（有配偶）を雇用者総数で除したものであり、雇用者における単身赴任者の割合を示す）では、1997 年で男性の雇用者の 2.1%が、女性の雇用者の 0.5%が単身赴任である（独立行政法人労働政策研究・研修機構 2009：46-49）。

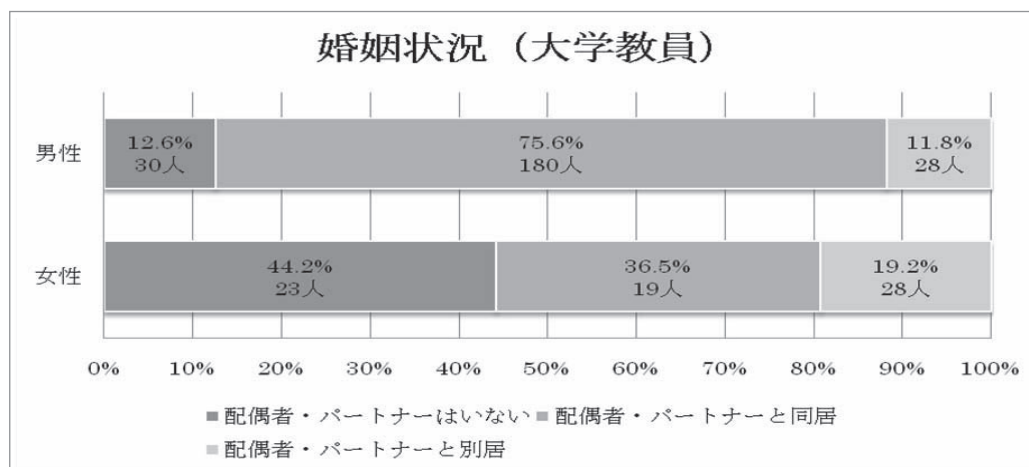


さらに、大学教員の婚姻状況を性別にみたのが、次の図である。まず、男性 11.8%、女性 19.2%と別居の割合がさらに高い。また、女性では男性に比べて、より独身また別居が多いことがわかる。男性の大半、75.6%が有・同居であるのに対して、女性の 44.2%が独身であり、また、19.2%が配偶者・パートナーと別居である。

男女ともに男性 11.8%、女性 19.2%と別居の割合が高いが、この数値は全国の大学教員と比較しても多いのだろうか。参考として、教育社会学者の米澤彰純らが 2006 年に全国の国公私立大学 23 大学の大学教員に対して行った調査（米澤彰純編 2007）では、配偶者・パートナーと主たる居住地の都道府県が異なる人の割合は、男性は全国で 8.0%となっている。大学の所在地域によって差があり、都心大学や郊外大学では 5%前後、地方都市大学、学園都市大学では 10.4%、11.8%となっている。また女性については先述の調査では全国で 18.9%、都心の大学などの地域による有意な差は見られなかった（米澤 2007：111）。

山形大学は、男性で11.8%なので、地方都市大学、学園都市大学とほぼ同じ水準であり、女性については、全国で18.9%、山形大学で19.2%なのでほぼ同水準である。このように、大学教員において配偶者・

パートナーとの別居が多いのは、山形大学だけでなく全国の大学教員、特に男性では地方の大学の教員に共通して見られる傾向であると考えられる。

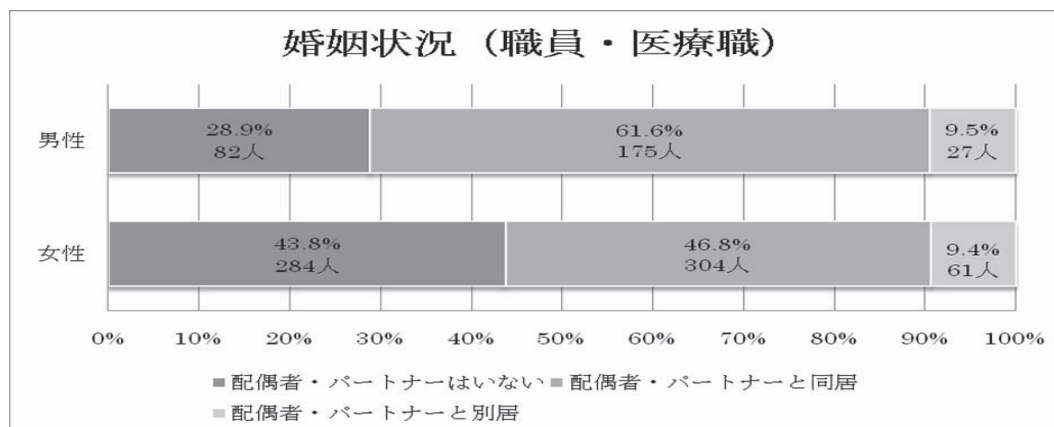


$\chi^2 = 34.675$   $p < 0.01$

婚姻については、年齢が若ければ未婚者が多いので、世代別に分析する（回答者の人数がほぼ半数に分かれる45才を便宜的に使用）と、どちらの世代でも男性よりも女性に独身と別居の割合が高い。

スペースの都合上、図は省略するが、45歳未満では、女性の独身が54.5%（18人）、有・同居が30.8%（10人）、有・別居が15.2%（5人）なのに対して、男性の独身が22.6%（26人）、有・同居が70.4%（81人）、有・別居が7.0%（8人）となっており、女性に独身と、有・別居が多い。また45歳以上でも同様に、女性の独身が27.8%（5人）、有・同居が44.4%（8人）、有・別居が27.8%（5人）なのに対し、男性の独身が3.3%（4人）、有・同居が80.5%（99人）、有・別居が16.3%（20人）であり、どちらの世代でも女性に独身と別居の割合が高い。

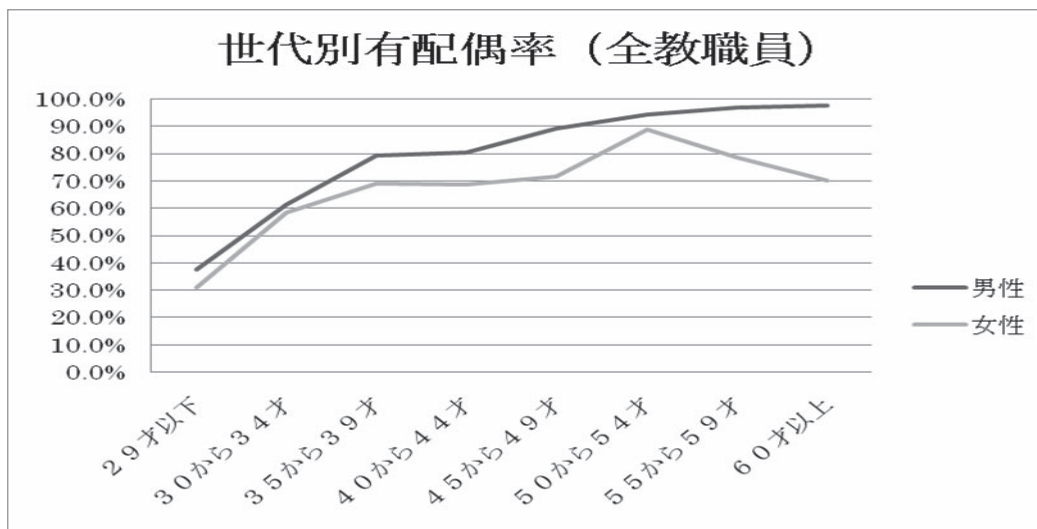
大学教員以外の職員と医療系についての次の図でも、女性に独身が多いが、これはこれらの職種で女性に若い世代が多いことを反映しているだろう。また、有・別居については男女ともに1割弱であり、男性で9.5%、女性で9.4%となっている。



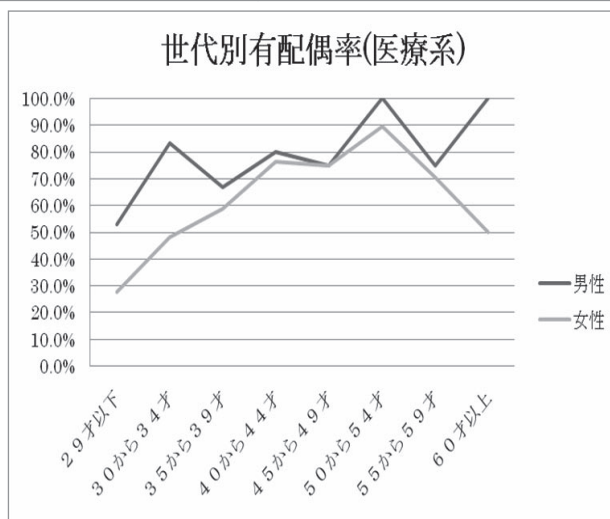
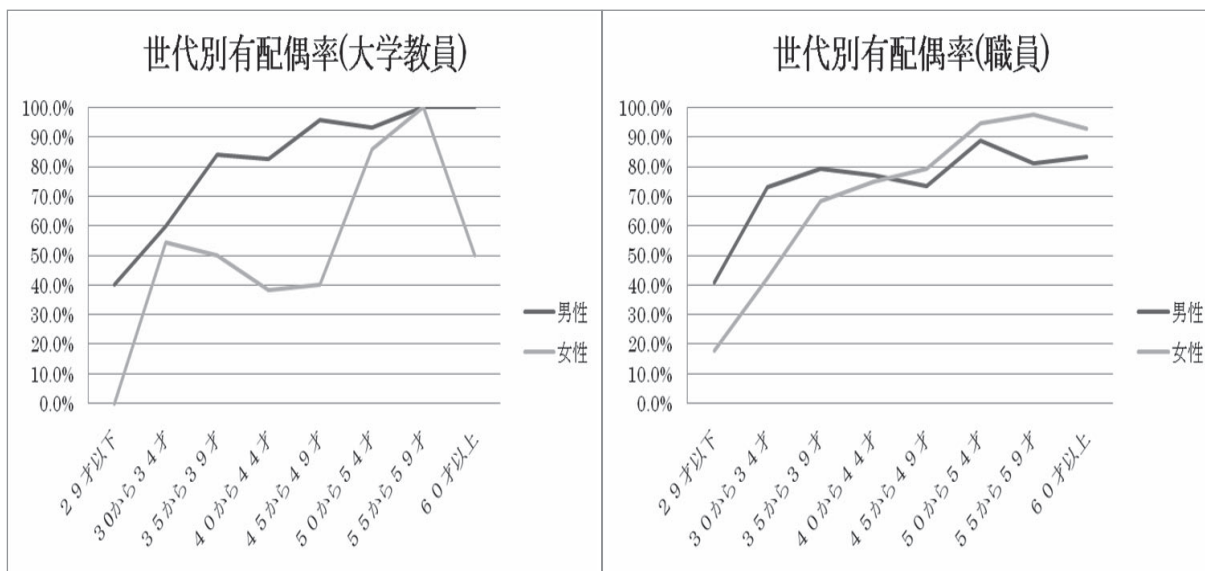
$\chi^2 = 19.566$   $p < 0.01$

次に、世代別に有配偶率（配偶者・パートナーと同居と配偶者・パートナーと別居の合計）をみると、全教職員で29才以下では男性37.7%、女性30.9%となる。30から34才では男性61.4%、女性58.3%、35から39才では男性79.2%、女性68.9%、40から44才では男性80.3%、女性68.6%、45から49才では男性89.3%、女性71.4%、50から54才では男性94.2%、女性88.9%、55から59才では男性96.9%、

女性 78.6%、60 才以上では男性 97.7%、女性 70.0%となる。全世代合計では男性 78.6%、女性 56.2%となっている。ほぼ右肩上がりになっているが、どの世代でも男性の有配偶率が高くなっている。



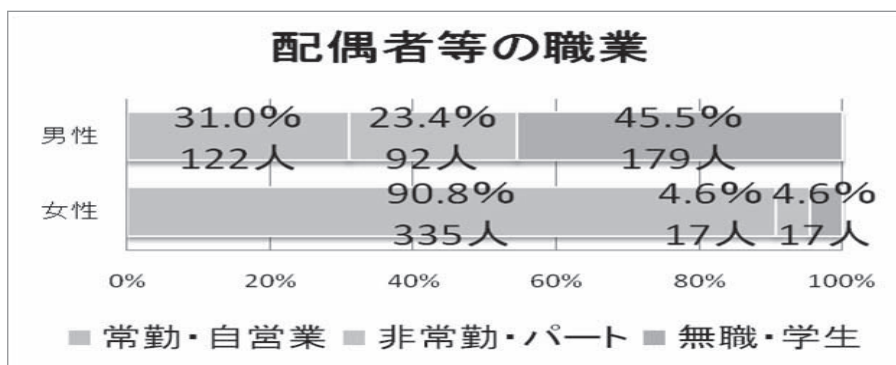
職種別では以下の3つの図になる。職種、性別に関わらず20代から50代までがおおむね右肩上がりになるが、大学教員の女性では35から49才まででは有配偶率は上がっていない。



### 配偶者等の職業

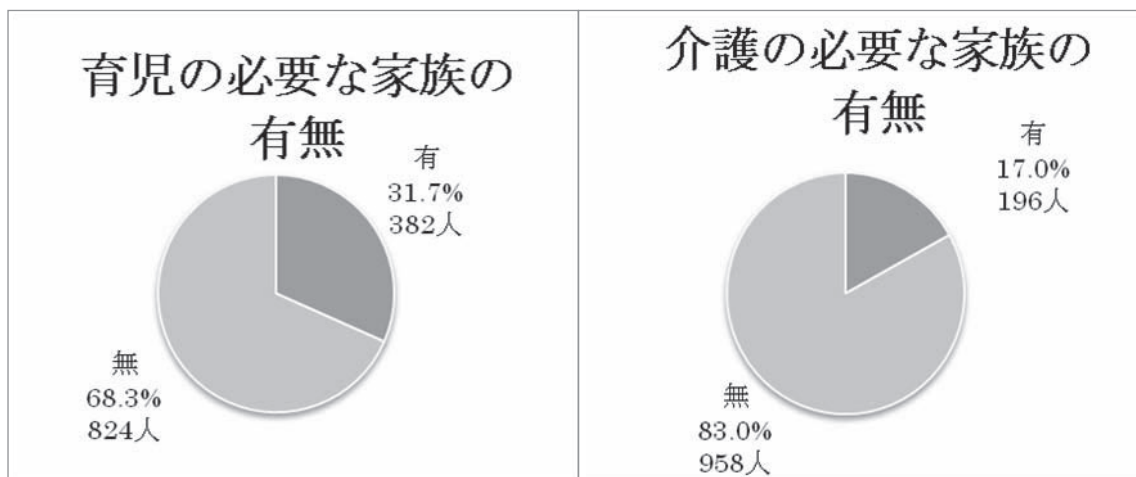
問 18 では配偶者・パートナーがいる人に対して、配偶者・パートナーの就職状況を聞いている。男女別に分けたものが下図である。男性の配偶者・パートナーの半数近く、45.5%が無職・学生等であり、常勤・自営業は31.0%である。対して女性の配偶者・パートナーの4.6%のみが無職・学生等であり、常勤・自営業が90.8%と9割以上を占める。

また、大学教員、職員、医療系という職種別での分析でも、全ての職種で男性の配偶者・パートナーには無職・学生が多く、女性の配偶者・パートナーには常勤が多い。



### 家事・育児・介護の時間

問 19 では平日の家事等（家事・育児・介護）の時間と育児や介護が必要な家族の有無を聞いている。育児に必要な家族については、31.7%（382人）が有となっている。また介護については、17.0%（196人）が有と答えている。

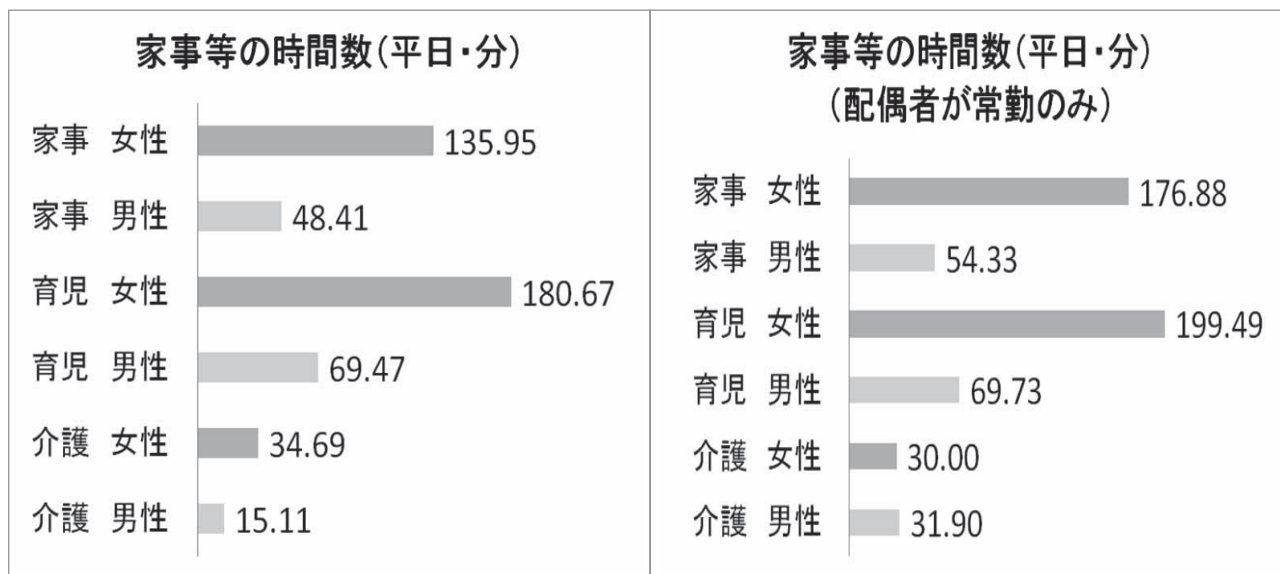


また、家事・育児・介護などの家事労働（ケア労働）については、多くの先行調査で、女性が多くを負担していることが指摘されている。それら全てを挙げるまでもないが、例えば、NHK放送文化研究所が2005年に行った国民生活時間調査（NHK放送文化研究所2006：36-37）では、家事（具体的には炊事・掃除・洗濯をする・買い物をする・子供の世話をする・その他の家事をする（片づけ物・用事・病人の世話など））の時間に、男女の差がみられる。成人女性では平日は平均4時間26分、約266分、有職女性は3時間18分、約198分家事を行っている。成人男性の平均は46分と大きな差がある。

本調査の結果をまとめたものが、次の図である。結果、山形大学でもやはり同様に、男女で比較する

と、家事・育児・介護ともに女性が男性よりも、長時間これらの家事労働を担っていることが分かる。

具体的には、家事は女性の平均が 135.95 分、2 時間 15 分ほどなのに対して、男性が 48.41 分と 1 時間に満たない ( $t(865.823) = 16.475$   $p < 0.01$ )。育児・介護については、育児・介護が必要な家族がいる人だけに聞いている。育児は女性の平均が 180.67 分、約 3 時間なのに対して、男性が 69.47 分、1 時間強である ( $t(338.578) = 6.119$   $p < 0.01$ )。介護は、女性の平均が 34.69 分なのに対して、男性が 15.117 分となっている ( $t(179.742) = 2.322$   $p < 0.05$ )。



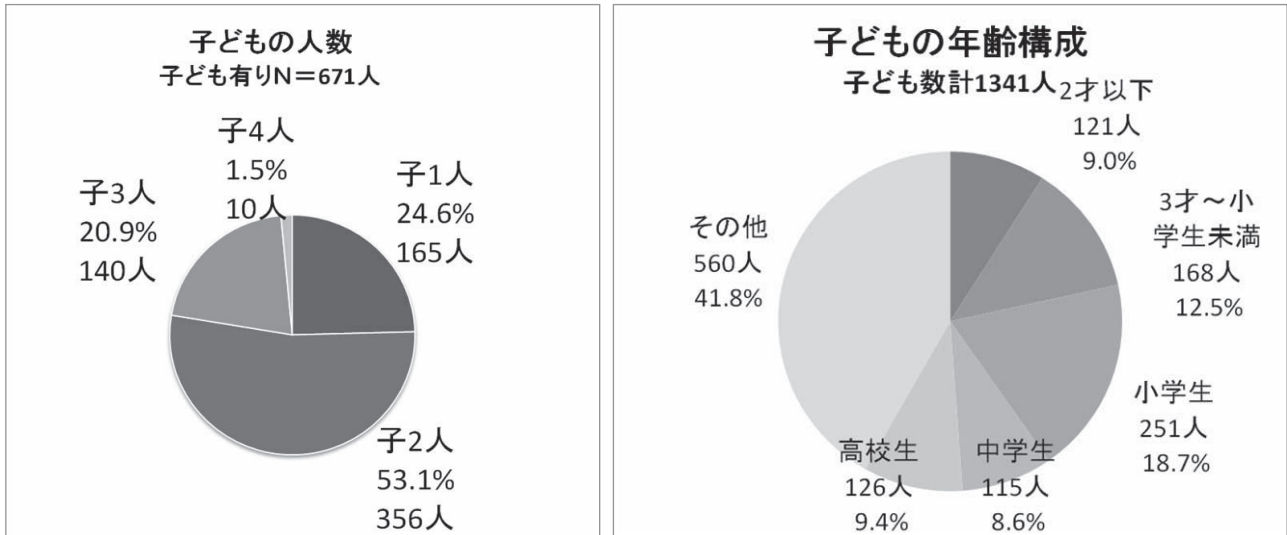
左上の図は、配偶者・パートナーがいない独身の人、また配偶者・パートナーがいて共働きの人、また妻や夫が専業主婦（主夫）という人など全ての人を含んでいる。配偶者等が専業主婦（夫）であるカップルは主婦（主夫）が家事役割を長時間分担していることが多いと推測されるので、共働きの男女での比較をするために、右図では、配偶者が常勤である人の家事（家事・育児・介護）の時間を男女別に見ている。今回の山形大学の調査では、本人が常勤か定時・短時間勤務職員かを区別していないので、配偶者が常勤で働いている人を取りだし、便宜的に共働きカップルとしている。

その結果、家事は女性の平均が 176.88 分、3 時間弱なのに対して、男性が 54.33 分と 1 時間に満たない ( $t(383.350) = 13.567$   $p < 0.01$ )。育児は女性の平均が 199.49 分、3 時間を超えるのに対して、男性が 69.73 分、1 時間強である ( $t(135.114) = 6.131$   $p < 0.01$ )。しかし、介護については事情が異なっており、女性の平均が 30.00 分なのに対して、男性では 31.90 となっており、女性の方が男性よりも介護を長時間担っているとはいえない ( $t(63) = 0.1096$  有意差なし)。

### 子ども数と理想の子ども数

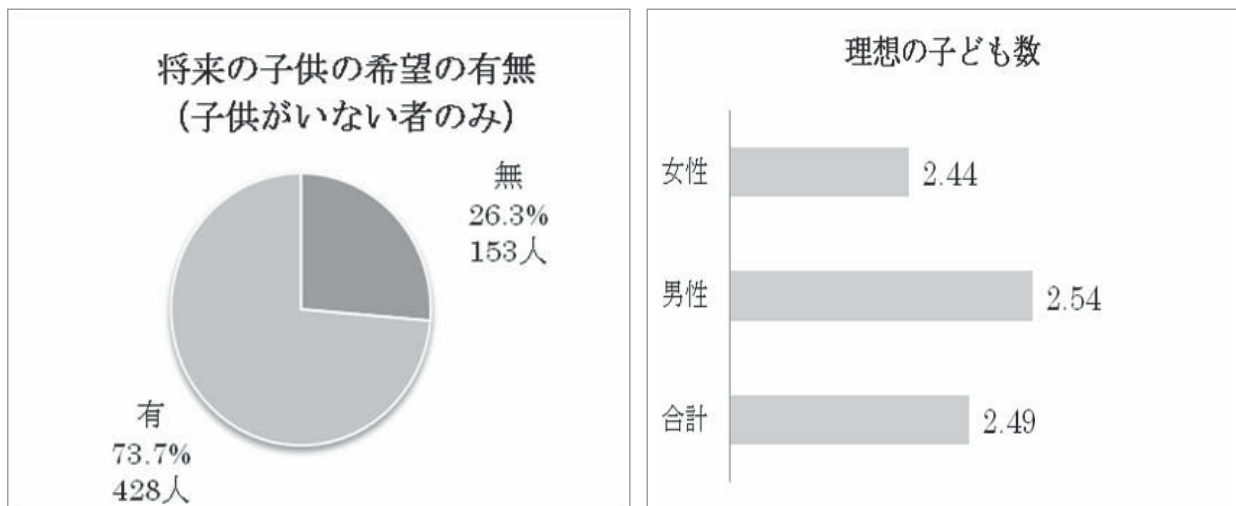
問 20 では子どもの有無と人数を聞いている。子どもを持っていると回答した人は 671 人おり、それぞれの人の子どもの人数をまとめると下図のようになる。2 人子どもがいるという人が 53.1% (356 人) と最も多くなっている。平均の子ども数は 1.99 人と 2 人弱である。また、問 20 の 2 では、子どもの年齢別に人数を聞いているが、その結果を表わしたのが次の図である。ここからは山形大学の教職員の子どもには、少なくとも 1341 人程度の人数がいることがわかる。本調査の回収率は 53.8%なので、さらに多くの子どもがいると推測される（ただし、山形大学の教職員同士のカップルの子どもは二重にカウントされている可能性がある）。

山形大学男女共同参画推進室では、平成 21 年度から小白川キャンパスにおいて、満 1 歳から小学生以下の託児を行う「託児サポーター制度」を開始した。全キャンパスでは、子どものうち、2 歳以下が 9.0% (121 人)、3 歳から小学生未満が 12.5% (168 人)、小学生が 18.7% (251 人) となっており、3 カテゴリー合計で 40.2%、540 人程度の子どもがいると推測される。小白川キャンパスでは、2 歳以下の子どもが 22 人、3 歳から小学生未満が 26 人、小学生が 48 人、合計で 96 人程度の子どもがいると推測される。



子どもがいない人に対しては、将来子どもを持つ希望の有無を聞いているが、73.7% (428 人) が希望有と答えており、子どもがいない人でも多くの人々が将来子どもを持つ希望していることが分かる。

問 21 では子どものいる人、また将来持つ希望のある人に、理想の子ども数を聞いている。合計で 2.49 人となり、実際の平均子ども数は 1.99 人であるので、理想の子ども数はもう少し多いようである。男女別にみると、女性 (2.44 人) よりも男性 (2.54 人) と、男性の方が理想の子供数が若干多い ( $t(729.904)=2.056$   $p<0.05$ )。

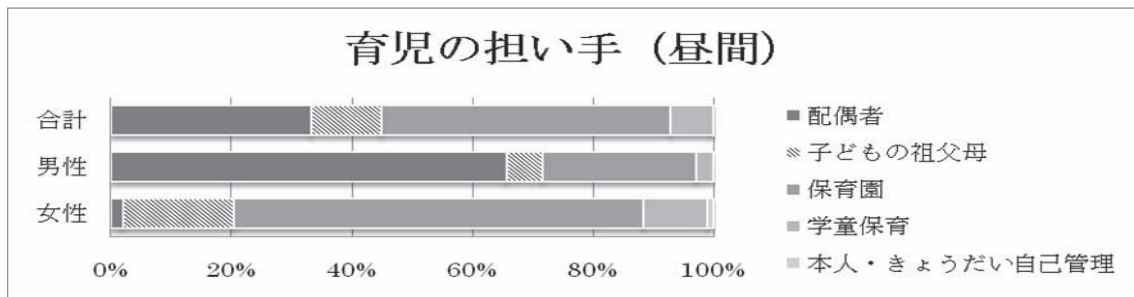


#### 子育ての状況

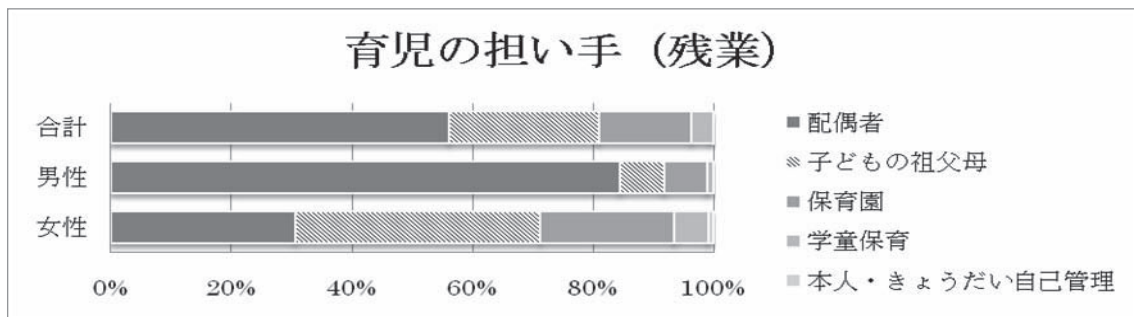
問 25 から 28 では小学生未満の就学前の子どもがいる人のみに、子育てについて聞いている。問 26 では、現在の主な育児の担い手を昼間と残業の場合に分けて聞いている (詳しい数は資料の基礎集計表の問 26 参照)。

これらから分かるのは、やはり「保育園」、「配偶者」が主な育児の担い手であり、それを「子どもの祖父母」が補完しているということである。また、男性の「配偶者」(妻)が主な育児の担い手であるのに対して、多くの女性にとって「配偶者」(夫)は主な育児の担い手ではない。そのため、女性にとっては昼間、また残業の場合ともに「保育園」と「子どもの祖父母」が重要な育児の担い手となっている。

昼間についてみると、男女計(223人)では「保育園」が48.0%、「配偶者」が33.2%、「子どもの祖父母」が11.7%と続く。男女別では、男性(102人)では「配偶者」(妻)が65.7%、「保育園」が25.5%、「子どもの祖父母」が育児を行っているのに対して、女性(103人)では「配偶者」(夫)が育児を行っているという人は1.9%に過ぎず、「保育園」が68.0%と大半を占めている。また、「子どもの祖父母」も比較的多く18.4%が選択している。



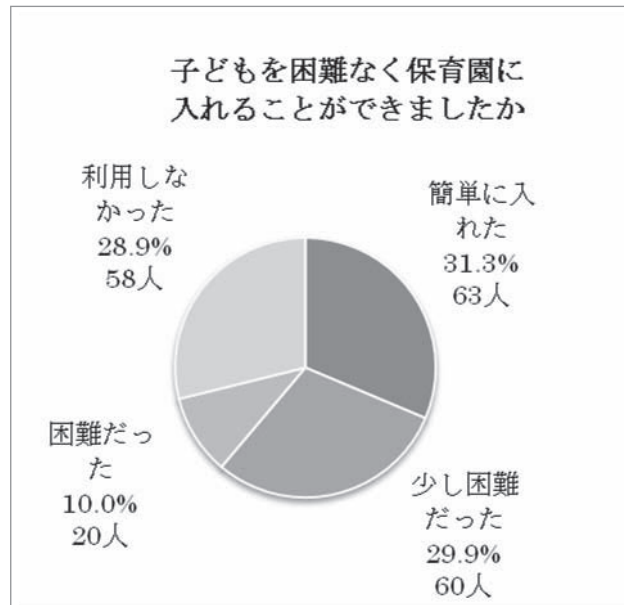
残業をする場合では、男女計(221人)では「配偶者」が56.1%、「子どもの祖父母」が24.9%、「保育園」が15.3%と続く。男女別では、男性(97人)では「配偶者」(妻)が84.5%と大半を占める。女性(108人)では「子どもの祖父母」が40.7%と最も多く、「配偶者」(夫)が30.6%と続く。残業の場合「保育園」に預けている人も22.2%いる。



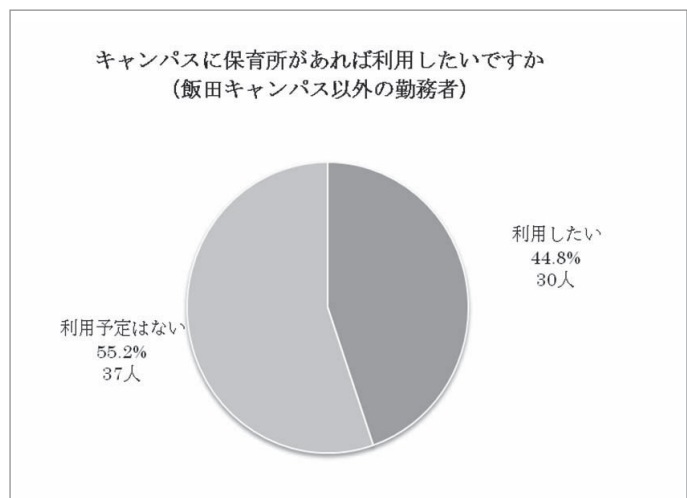
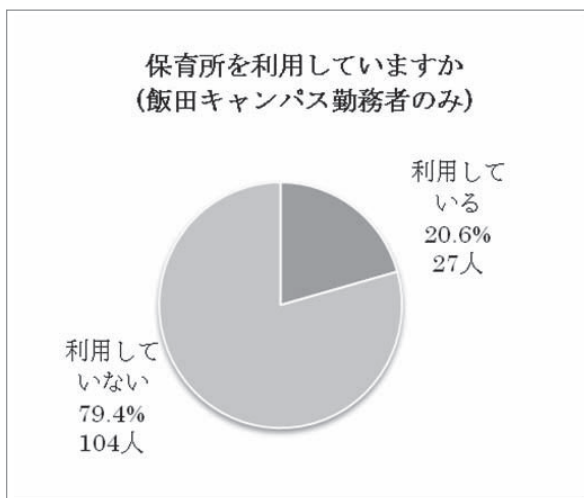
上記の分析のように、多くの親にとって、また特に女性にとって重要な育児の担い手である保育園であるが、子どもを保育園に預けたいという時には、困難なく保育園に預けることはできるのだろうか。

問25では子どもを困難なく保育園に入園することができたかを聞いている。「簡単に入れた」という人が31.3%いる。一方で「少し困難だった」人が26.9%、「困難だった」という人が10.0%となり、合わせて36.9%の人が困難を感じており、決して困難なく保育園に預けることができていないわけでもない。

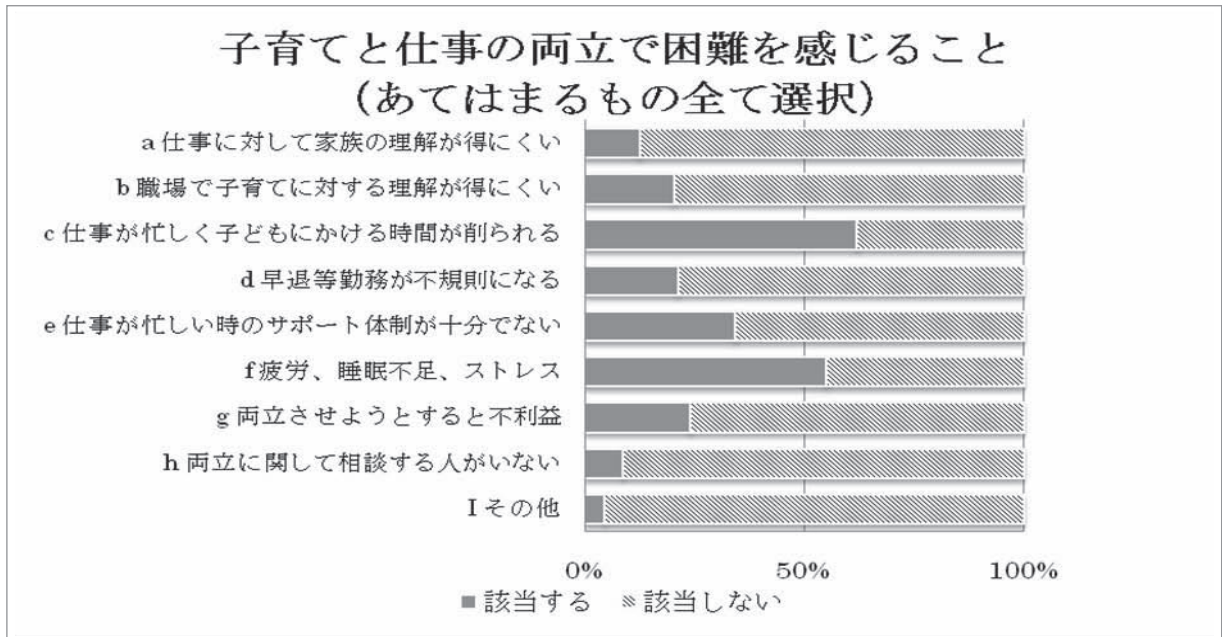




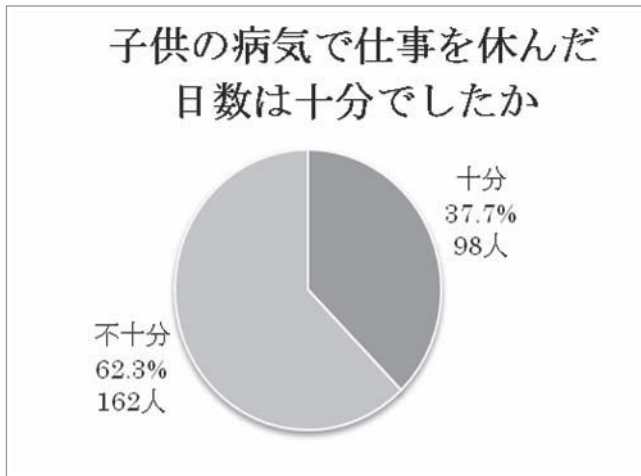
問 28 では山形大学には医学部・附属病院のある飯田キャンパスに山形大学医学部保育所があるが、回答者のうち利用している人は 20.6% (27 人) であった。また、飯田キャンパス以外の人に、勤めているキャンパスに保育所があれば利用したいかを聞くと、44.8% (30 人) が利用したい、55.2% (37 人) が利用予定は無いと答えている。



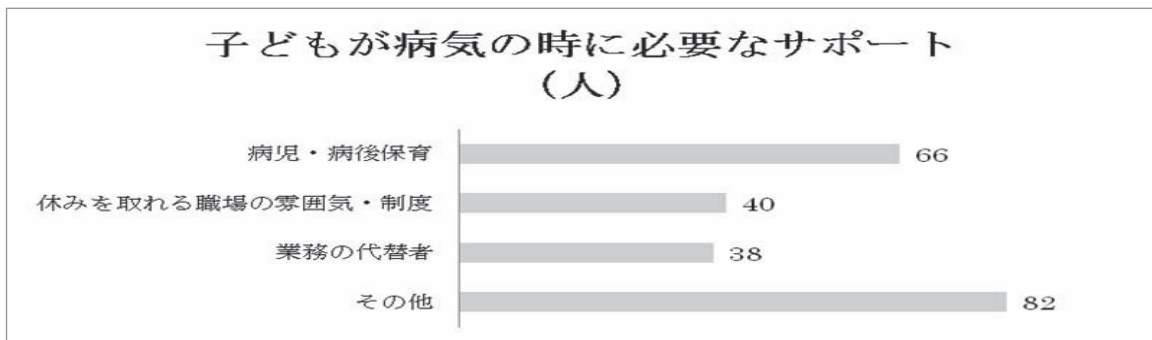
問 27 では子育てと仕事を両立をするうえで困難を感じることを聞いている。その結果、216 人回答中「c 仕事が忙しく子供にかかる時間が削られる」が 62.0% (134 人) が該当、「f 疲労、睡眠不足、ストレス」が 55.1% (119 人) が該当、また「e 仕事が忙しい時のサポート体制が十分でないという」が 34.3% (74 人) と多い。また、男女別でみると、特に「f 疲労、睡眠不足、ストレス」や「d 早退等で勤務が不規則になる」を女性が男性よりも多く選ぶ傾向があった。



問 22 から 24 では、中学生以下の子どもを持つ人のみに、子どもの病気によって仕事を休む日数等を聞いている。仕事を休んだ日数では年平均で 2.32 日となっている。一方、その日数で十分だったかをたずねたところ、十分だったという人が 37.7% (98 人)、十分でなかったという人が 62.3% (162 人) となっている。十分でなかった人のみに対して必要な日数を聞くと、平均 7.72 日となっている。



問 24 の自由記述では、病気の際に必要なサポートとして病児・病後児保育を求める声、子供の病気を理由に仕事を休める職場の雰囲気や制度を求める声も多かった。さらに自分が休んだ場合の仕事の代替者を求める声も多い。



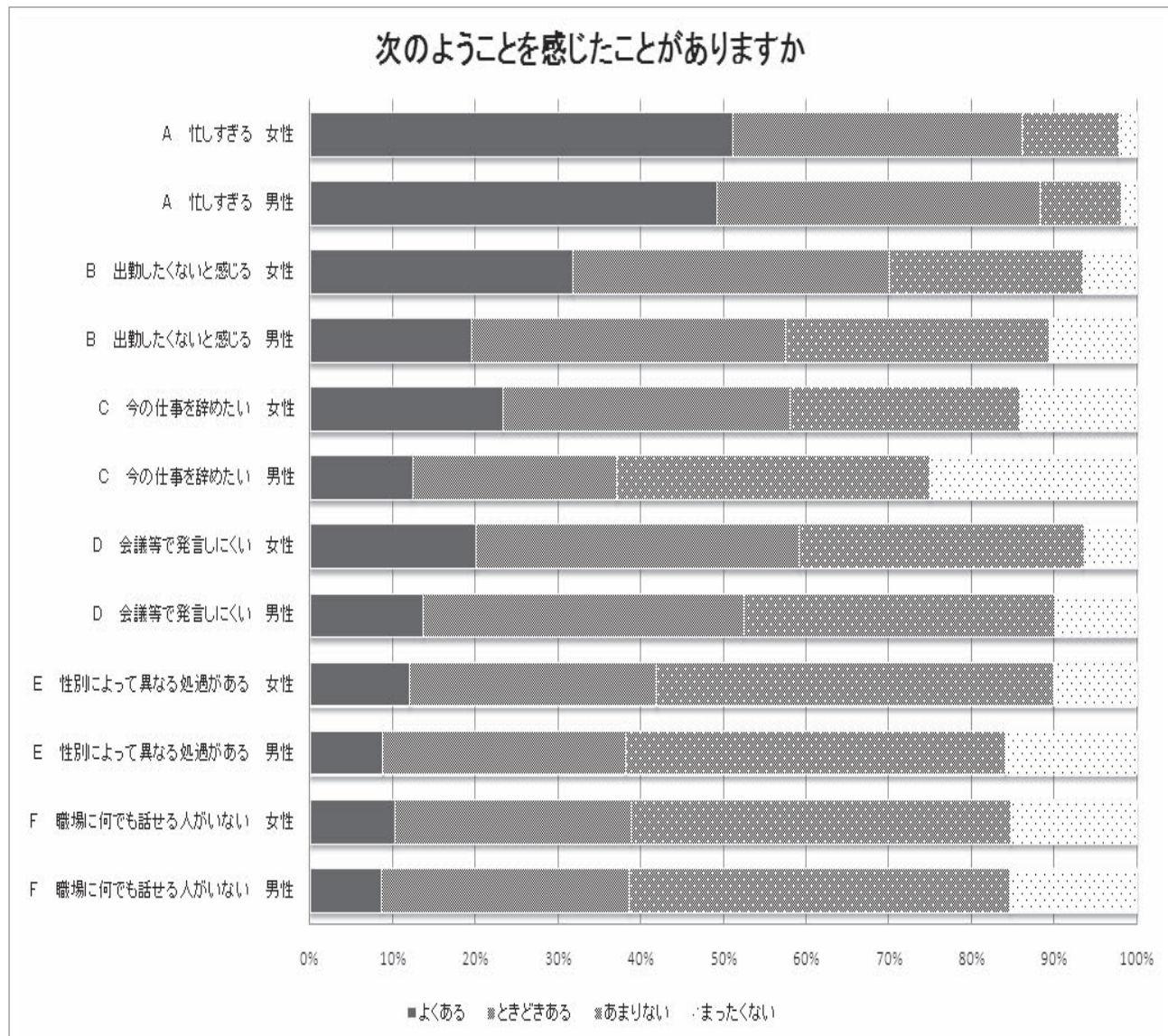
## 4. ワークについて

### 仕事上のストレス

問 12 では、仕事上のストレスに関することの経験の有無を聞いている。結果を男女別にまとめたのが以下の図である。まず、男女ともに、A「忙しすぎる」と感じていることがわかる（女性「よくある」が51.1%、「ときどきある」が35.0%、男性「よくある」が49.1%、「ときどきある」39.0%）。

また、B「出勤したくないと感じる」（女性「よくある」が31.7%、「ときどきある」が38.2%、男性「よくある」が19.5%、「ときどきある」が38.0%）、D「会議等で発言しにくい」（女性「よくある」が20.1%、「ときどきある」が39.0%、男性「よくある」が13.6%、「ときどきある」が38.8%）について「よくある」、「ときどきある」と回答する人が多く、仕事上のストレスを感じる人が多いようである。

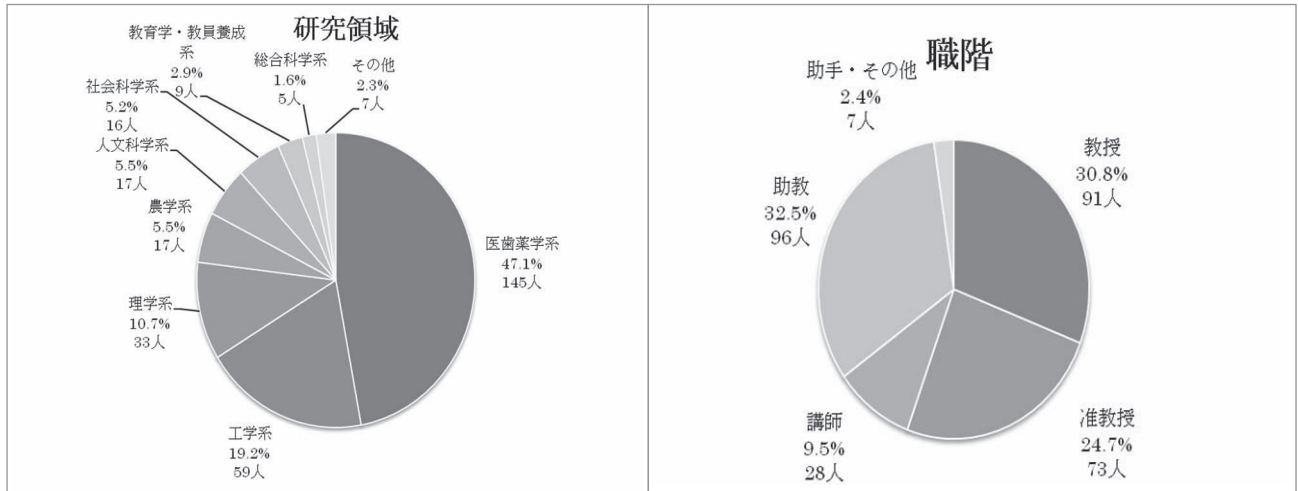
さらに女性は男性よりも、B「出勤したくないと感じる」、C「今の仕事を辞めたい」、D「会議等で発言しにくい」、E「性別によって異なる処遇がある」と感じる傾向がある。特にC「今の仕事を辞めたい」については男女差が大きい（女性「よくある」が23.3%、「ときどきある」が34.7%、男性「よくある」12.4%、「ときどきある」が24.7%）



大学教員の研究・業務環境

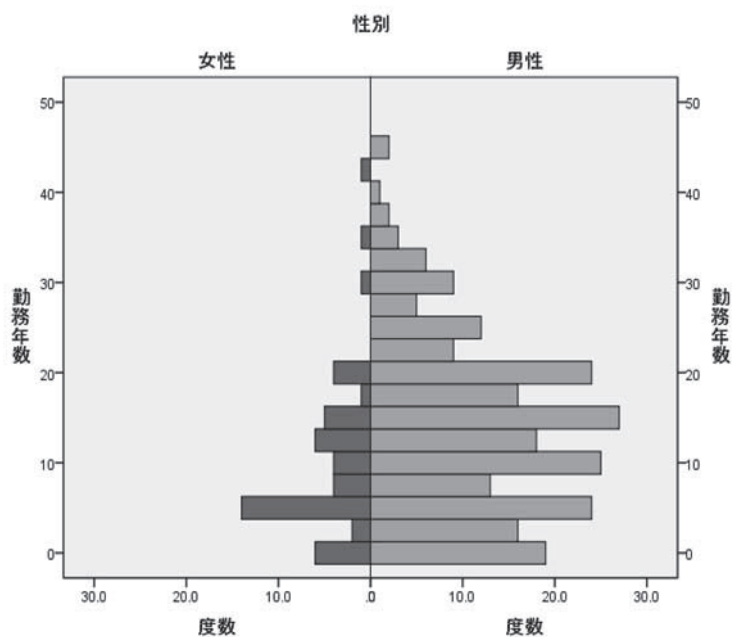
問 4 では大学教員、非常勤の研究者に、研究領域を聞いているが、その結果をまとめたものが左下の図である。医歯薬学系が 47.1% (145 人) と半分近くを占め、工学系 19.2% (59 人)、理学系 10.7% (33 人) が続く。

問 5 から問 7 では大学教員のみ職階や、教育研究活動について聞いている。問 5 の職階についての右下図では、教授と助教の占める割合が高い。

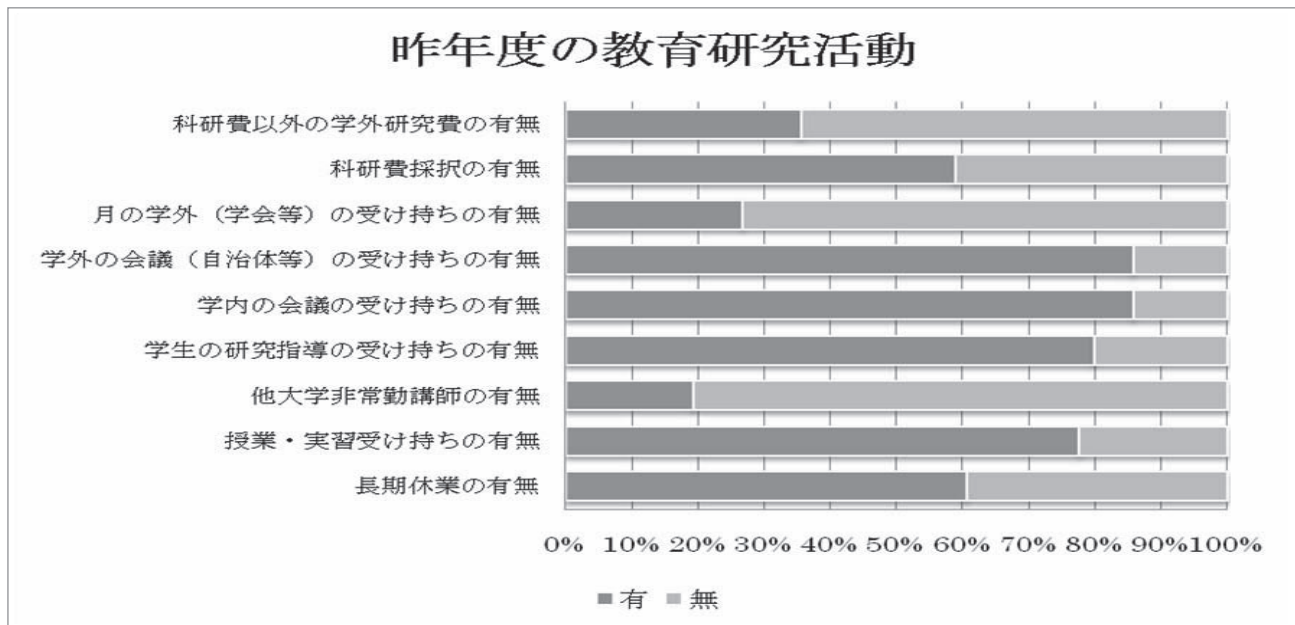


問 6 では大学教員のみ、研究キャリアの年数 (初めて大学・研究機関等に勤めてからの通算年数) を聞いている。それを性別にまとめたのが次の図である。男女ともに 20 年以下の人数が多いという共通点があるとともに、女性では 20 年以上のキャリアを持つ人数が男性と比べて少ない。平均年数を計算すると、男女計で 13.7 年、女性で 10.3 年、男性では 14.4 年となる ( $t=2.027(278)$   $p<0.01$ )。また、出産・育児による中断があった人は 17 人 (女性が 10 人と男性が 7 人)、中断年数は半年から 5 年程度であり、1 年という人が最も多く 11 人であった。

研究キャリアの年数



問7では大学教員のみ、前年度（平成20年度）1年の教育・研究活動、また会議等への出席について聞いている。教育・研究活動、また会議等の有無についてまとめたのが下図である。



#### 教育研究活動の男女差はあるか

さらに、前年度の教育・研究活動、また会議等の平均値等をまとめると以下の表のようになる（学生指導時間が週360時間など論理的に多すぎる外れ値は欠損値として処理している）。

#### 昨年度の教育研究活動

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
週出勤日数（学期中）	270	0	7	5.22	.972
週出勤日数（長期休暇中）	162	1	7	4.76	1.151
授業・実習のコマ数	211	1	20	3.88	3.149
他大学非常勤講師のコマ数	51	1	5	1.39	.814
学生の研究指導の時間数	214	1	50	8.89	8.585
月の学内の会議数	240	1	30	3.91	3.927
月の学外（自治体等）の会議数	70	0	5	1.40	.995
月の学外（学会等）の会議数	158	1	5	1.25	.872
昨年度の国内出張の日数	268	0	120	12.58	14.902
昨年の海外出張の日数	260	0	300	4.85	22.217
昨年度の論文数	269	0	20	2.24	2.731

これらの教育研究活動、また会議等については、男女での研究などの業績差が議論されており（加野1988、登谷・坂東1985、塩田1984他）、一般に男性の方が論文などの業績が高いと指摘されることが多い。また、一口に業績といっても、授業コマ数など教育活動については女性が高く、論文数や、社会的活動では男性が高いなど、性別で業績の高い分野が異なると指摘されることもある（米澤2007：131-132）。

そこで、今回の調査で、これらの業績が性別で異なるか見るために、これらの業績を従属変数（被説明変数）として、重回帰分析を行った。独立変数（説明変数）には、性別、勤務年数、専攻分野、職階を使用した。全ての教育・研究活動、また会議等について分析を行ったが、スペースの都合上、モデル全体が5%水準で有意であったもののみを載せている（ただし、今回の調査は標本調査ではなく、またどの分析結果の決定係数 $R^2$ も高くないため、あくまで試論として読んでほしい）。

使用した独立変数について、性別は、女性を0として、これを基準とし、男性を1として独立変数に投入し、男女でどちらが、教育・研究活動が活発かをみる。

ただし、教育・研究活動については、研究キャリア、研究分野、職階によって大きく活動の形態が異なるので、単純に男女を比較することはできない。例えば論文数でいえば、大学に勤務してからのキャリアが長いほど、研究能力が高くなることも予測され、論文数が増えるとも考えられる。また一般に文系と理系では、共著が多いため、理系において論文数が多いと言われることもある。文系、理系と言ってもさらに研究分野ごとによって様々だろう。また、教授など職階が高くなれば、研究室のスタッフや大学院生の数が多くなり、論文数が多くなるかもしれない。

そこで、研究キャリアを表わす統制（コントロール）変数として、初めて大学・研究機関等に勤めてからの通算の勤務年数を使用した。また、研究分野では、人数の多い医歯薬学系を基準として、工学ダミー、理学ダミー、農学ダミー、人文社会科学ダミー、教育総合科学ダミーを作成した。また、職階では人数の多い助教・助手・その他を基準として、教授ダミー、准教授ダミー、講師ダミーを作成した。

重回帰分析の結果を業績ごとに表わしたのが次ページの表である。5%を有意水準とし、結果を見ていくと、授業・実習などのコマ数については、人文社会科学ダミーが有意となった。ここから、基準となる医歯薬学系と比べると、人文科学、社会科学を専門としている教員は授業・実習などのコマ数が多い。しかし、性別に関しては男女の差はいえない。

学生の研究指導の時間については、工学ダミー、農学ダミー、人文社会科学ダミーが有意となった。医歯薬学系と比べて、工学、農学を専門としている教員は、研究指導の時間が長い。一方偏回帰係数がマイナスであるので、人文科学、社会科学を専門とする教員は医歯薬学系よりも、研究指導の時間は短い傾向があるようだ。一方で、性別に関しては男女の差はいえない（ただし、10%水準では有意）。

学内の会議については、教授ダミーのみが有意となった。これは基準となる助教・助手・その他に比較して、教授であれば、学内の会議数が多いということを示している。しかし、性別に関しては男女の差はいえない。

国内出張については、工学ダミーが有意であることから、工学の教員は、医歯薬学系よりも国内出張の日数が多く、また教授ダミーが有意なので、教授は助教・助手・その他に比較して、国内出張日数が多いということを示している。性別に関しては男女の差は見られない。

昨年度の論文数に関しては、理学ダミー、人文社会科学ダミー、教育総合科学ダミーが有意となっており、偏回帰係数がマイナスであるので、医歯薬学系よりもこれらの分野では論文数が少ない。また、教授ダミー、准教授ダミー、講師ダミーがいずれも有意であるので、助教・助手・その他に比較して、教授等では論文数が多くなっていることが分かる。しかし、性別に関しては男女の差はいえない。

以上の分析から分かるように、教育・研究活動・会議等の活動業績については、研究分野や職階の影響はあるが、男女でどちらが高いということとはできない。

従属変数	授業・実習のコマ数		学生の研究指導の時間	
	非標準化偏回帰係数	標準化偏回帰係数	非標準化偏回帰係数	標準化偏回帰係数
独立変数				
(定数)	3.44 **		3.83 *	
性別	-0.50	-0.06	3.12 †	0.13
勤務年数	0.02	0.07	0.08	0.08
工学ダミー	-0.10	-0.01	4.74 **	0.24
理学ダミー	1.31 †	0.14	2.91	0.11
農学ダミー	0.23	0.02	5.16 *	0.16
人文社会科学ダミー	1.55 *	0.17	-4.95 *	-0.18
教育総合科学ダミー	0.93	0.06	-0.17	0.00
教授ダミー	0.25	0.04	-0.50	-0.03
准教授ダミー	0.25	0.04	1.60	0.08
講師ダミー	-1.36	-0.12	-2.09	-0.06
R <sup>2</sup>	0.086 *		.197 **	
調整済みR <sup>2</sup>	0.036		.155	
N	254		203	
**1%水準で有意 *5%水準で有意 †10%水準で有意				
従属変数	学内の会議数		国内出張の日数	
	非標準化偏回帰係数	標準化偏回帰係数	非標準化偏回帰係数	標準化偏回帰係数
独立変数				
(定数)	2.590 **		7.683 *	
性別	.491	.045	1.920	.047
勤務年数	-.035	-.082	-.145	-.091
工学ダミー	-.828	-.088	7.777 **	.206
理学ダミー	-.375	-.031	3.343	.069
農学ダミー	-.409	-.026	4.382	.068
人文社会科学ダミー	-.233	-.019	3.142	.064
教育総合科学ダミー	.170	.009	2.258	.032
教授ダミー	4.155 **	.503	7.536 *	.231
准教授ダミー	.953	.108	3.020	.086
講師ダミー	.060	.004	.147	.003
R <sup>2</sup>	.174 **		.094 **	
調整済みR <sup>2</sup>	.136		.056	
N	228		253	
**1%水準で有意 *5%水準で有意 †10%水準で有意				
従属変数	昨年の掲載論文数			
	非標準化偏回帰係数	標準化偏回帰係数		
独立変数				
(定数)	1.019 *			
性別	.618	.082		
勤務年数	-.017	-.058		
工学ダミー	-.683	-.099		
理学ダミー	-2.002 **	-.225		
農学ダミー	-1.182	-.100		
人文社会科学ダミー	-2.806 **	-.310		
教育総合科学ダミー	-2.458 **	-.194		
教授ダミー	3.234 **	.541		
准教授ダミー	2.603 **	.408		
講師ダミー	1.411 *	.145		
R <sup>2</sup>	.215 **			
調整済みR <sup>2</sup>	.183			
N	228			
**1%水準で有意 *5%水準で有意 †10%水準で有意				

## 5. ワークライフバランスについて

### 仕事の阻害要因

問 13 では、現在、仕事（研究や業務）を行う際に障害となっている要因を 3 つまで選択してもらっている。大学教員と職員または医療系という職種、性別ごとに選択した人の割合をまとめると下図のようになる。

仕事の障害となっている要因(3つまで選択)	選択した人の割合(%)			
	教員・女性	教員・男性	職員または医療系・女性	職員または医療系・男性
職場の人間関係	16.0	15.8	37.6	40.0
主となる業務と関係のない業務	62.0	53.8	46.1	42.5
管理的事務	14.0	25.6	11.8	17.5
研究・業務費の金額	22.0	34.2	5.7	11.2
スペース・設備	14.0	24.4	9.8	19.3
研究・業務の時間が十分取れない	40.0	50.9	20.6	20.7
研究・業務を補助する人がいない	28.0	35.5	14.7	22.1
女性(男性)であるための差別	2.0	0.4	2.3	0.7
妊娠・出産	6.0	0.9	8.3	2.1
育児・教育	16.0	6.0	13.2	8.1
介護・看病	8.0	2.6	7.4	3.9
家事	4.0	3.0	13.4	4.2
家族の人間関係	6.0	2.1	2.5	2.8
その他	6.0	3.8	7.2	8.4

上の図から、それぞれの職種、性別で選択する人が多かった順に、1 位から 14 位にまとめたのが下図である。黒に白抜き of 要因は、時間や補助人員などに対し、主となる業務と関係のない業務が多く、仕事量が多いという項目、灰色の要因は「育児・子供の教育」など家庭面での責任の項目である。

どの職種でも、男女ともに、上位には黒＝時間や補助人員など手持ち資源に対し、仕事量が多いことが上位に来ており、これらが仕事の障害と感じている人が多いことが分かる。

しかし、5 位以下になると女性と男性で差が出てくる。例えば、教員では女性の 6 位「育児・教育」が来ており、男性教員の 8 位よりも高い。職員または医療系でも同様に女性に、「家事」や「育児・教育」の順位が比較的高いのに比べ、男性ではそれら生活関連の項目は下位に来る傾向がある。

	教員・女性	教員・男性	職員または医療系・女性	職員または医療系・男性
1位	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務
2位	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務の時間が十分取れない	職場の人間関係	職場の人間関係
3位	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務を補助する人がいない
4位	研究・業務費の金額	研究・業務費の金額	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務の時間が十分取れない
5位	職場の人間関係	管理的事務	家事	スペース・設備
6位	育児・教育	スペース・設備	育児・教育	管理的事務
7位	管理的事務(スペース・設備と同率)	職場の人間関係	管理的事務	研究・業務費の金額
8位	スペース・設備	育児・教育	スペース・設備	その他
9位	介護・看病	その他	妊娠・出産	育児・教育
10位	妊娠・出産	家事	介護・看病	家事
11位	家族の人間関係	介護・看病	その他	介護・看病
12位	その他	家族の人間関係	研究・業務費の金額	家族の人間関係
13位	家事	妊娠・出産	家族の人間関係	妊娠・出産
14位	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別



独立行政法人森林総合研究所男女共同参画室（2009）の調査でも、本調査と同じように研究・業務活動の阻害要因を3つまで選択させる質問を行っている。その調査結果では、男性では仕事関連の項目が選択されることが多く、女性では仕事関連の項目も家庭（育児）関連の項目も選択されており、女性の方が多重役割による影響を大きく受けると指摘されている（独立行政法人森林総合研究所男女共同参画室 2009:9）。

森林総研の結果と山形大学の調査結果で大きく違うところは、山形大学の教員の調査結果では「職場の人間関係」の選択率が低いことである。森林総研の研究職では、男女ともに、「職場の人間関係」を半数程度が選択し、「研究・業務と関係のない雑用」に続き、2位になっている。山形大学の調査でも、職員と医療系では、「職場の人間関係」が女性では37.6%、男性では40.0%が選択し、2位と大きな阻害要因になる項目である。しかし、山形大学の教員では、「職場の人間関係」を選択しているものは、女性の教員では16.0%、男性の教員では15.8%が選択しているに過ぎない。この違いの解釈の一つとして考えられるのは、山形大学の教員は、研究所などと比較して、独立して研究や業務を行うことが多く、職場の人間関係に悩まされることは比較的少ないのではないかということである。一方で「研究・業務の時間がとれない」や「研究・業務を補助する人がいない」などの阻害要因が比較的高いことから、研究や業務に対しての時間や人員などの資源が少なく、その一方で、主たる業務と関係のない業務が多く忙しい、と感じていると推測される。

早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所（2008）では、教員と職員に分けて、研究と業務活動の阻害要因を「大いに阻害する」「まあ阻害する」など4件法で質問している。結果の分析として、阻害要因を3グループ、「研究と関係のない雑用」など（A）学内業務、「研究費の額」など（B）研究環境、「育児」など（C）生活関連に分けて、男女で阻害要因の程度が大きいものから小さいものに並べている。その結果、男性教員では（A）学内業務、（B）研究環境、（C）生活関連の順で阻害の程度が大きいと感じており、女性教員では、（A）学内業務の次に（C）生活関連が続き、最後に（B）研究環境となる。男性職員では職場の要因が上位にあがり、女性では「育児」、「家事」、「妊娠・出産」となり、男女で差が出ている（早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所 2008:1, 63-65）。この早稲田大学の結果もおおむね今回の山形大学の結果と一致していると言えるだろう。

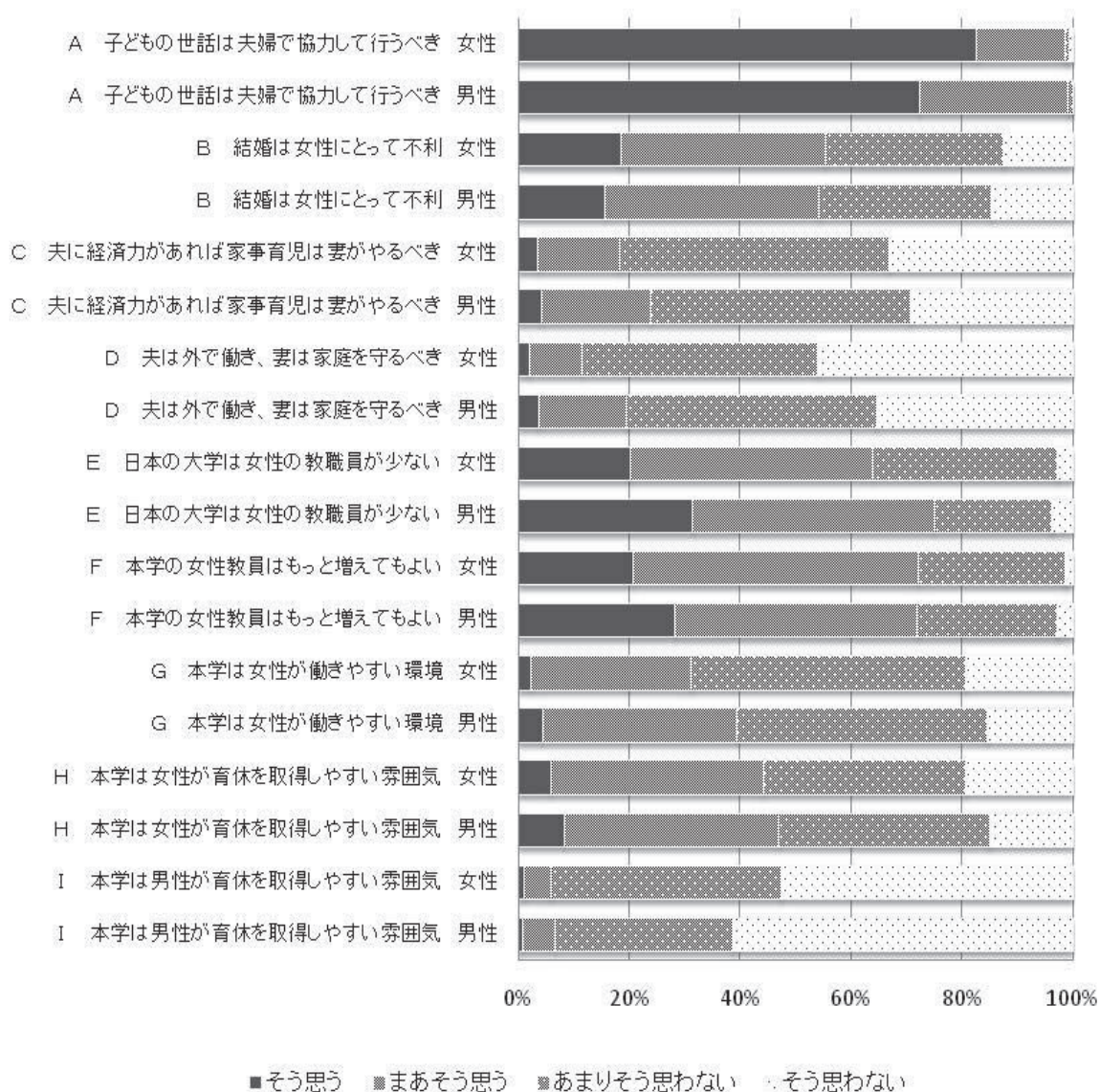
#### 仕事と生活の調和についての意識

問9では性別役割分業観、大学の女性教員の数への意見、本学に育児休業取得をしやすい雰囲気があるかなど、仕事と生活の調和についての意識を聞いている。結果を男女別にまとめたのが以下の図である。

男女ともC「夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべきだ」、D「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ」などの固定的な性別役割分業観を持つ人は多くない。また、E「日本の大学は女性の教職員が少ない」、F「本学の女性教員はもっと増えて良い」と回答する人が男女ともに多い。

しかし、G「本学は女性が働きやすい環境が整っている」、H「本学は女性が育児休暇を取得しやすい雰囲気がある」、I「本学は男性が育児休暇を取得しやすい雰囲気がある」という人となると、男女ともに、「そう思う」「まあそう思う」という人は少なくなる。

## 仕事と生活の調和について

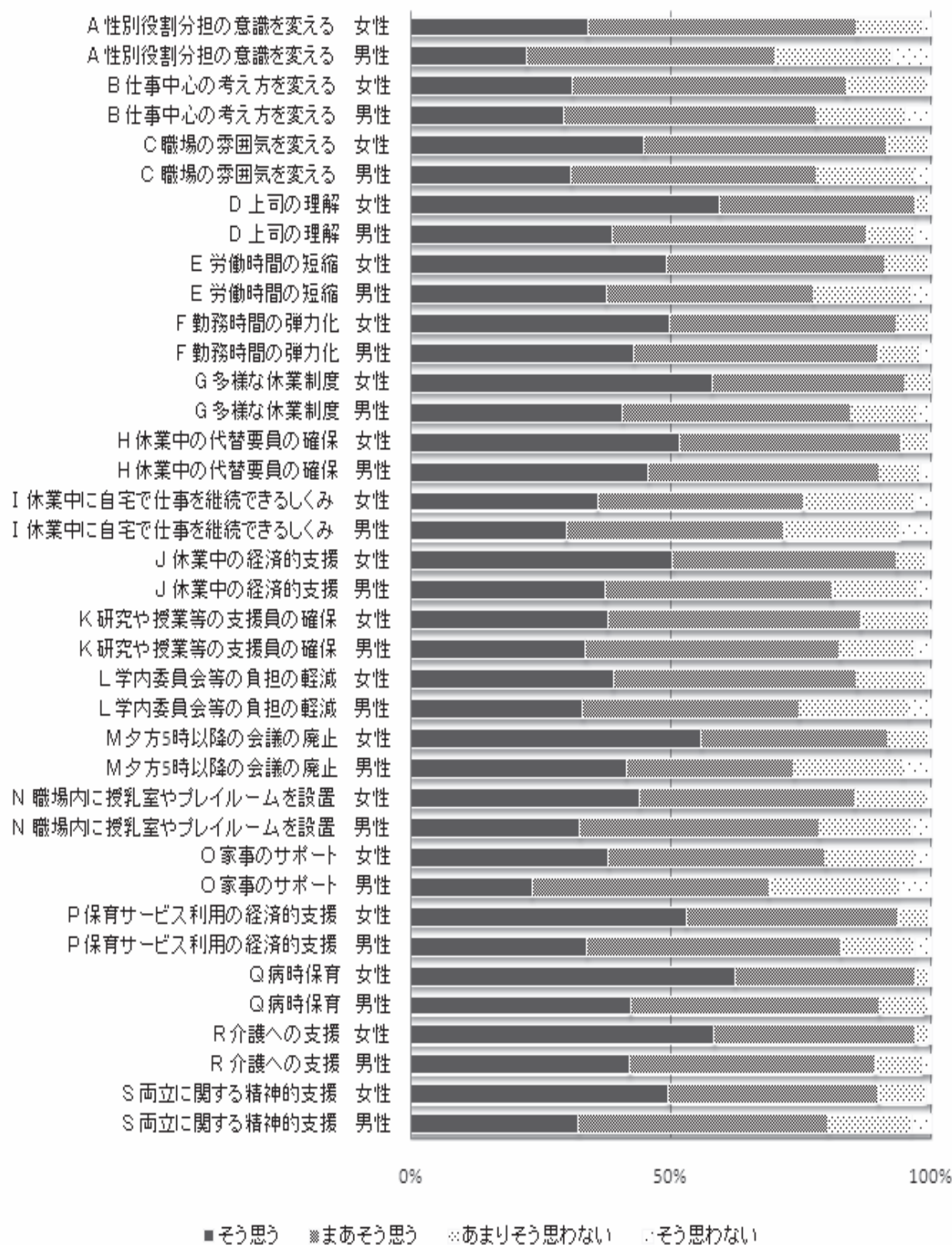


### 仕事と家庭を両立するために必要な方策

問 11 では仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要だと思っているかを聞いている。結果を男女別にまとめたのが以下の図である。質問している全ての項目について男女とも「そう思う」、「まあそう思う」と答える人が過半数を超えている。

女性の回答を見ると、P「保育サービス利用の経済的支援」、D「上司の理解」、R「介護への支援」、G「多様な休業制度」、M「夕方5時以降の会議の廃止」、P「保育サービス利用の経済的支援」、H「休業中の代替要員の確保」、J「休業中の経済的支援」という順で「そう思う」という人が多く、いずれも「そう思う」が50%を超えている。男性ではH「休業中の代替要員の確保」が最も多く45.8%の人が「そう思う」と回答している。その他、全ての項目において、女性の方が男性よりも「そう思う」と答える傾向が有り、女性の方がこれらの両立支援の方策を強く必要と感じていることが分かる。

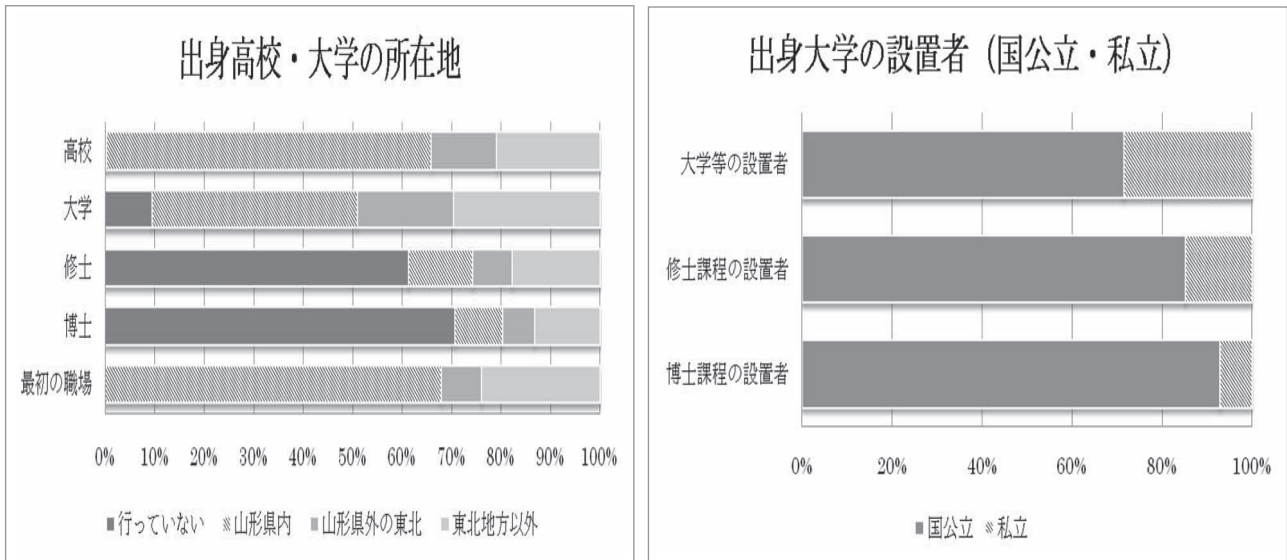
## 仕事と家庭を両立するために必要なこと





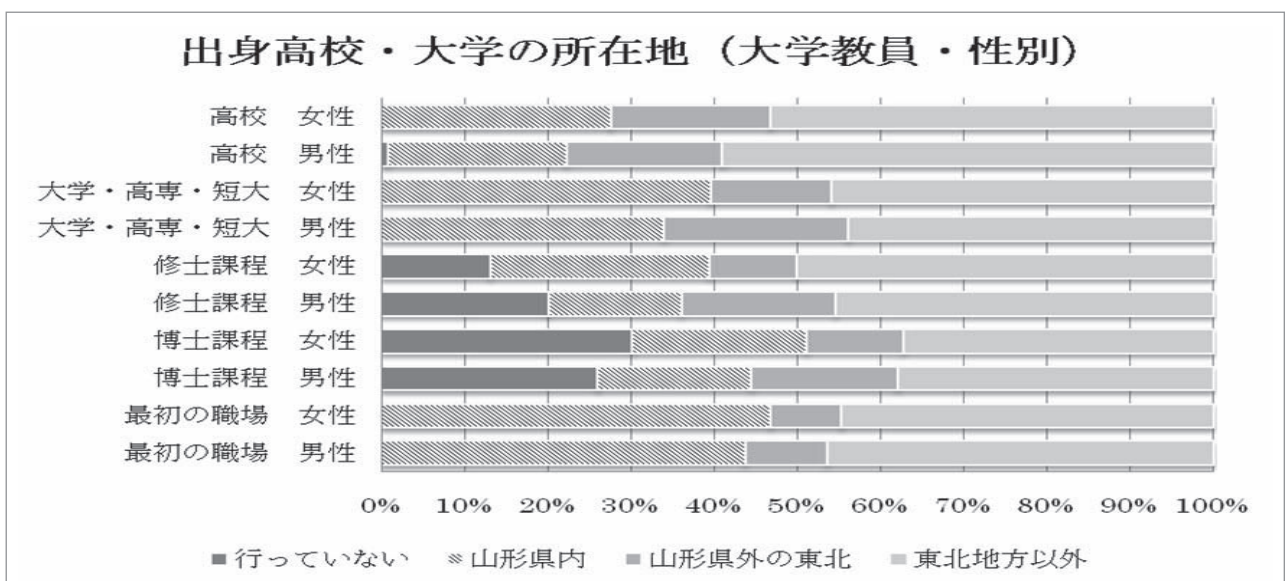
## 出身地・出身校

問 17 では、出身校（高校、大学・高専・短大、修士課程、博士課程）と最初の職場の所在地をたずねている。出身地の定義は難しいが、卒業した高校の所在地を出身地とするなら、左下の図で分かるように、今回の回答者のうち大半（65.6%）が山形県の出身である。また、大学等についても 41.5%が山形県の大学等の出身である。出身大学の国公立・私立の別では、大学等、修士課程、博士課程ともに国公立の出身者が 7 割以上を占めている。



次世代の女性研究者を育成するためには、現在、山形大学で働いている大学教員のキャリアパスを把握することが一助となるだろう。そこで、大学教員の出身地、出身校についてまとめたのが次の図である。

すると、全教職員の結果と比べ、山形県の出身者が少なく、女性では 27.7%、男性では 21.4%が山形県の出身である。東北地方以外の出身者が多く、男性では 59.0%、女性では 53.2%と半数を超えている。出身大学等の所在地が山形であるという人は、女性では 39.6%、男性では 34.0%である。修士課程の大学の所在地では女性は 26.3%、男性では 16.0%、博士課程の大学の所在地では女性では 20.9%、男性では 18.5%が山形県である。全てにおいて、男性より女性の方が山形県と関わりのある人が多い。



この山形大学の教員のキャリアパスを、全国の大学教員のキャリアパスと比較したのが下の表である。全国の大学教員の数値については、先述の米澤らの全国の大学教員に対する調査(米澤 2007:95)から、現職の大学所在地と出身の高校、大学、大学院(最終)、初職が同一都道府県である割合を引用した。山形大学の教員の数値は、先程の図の数値である。例えば、高校を見ると、全国の教員では 29.2%が現在の勤務大学の所在地と出身高校の所在地が一致している。一方、山形大学の女性教員では、27.7%が、現在の勤務大学(山形大学)の所在地(山形県)と、出身高校の所在地(山形県)が一致している。

高校、大学、大学院、初職、全てにおいて山形大学の教員では、全国の大学教員よりも一致している人の割合が低い。特に大学院で一致している人の割合が全国よりも低い事が特徴である。

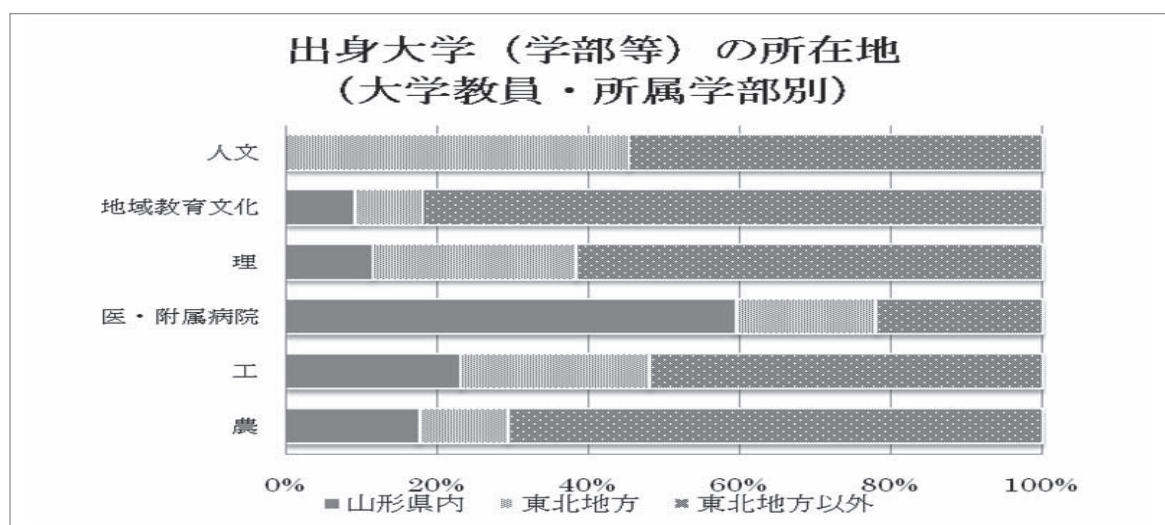
### 出身地・出身校と現在の勤務地が一致している人の割合(%)

	高校	大学	大学院		初職
全国の教員(注1)	29.2	49.6	(最終)49.3		54.4
山形大学の教員(女性)	27.7	39.6	(修士)26.3	(博士)20.9	46.8
山形大学の教員(男性)	21.4	34.0	(修士)16.0	(博士)18.5	43.8

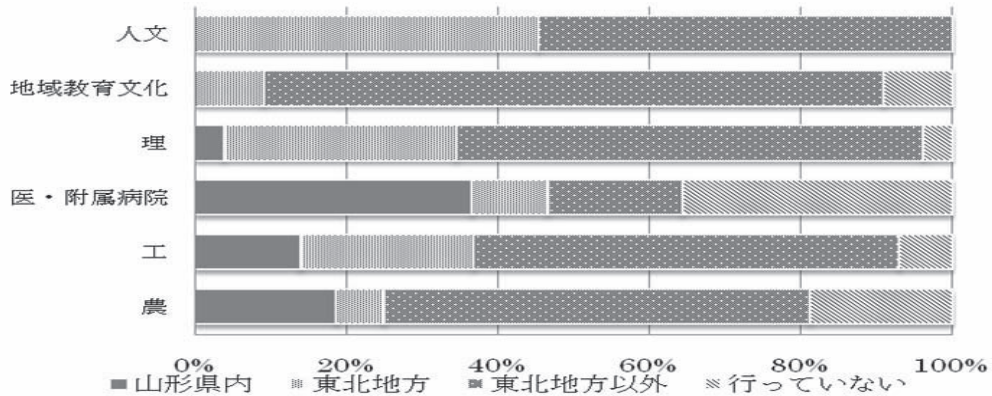
注1 全国の教員については米澤(2007:95)より数値を引用。

また、山形大学には学部によって大学院が有る学部と無い学部がある。そのため、所属学部ごとに大学教員の出身の大学等(N=284)、修士課程(N=233)・博士課程(N=257)の所在地をみたのが、次の3つの図である(人数が少ないので基盤教育院・事務局・その他の部局は示していない)。

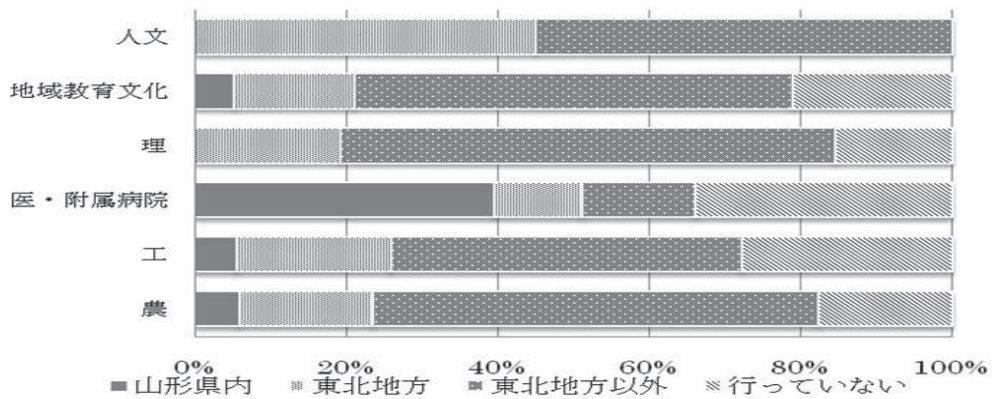
学部と修士課程については、医・附属病院、工学部、農学部で山形県の大学の出身者が比較的多い。しかし、博士課程については、医・附属病院のみが比較的高く(36.7%が山形県の大学の博士課程出身)、その他の学部では0%から6%以下でしかない。これらから、次世代の女性研究者を増加させるためには、特に医・附属病院以外の学部では、山形県以外の全国の大学の出身者を、山形大学にひきつけることが必要であると考えられる。



### 出身大学（修士課程）の所在地 （大学教員・所属学部別）

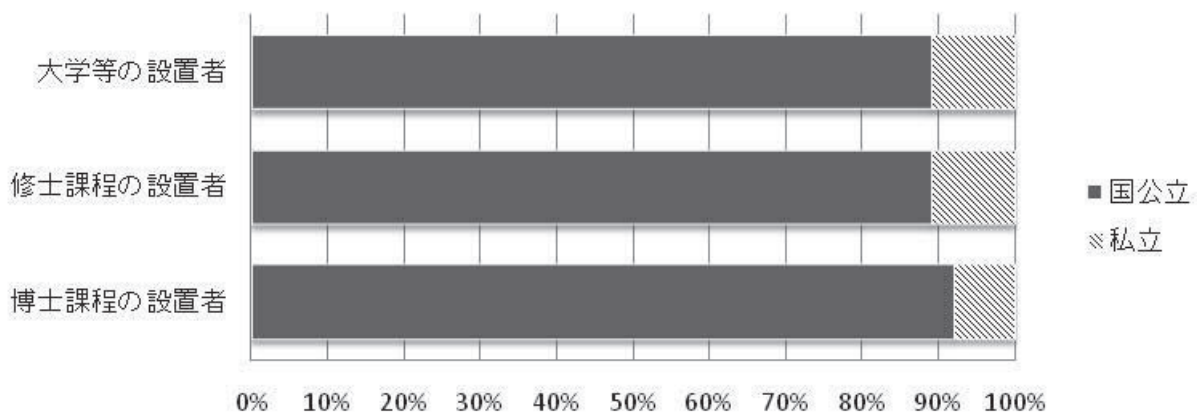


### 出身大学（博士課程）の所在地 （大学教員・所属学部別）



問 17 では、出身大学の設置者（国公立か私立か）を聞いている。その結果、大学教員では、大学等、修士課程、博士課程ともに国公立の出身者が多く、9 割程度を占めている。

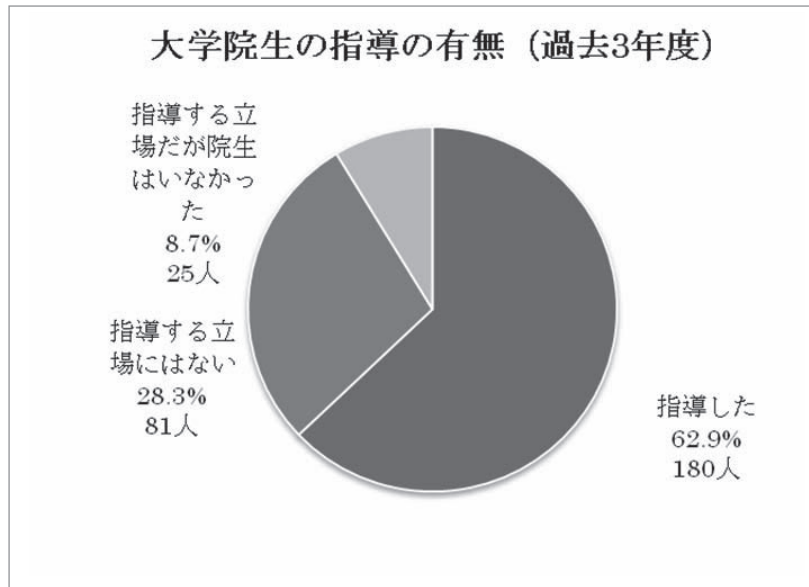
### 出身大学の設置者（大学教員）



## 山形大学内部の女性研究者育成について

問 8 では大学教員のみならず昨年度までの過去 3 年度に大学院生を指導したか、また指導した人数と、研究者志望の院生の人数を男女別に聞いている。

大学院生の指導の有無については、指導したという人が 62.9% (180 人) いるが、指導する立場になり、指導する立場だが院生がいなかったという人も、合わせて 37%程度いる。



指導したという大学教員のみならず、過去 3 年度の指導院生の数を聞くと、女性の院生の平均人数が 1.64 人、男性の院生の平均人数が 2.90 人となっている。また、そのうち研究職を志望していた人数は多くなく、女性では平均人数が 0.38 人、男性では 0.62 人となっている (詳しい人数は資料の基礎集計表参照)。男女ともにおおよそ 4 ~ 5 人に 1 人が研究職を志望しているという計算になる。

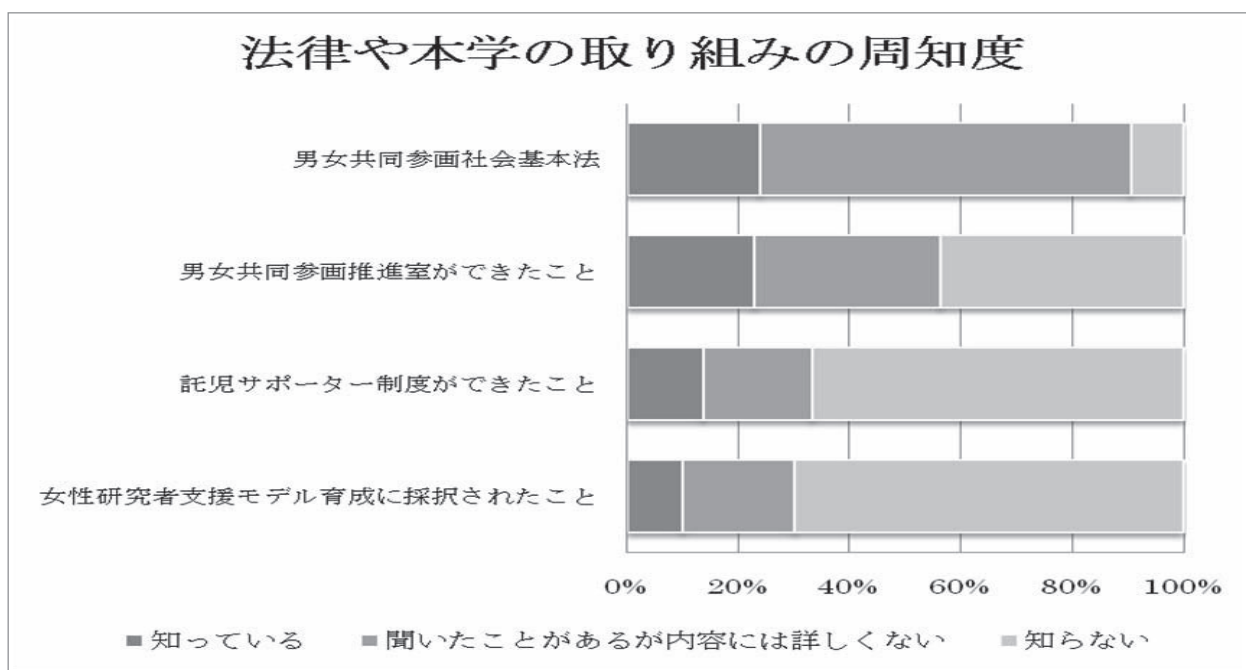
過去 3 年度の人数ということを考えると、女性で (また男性でも) 研究職を志望している院生は山形大学内部では決して多くはない。そのため、今後女性研究者を増やすためには、山形大学内部で女性大学院生を育てるとともに、他の大学院出身の女性研究者を山形大学にひきつける事が必要だろう。



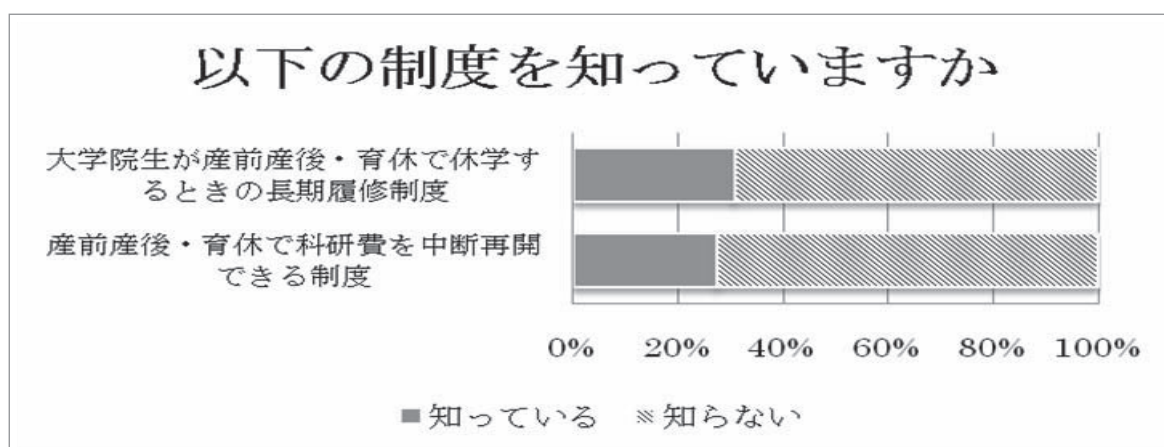
## 7. 取り組みの周知度

### 法律や本学の取り組みの周知度

問 14 から 15 では法律や制度、本学の取り組みについての周知度をたずねている。その結果、下図のように「聞いたことはあるが内容に詳しくない」という人は多いが、「知っている」という人は多くは無い。「男女共同参画社会基本法」は、比較的周知度が高いが「知っている」は 23.8%、「男女共同参画室ができたこと」は 22.8%、「託児サポーターができたこと」は 13.5%、「女性研究者支援モデル育成に採択されたこと」は 9.9%が「知っている」。今後これらの周知を行うことも課題の一つである。



また、問 14 では、大学院生や研究者が、産前産後や育児の際に利用できる制度の周知度についても聞いているが、どちらも 3 割前後が知っているにとどまる（科研費については 27.4%、長期履修制度については 30.5%）。

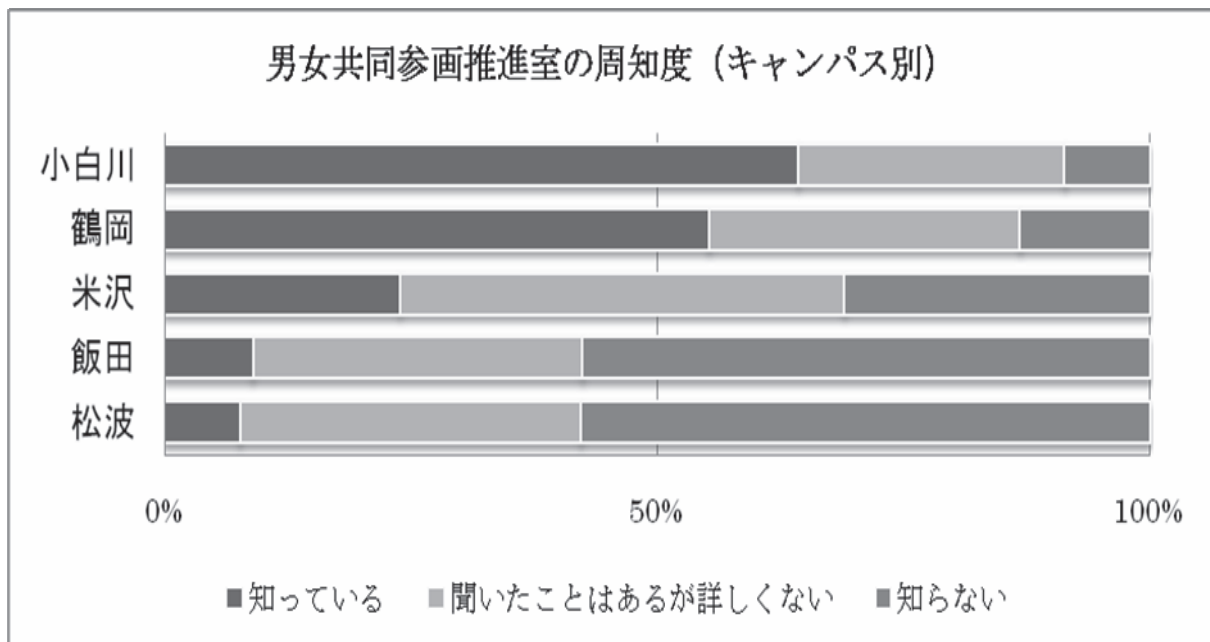


### キャンパスごとの周知度の違い

今後これらの周知を徹底するヒントとして、周知度にはキャンパスごとに差があるという点がある。例えば、男女共同参画推進室の周知度について、キャンパスごとに見ると、小白川と鶴岡キャンパスが高い傾向がある。一方で、松波・飯田・米沢キャンパスでは周知度が低い。

男女共同参画社会基本法、託児サポーター制度、女性研究者支援モデル育成の採択の周知度についても、小白川・鶴岡キャンパスが他のキャンパスより高い。小白川キャンパスには男女共同参画推進室があり、託児サポーター制度の開始など事業が多かったため、周知度が高いのであろう。また、鶴岡キャンパスでも今年度2回（8月に「女子高生のための山形大学農学部キャリアセミナー」、12月に「農学部系卒女子のお仕事って？－先輩に聞こう！」）のイベントを行っている。そのため、周知度が高くなったと推測される。来年度はその他のキャンパスで、集中的に活動を行っていくと有効だろう。

性別の周知度については、男女差は見られなかった。また、職種では医療職への周知度が低いという傾向があった。



## 8. 自由記述の分析

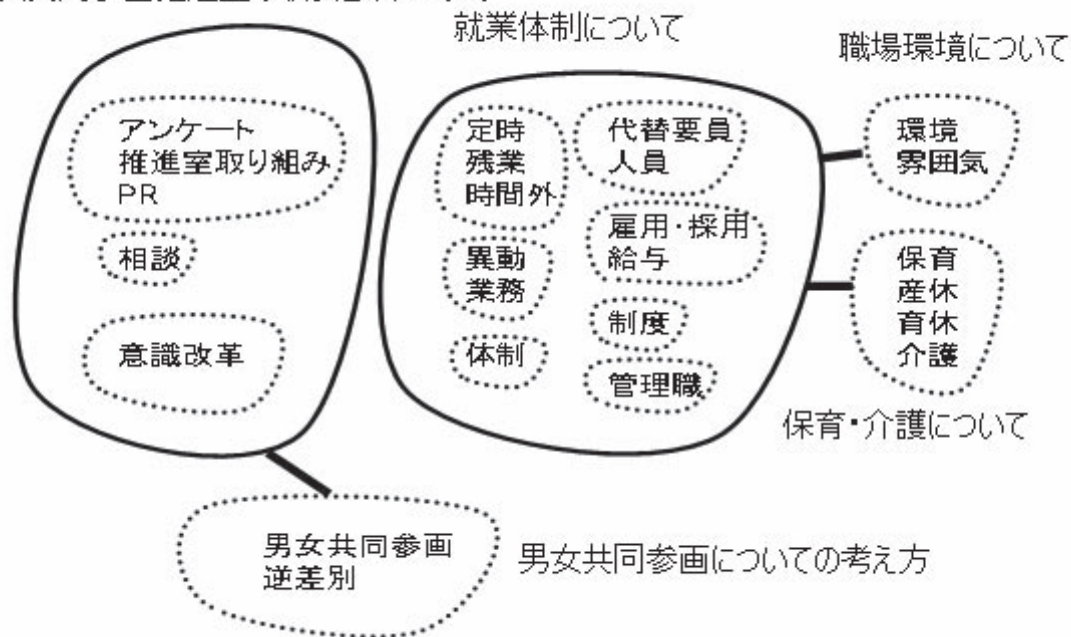
アンケート調査の中には、既存制度への意見を求めた質問や男女共同参画推進のために必要な取り組みについての自由な意見を記述する設問を幾つか設けている。中でも問 30 に、「本学で男女共同参画を推進するために必要な取り組みがあれば、ご自由にお書き下さい」との質問を用意し、自由記述を求めた。本節では、今後の本学の男女共同参画推進において、本学の教職員が何を求めているか、男女共同参画の取り組みへのニーズという視点から、まとめてみたい。

### 分析方法と概要

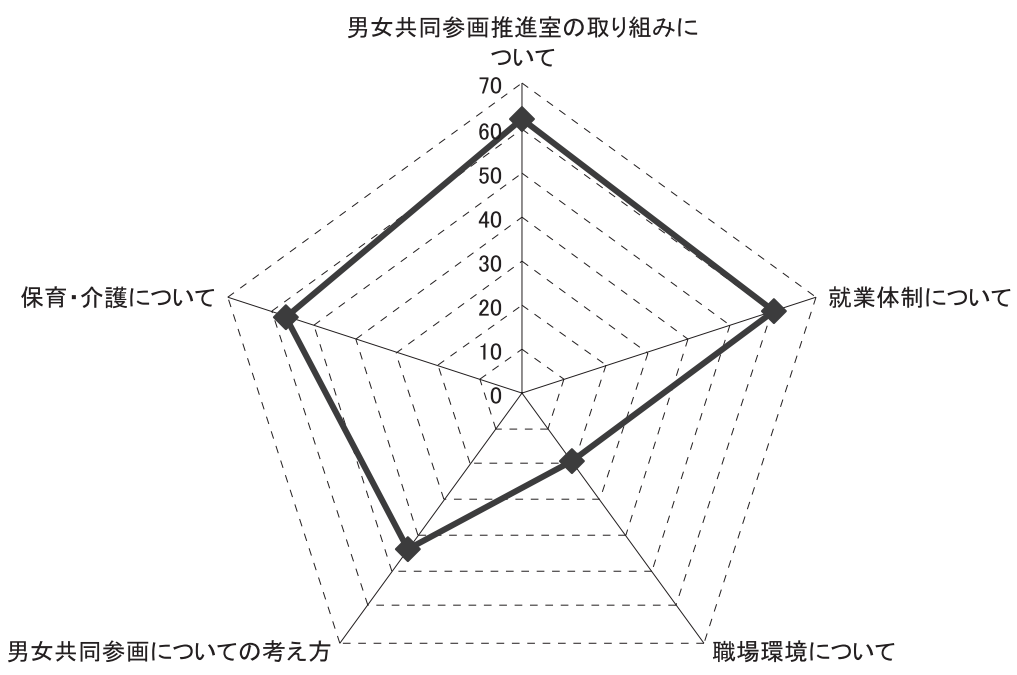
分析にあたっては、問 30 の回答欄に自由意見を記述した 222 名の意見にインデックスを付け、KJ法を用いて分類した。なお、自由意見の中には、内容が多岐に渡る意見も多々みられるため、一つの回答につき、インデックスを複数つけた回答も多々みられる。最初にインデックスを付けたのち、インデックスを見直し、その上で、インデックスどうしの関連のある項目について並べ直し、それらを包括するタイトルを付けたのが下図である。関連のある項目を破線で囲み、更に、それをまとめることが可能な場合は、実線で囲んだ。太い実線は囲んだインデックスどうしを1つのカテゴリーとはしないものの、深い関係のある事柄どうしを結んだものである。これらの作業によって、概ね5つの事柄に自由意見を集約した。

- ①男女共同参画推進室の取り組みについて
- ②就業体制について
- ③男女共同参画についての考え方
- ④職場環境について
- ⑤保育・介護について

#### 男女共同参画推進室の取り組みについて



下記は、それぞれの項目についてどの位の人数の人が触れているかを示したダイアグラムである。自由回答のうち、特に意見が多かったのが、残業や異動、代替要員の配置等を求める「就業体制について」の意見や「男女共同参画推進室の取り組みについて」の意見であった。両者については、60人以上の人の自由意見に触れられている。そして「保育・介護」や「男女共同参画についての考え方」についての意見や、制度のみならず「職場環境」や「雰囲気」を求める意見も見られる。以下では、それぞれの内容について分析する。



①男女共同参画推進室の取り組みについて

男女共同参画推進室の取り組みの中でも、本アンケートへの意見が少なからず寄せられている。特に、「アンケートがどのように反映されるのか」、「このアンケートがどのように扱われて行くのか」、「アンケート結果によって何が変わったのか」、「目に見える形で反映して欲しい」との記述が20件以上見られる。また、アンケート調査の結果を活かした改革の推進を激励する意見がある一方で、アンケートに頼るのではなく、室員が直接出向いて現状を知る努力の必要性や、アンケートの実施への懐疑的意見やコスト高を指摘する意見が見られる。

男女共同参画推進室の事業への要望も記載されている。例えば、ジェンダースタディーズの研究・教育の強化、全教職員への「男女共同参画通信」メールの送付等の具体的な事業の他、サポート体制の強化や各種情報提供、PR活動、相談事業の充実等が寄せられている。更に、男女共同参画推進室が、「もっと積極的に個々の教職員が直面する問題を知ること」、「教職員が何を望んでいるのかをくみとること」も求められている。

## ②就業体制について

本節では、「就業体制」との大きな括りで自由回答を集約しているが、その中に含まれる意見は、「フレックスタイムの導入」や「代替要員の確保」などの具体的な制度の導入を求める意見や、仕事量の削減を求める漠然とした意見等が混在している。また、内容についても多岐に渡る。それゆえ本節では、「勤務形態」「給与」「人員」「その他」に分けて意見を集約する。

### 【勤務形態】

フレックスタイムの導入や看護師等の短時間パート制度など、多様で柔軟な勤務を望む意見が複数見られる。残業についての意見では、「ノー残業ダイの導入」や残業する場合にはサービス残業ではなく「超過勤務手当をつけて欲しい」との意見が複数見られる。

### 【給与】

給与についての意見も少なからず見られ、正規職員と非常勤の待遇差の改善や、有期限雇用者に対しての産休・育休の際の給与面の補助の要望が挙げられている。

### 【人員】

人員の増大を求める声も多く、現状の人員配置では「適切」とは考えてはいないようである。特に、産休、育休を取る際に人員がおらず休むことができないため、産休や育休を取ることを可能にするための代替要員等の確保については、10名近い人が自由意見の中で触れている。

### 【その他】

その他の意見では、遠隔地への異動に配慮を求める声や、女性教職員の積極的採用や女性管理職の積極的登用を求める声が見られる。

## ③男女共同参画についての考え方

男女共同参画についての捉え方が、人によって差異があることも、自由意見から顕著となった特徴の一つである。「男女平等の人事を」と、現状において女性が差別されていると感じている人もいれば、「山大では女性の方が優遇されているのでは」と感じている人もおり、個々人によってその認識は異なる。

また、男女共同参画の問題を、「将来の日本全体においても、一番重要な問題」と記述する等、重要な問題と認識されている一方で、「女性の方が優遇されている」「過度なジェンダー主義にならないように」との懸念や、「最近では女性が、女性がと言い過ぎではないか」「男女共同は可能だが平等ではない」等の記述も見られる。こうした意見があることを十分に理解した上で、本学の男女共同参画推進事業を進める必要があることを改めて認識せねばならない。

## ④職場環境について

自由回答において、特に顕著な事柄が、「制度はあってもそれを活用することができない」、そして、「制度を活用するための職場の環境づくり」についての意見である。自由回答の中には、「出産当日からの出勤を求められ、育児休暇を取るなど、言い出せる雰囲気ではなかった」(男性)等、育児や介護休暇等の休暇制度が、有名無実となっている現状が垣間見られる。

こうした雰囲気・環境を是正するためには、上司や管理職、そして全教職員の意識改革を求める意見が20件近く寄せられている。その上で「意識改革を熱心に根気よく広めて欲しい。制度はあっても利用

しにくいのも問題なので」と、まず教職員の意識改革が求められている。また、休暇を取る際の人員確保が無いので、休暇を言い出すことのできる雰囲気とはなっておらず、周囲の協力を得るためにも、人員確保が求められている。

育児休暇を利用しやすい雰囲気づくりへの期待は高く、「育児休業を取る制度を義務化するくらいの雰囲気」がなければ、実際には休暇は取れないとの意見も見られるなど、制度を作っただけでは、不十分であることがわかる。

#### ⑤保育・介護について

保育や介護についての自由意見が多かったのも特徴的である。「保育所を設置して欲しい」との意見に加え、「病児保育への要望」、「保育への金銭面での補助」、「学童保育の要望」等が複数見られる。具体的には、「土日の出勤により、負担している保育コストが割高になるため、それらへの補填を希望する」等、子育てをしている人にとっては、様々な要望が挙げられている。

平成 21 年度より開始した「託児サポーター」については賛否両論があり、託児サポーター制度ではなく、「保育士資格をもった者及び医療資格者をもった者を常駐させた施設を作るべき」とする意見もみられる。その他、育児中のハンディを考慮し、「同等の業績を求めないで欲しい」との意見や、「産・育休取得をスムーズにできる為の工夫」「育休中の有給化」「男性でも気軽に育休を取れるような体制づくり」等の男性の育休取得支援が記述されている。

介護についても「年輩の方々を男女共同参画に取り込むには、育児だけの視点では不十分」と、8名の回答者が介護について触れており、「子育てだけではなく、病気、老齢介護など多面的な支援に視野を持って取組む時代だと思う」「介護支援も充実させる必要がある」との意見に加え、「介護休暇の充実」、「介護施設の充実」、「介護休暇中の代替要員の確保」等の具体的な対策が求められており、その関心の高さを示している。

このように、自由記述から、山形大学の教職員が問題視している課題が浮かび上がった。今後、このように自由な意見を聞く機会を積極的に設け、本学の教職員と協力しながら、その解決を図る具体的施策について検討して行くことが求められている。

## 男女共同参画に係るアンケートのお願い

平成21年10月28日

山形大学男女共同参画推進室 室長（理事） 北野 通世

山形大学は、平成20年11月に男女共同参画推進準備室を立ち上げ（本年2月に男女共同参画推進室に改組）、シンポジウムや全学アンケート等さまざまな取組みをしているところです。本年5月には平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択され、男女共同参画推進室に専任教員を配置することができました。

現状を把握し、本学の男女共同参画をいっそう実のあるものにするために、今年度も教職員の皆様にアンケートにご協力いただきたいと思っております。昨年度は半数近くの皆様からご回答いただき、大変ありがとうございました。結果の概要は下記ホームページでご覧いただけます。

今回のアンケートも無記名で実施し、回収後は直ちに各質問項目別に統計的な処理をいたしますので、個人が特定されることはございません。また回収したアンケート用紙は、男女共同参画推進室でのみ扱い、各部局が見ることはありません。分析終了後、アンケート用紙は直ちに破棄いたしますので、率直なご意見をお寄せいただければと思います。

お忙しいところ恐縮ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。ご記入後は封筒に入れて、11月13日（金）までに各部局の担当係にご提出ください。

本調査への問い合わせ先 山形大学男女共同参画推進室（小白川キャンパス事務局2階）

e-mail : danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

電話 : 023-628-4939（内線4939、4058）

URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/danjo.html>

**\* ここから質問にお答え下さい。I. はじめにあなたのお仕事についてうかがいます。**

問1. あなたの勤務しているキャンパスの所在地に○をつけて下さい。

- 1 小白川      2 飯田      3 松波      4 米沢      5 鶴岡

問2. 所属部局をお答え下さい。あてはまる番号に○をつけて下さい。

- 1 人文学部
- 2 地域教育文化学部・教育実践研究科・附属教職研究総合センター
- 3 理学部・放射性同位元素実験室
- 4 医学部・医学部附属病院・医学系研究科・医学部図書館・附属実験実習機器センター・  
医学部情報基盤センター・附属動物実験施設・医学部遺伝子実験施設・環境保全センター
- 5 工学部・理工学研究科（工学）・工学部図書館・工学部学術情報基盤センター・  
国際事業化研究センター・工学部国際交流センター

- 6 農学部・附属やまがたフィールド科学センター・農学部図書館・農学部遺伝子実験室・農学部学術情報基盤センター
- 7 基盤教育院
- 8 附属学校（附属幼稚園を含む。）
- 9 事務局（監査室，エンロールメント・マネジメント室，国際化主幹，研究プロジェクト戦略室，評価分析室，教養教育企画室・大学連携推進室・男女共同参画推進室を含む。）・小白川事務部・保健管理センター・小白川図書館・附属博物館・情報ネットワークセンター

問3. あなたの職種を選択して○をつけて下さい。定時勤務職員、短時間勤務職員等の方は、よりふさわしいと思われる職種を1つ選択して下さい。

- 1 大学教員                      2 附属学校教員                      3 事務系職員（施設系・図書系を含む。）
- 4 教室系技術職員・教務職員                      5 技能系職員                      6 医療職員
- 7 医員及び研修医                      8 非常勤の研究員                      9 その他（                      ）

問4. 問3で、「大学教員」「非常勤の研究員」と回答した方は、もっともあてはまる研究領域を1つ選んで○をつけて下さい。

- 1 人文科学系                      2 社会科学系                      3 理学系                      4 工学系                      5 農学系
- 6 医歯薬学系                      7 教育学系・教員養成系                      8 総合科学系                      9 その他（                      ）

※「大学教員」と回答した方以外は、問9へお進み下さい。

問5. 問3で「大学教員」と回答した方は、現在の職階について、もっともあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- 1 教授                      2 准教授                      3 常勤講師                      4 助教                      5 助手                      6 その他（                      ）

問6. 問3で「大学教員」と回答した方に、おうかがいします。初めて大学・研究機関等に勤めてから何年になりますか。1年未満の方は0とご記入下さい。出産や育児による中断があった方は、その期間を含めてご回答下さい。

通算【                      】年                      （出産・育児による中断期間【                      】年を含む）

問7. 問3で「大学教員」と回答した方に、昨年度（平成20年度）の教育研究活動等についてうかがいます。

（1）教育活動について、本務校への出勤日数・担当授業数等をお答え下さい。兼任で出講キャンパスが複数にわたる場合、本務校であれば出勤日として下さい。

a. 学期中の出勤日数	平均 週【                      】日
b. 夏休みなど長期休業中の出勤日数	平均 週【                      】日                      2 長期休業はない
c. 授業・実習などのコマ数	平均 週【                      】コマ                      2 受け持ちはない
d. 他大学の非常勤（集中講義は1科目を1コマ）	平均 週【                      】コマ                      2 受け持ちはない
e. 学生の研究指導の時間数	平均 週【                      】時間                      2 受け持ちはない



(2) 学内外の委員会等への出席回数をお答え下さい。また、研究活動について、出張や研究費、学術誌への掲載論文数をお答え下さい。

f. 学内の会議	平均 月【     】回 2 受け持ちはない
g. 学外の会議（地方公共団体等の委員）	平均 月【     】回 2 受け持ちはない
h. 学外の会議（学会や研究会の会合）	平均 月【     】回 2 受け持ちはない
i. 国内出張	昨年度 年【     】日
j. 海外出張	昨年度 年【     】日
k. 科研費の採択	【 有（代表者・分担者・連携研究者）／ 無】
l. 大学外から受けた科研費以外の研究費	【 有／ 無 】
m. 学術誌（紀要を含む）の掲載論文数	昨年度 年【     】本

問8. 問3で「大学教員」と回答した方に、昨年度までの過去3年度（平成18、19、20年度）の大学院生（修士課程と博士課程を含む。）の指導についてうかがいます。

(1) 過去3年度に大学院生を指導しましたか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

- 1 指導した     2 指導する立場にはない     3 指導する立場だが院生はいなかった

(2) (1) で過去3年度に大学院生を指導したと答えた方は、その人数を男女別にお答えください。そのうち、研究職志望だった学生は何人くらいいましたか。

- ①指導した人数     女性【     】人     男性【     】人  
 ②研究者志望の人数     女性【     】人     男性【     】人

→大学院生の研究職への就職支援に向け配慮している事や課題があればご自由にお書き下さい。

(     )

## II. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関して、お尋ねします。

※全員がご回答下さい。

問9. 次にあげることについて、あなたの考えに近い番号を選び○をつけて下さい。

そう     まあ     あまり     そう

思う     そう思う     思わない     思わない

- A. 子どもの世話は夫婦で協力して行うべきだ・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 B. 結婚は女性にとって不利になることが多い・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 C. 夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべきだ・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 D. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 E. 日本の大学は女性の教職員が少ない・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 F. 本学の女性教員はもっと増えてもいい・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 G. 本学は女性が働きやすい環境が整っている・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 H. 本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4  
 I. 本学は男性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある・・・・・・・・１— 2 — 3 — 4

問 10. 日本の大学で女性教員や研究者が少ない理由について、どう思われますか。あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

そう    まあ    あまり    そう  
 思う    そう思う    思わない    思わない

- A. 社会的な偏見があるから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- B. 男女間には能力の差があるから・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- C. 幼少期から男女で違った育てられ方をするから・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- D. 女子に高学歴を期待しない親が多いから・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- E. 中学や高校での進路指導が適切でないから・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- F. お手本になるような女性研究者が少ないから・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- G. 男性が多い職場だから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- H. 労働時間が長いから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- I. 男性を採用する傾向があるから・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- J. 家庭と仕事の両立が困難だから・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- K. 育児期間後の復帰が困難だから・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- L. 研究に興味を持つ人が本能的性向として女性に少ないから・ 1 — 2 — 3 — 4

問 11. 男女ともに、仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要だと思えますか。あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

そう    まあ    あまり    そう  
 思う    そう思う    思わない    思わない

- A. 性別役割分担の意識を変える・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- B. 仕事中心の考え方を変える・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- C. 職場の雰囲気を変える・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- D. 上司の理解・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- E. 労働時間の短縮・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- F. 勤務時間の弾力化・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- G. 多様な休業制度・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- H. 休業中の代替要員の確保・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- I. 休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- J. 休業中の経済的支援・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- K. 研究や授業等の支援員の確保・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- L. 学内委員会等の負担の軽減・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- M. 夕方5時以降の会議の廃止・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- N. 職場内に授乳室やプレイルームを設置・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- O. 家事のサポート・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- P. 保育サービス利用の経済的支援・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- Q. 病時保育・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- R. 介護への支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- S. 両立に関する精神的支援・・・・・・・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4

問 12. 次のようなことを感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

よくある      ときどき      あまりない      まったく

ある                                  ない

- A. 忙しすぎると感じること・・・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- B. 出勤したくないと感じること・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- C. 今の仕事を辞めたいと思うこと・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- D. 会議等で発言しにくいと思うこと・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- E. 性別によって異なる処遇があると感じること・・・・ 1 — 2 — 3 — 4
- F. 職場に何でも話せる人がいないと感じること・・・・ 1 — 2 — 3 — 4

問 13. 以下のうち、現在、仕事（研究や業務）を行う際に障害となっている要因は何ですか。主なものを 3つまで 選択しあてはまる記号に○をつけて下さい。

- A. 職場の人間関係
- B. 主となる仕事と関係のない業務
- C. 管理的事務
- D. 研究・業務費の金額
- E. 研究や業務のスペース・設備
- F. 研究や業務時間が十分とれないこと
- G. 研究や業務を補助する人がいないこと
- H. 女性（男性）であるための差別
- I. 妊娠・出産
- J. 育児・子供の教育
- K. 介護・看病
- L. 家事
- M. 家族の人間関係
- N. その他  
(具体的に )

問 14. 次の法律や制度を知っていますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

(1) 男女共同参画社会基本法（平成 11 年）

- 1 知っている      2 聞いたことはあるが内容には詳しくない      3 知らない

(2) 産前産後の休暇および育児休業を取得する時、科学研究費補助金による研究を中断・再開できる制度（平成 15 年度より）

- 1 知っている      2 知らない

(3) 大学院生が産前産後や育児などによって休学するとき、在学期間を延長することができる長期履修制度（平成 16 年度より）

- 1 知っている      2 知らない

(4) 就学前のお子様がいる女性大学教員の方で(2)(3)の制度を「知っている」と回答した方に、 利用経験をおうかがいします。

- 1 利用した      2 利用しなかった(理由; )

→これらの制度に関するご意見等があれば、自由にお書き下さい。

[ ]

問 15. 本学の以下の取り組みをご存じですか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

(1) 男女共同参画推進室ができたこと (本年2月より)

- 1 知っている      2 聞いたことはあるが内容には詳しくない      3 知らない

(2) 平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択されたこと

- 1 知っている      2 聞いたことはあるが内容には詳しくない      3 知らない

(3) 託児サポーター制度ができたこと (小白川キャンパス)

- 1 知っている      2 聞いたことはあるが内容には詳しくない      3 知らない

**Ⅲ. 最後にあなた自身やご家族についておうかがいします。**

問 16. 年齢 (10月1日現在) と性別をお答え下さい。あてはまる記号に○をつけて下さい。

- 年齢 a. 29才以下      b. 30才～34才      c. 35才～39才      d. 40才～44才  
e. 45才～49才      f. 50才～54才      g. 55才～59才      h. 60才以上

性別 【 a. 女性      b. 男性】

問 17. あなたの卒業・修了 (中退を含む。) した学校の所在地と、学校教育終了後、初めてついた仕事の勤務地、それぞれについて、以下の表のあてはまる番号に○をつけて下さい。大学等には国公立/私立の別に○をつけて下さい。キャンパス等が複数の都道府県にわたる場合は本部所在地ではなく、在学・勤務時に最も長い時間を過ごした所をお答え下さい。

所在地	行っていない	山形県内	山形県以外の 東北地方	東北地方以外 の国内・海外	設置者の別 ○をつけて 下さい
学校・職場					
高校	1	2	3	4	
大学学部・高専・短大	1	2	3	4	【国公立/私立】
修士課程	1	2	3	4	【国公立/私立】
博士課程	1	2	3	4	【国公立/私立】
最初の職場		2	3	4	

問 18. 配偶者・パートナーの有無、同居・別居についてお答え下さい。

- 1 配偶者・パートナーはいない      2 配偶者・パートナーと同居      3 配偶者・パートナーと別居

→ 「1 いない」と回答した方は、理由について差し支えない範囲でお答え下さい。

- 1 死別      2 離婚      3 適当な相手がいない      4 必要ない      5 その他 ( )

→ 「2 同居」「3 別居」と回答した方は、配偶者・パートナーの就職状況をお答え下さい。

- 1 常勤      2 非常勤・パート      3 無職      4 その他 (学生等具体的に; )



問 26. 現在、お子様の昼間の育児を行っているのは、主にどなたですか。また、あなたが残業する場合、育児を行っているのは主にどなたですか。それぞれの時間について、以下の表のあてはまる番号に○をつけて下さい。

育児者 時間	配偶者	子供の 祖父母	保育園	学童保育	本人・きょうだい による自己管理	その他（具体的に 記入下さい）
昼間	1	2	3	4	5	
残業の場合	1	2	3	4	5	

問 27. 子育てと仕事を両立させる上で、困難に感じることはありますか。次の中からあてはまる記号をいくつでも選んで○をつけて下さい。

- a. 仕事に対して家族の理解が得にくい
- b. 職場で子育てに対する理解が得にくい
- c. 仕事が忙しく子どもにかけられる時間が削られる
- d. 早退、遅刻、休みなど、勤務が不規則になる
- e. 仕事が忙しい時のサポート体制が十分でない
- f. 疲労、睡眠不足、精神的ストレスなど
- g. 仕事と子育てを両立させようとするると不利益を被る
- h. 仕事と子育ての両立に関する悩みを相談する人がいない
- i. その他 ( )

問 28. 医学部（飯田キャンパス）には山形大学医学部保育所が平成 19 年から設置されていますが、学内の保育所についておうかがいします。

(1) 飯田キャンパス勤務の方は、保育園を利用されたことはありますか。

- 1 利用している
- 2 利用していない

(2) 飯田キャンパス以外の勤務の方は、お勤めのキャンパスに保育所があれば利用したいですか。

- 1 利用したい
- 2 利用予定はない

※全員がご回答下さい。

問 29. 昨年度に男女共同参画推進準備室が実施したアンケート調査に答えて頂きましたか。

- 1 答えた
- 2 答えていない
- 3 覚えていない

問 30. 最後に、本学で男女共同参画を推進するために必要な取組みがあれば、ご自由にお書き下さい。

( )

ご協力、大変ありがとうございました。封筒に入れ、各部局へご提出下さい。

## 資料2 アンケート依頼添書

形大労第 3007 号  
平成 21 年 10 月 20 日

各学部長（附属支援施設等を含む。）  
教育基盤院長  
附属学校（園）長  
山形大学 事務局各部長（監査室、EM室、大学連携推進室及び 殿  
男女共同参画推進室は室長、国際化主幹は主幹）  
小白川事務部長（小白川図書館、附属博物館及び  
情報ネットワークセンターを含む。）  
保健管理センター所長

山形大学男女共同参画推進室長  
理事 北野通世

### 男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）

山形大学は、昨年 11 月に男女共同参画推進準備室を立ち上げ（本年 2 月に男女共同参画推進室に改組）、シンポジウム等さまざまな取組みをしているところです。本年 5 月には平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択され、男女共同参画推進室に専任教員を配置し、さまざまな事業を推進しています。

そこで、本学における男女共同参画を実のあるものにするため、昨年度に引き続き教職員の皆様にアンケート調査を実施することといたしました。昨年度は皆様のご協力により、半数近くの回収率を達成することができました。

ついては、本年度は下記のとおり実施させていただくこととなりますが、個人情報の保護には十分配慮して行うこととしておりますので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださるようお願いいたします。

なお、各部局で回収いただいたアンケート用紙は、11 月 18 日（水）までに男女共同参画推進室へ送付願います。

#### 記

- 実施日程：①アンケートの配付 平成 21 年 10 月 28 日（水）～30 日（金）  
②アンケートの部局提出期限 平成 21 年 11 月 13 日（金）  
③アンケートの回収期限 平成 21 年 11 月 18 日（水）
- アンケートの内容：別紙アンケート用紙のとおり
- 調査対象者：「教職員」が対象となります。今回は大学院生は対象としません。  
対象者には、定時勤務職員及び短時間勤務職員を含み、医学部にあつては医員及び研修医も含まれます。  
また、対象者には各学部の附属支援施設等の教職員を含みますので、別紙アンケート用紙項目問 2 「所属部局」の欄で確認願います。
- 実施方法：アンケート用紙（封筒付き）の配付及び回収方法を含め、各部局に一任します。  
なお、各部局で配付いただくアンケート用紙は、10 月 27 日（火）までに各部局へ送付予定です。
- 各部局への配付枚数：別紙の各部局配付部数のとおりです。  
なお、回収率確認のため、送付した部数のうち配付しなかった部数を男女共同参画推進室へ送付の際にお知らせください。

〔 本件の問い合わせ先：男女共同参画推進室 調査担当 坂無 淳  
Tel:023-628-4939 FAX:023-628-4014 E-mail: sknsj@jm.kj.yamagta-u.ac.jp 〕

## 資料 3 男女共同参画に係るアンケート調査 基礎集計表

(2009年11月実施；有効回答数1329)  
山形大学男女共同参画推進室

以下の基礎集計表では質問項目別に回答した人数と割合をまとめている。

各質問に対しての性別(女性、男性、無回答)の人数と割合、また無回答、非該当、不正回答の人数と割合、また一部、平均値などを載せている。

基礎集計表と本文中の図表については、以下の違いがあるので、基礎集計表と本文中に数値の違いがある際は、本文中の数値を参照してほしい。

1、基礎集計表の数値は、表計算ソフトEXCELで計算し、本文中の平均値などの数値は統計ソフトPASWを使用して分析した。

2、基礎集計表では無回答、非該当、不正回答なども載せているが、本文中の図表等では無回答、非該当、不正回答などは欠損値とし、分析から除外している。

3、質問項目が多く、非常にページ数が多くなってしまっているので、基礎集計表では、回答項目が多い表はページに入るようにまとめている。



I. はじめにあなたのお仕事についてうかがいます。

問1 あなたの勤務しているキャンパスの所在地に○をつけて下さい。

	キャンパス	女性	男性	性別無回答	合計
1	小白川(人)	102	142	18	262
	(%)	14.4%	26.9%	19.6%	19.7%
2	飯田(人)	539	252	60	851
	(%)	75.9%	47.8%	65.2%	64.0%
3	松波(人)	16	9	2	27
	(%)	2.3%	1.7%	2.2%	2.0%
4	米沢(人)	41	97	4	142
	(%)	5.8%	18.4%	4.3%	10.7%
5	鶴岡(人)	9	25	4	38
	(%)	1.3%	4.7%	4.3%	2.9%
	無回答	3	2	4	9
		0.4%	0.4%	4.3%	0.7%
	不正回答	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	全体(人)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	計(人)
		710	527	92	1329
	(%)	合計(%)	合計(%)	合計(%)	合計(%)
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問2 所属部局をお答えください。あてはまる番号に○をつけて下さい。

	所属(学部)部局	女性	男性	性別無回答	合計
1	人文学部	8	22	1	31
	(%)	1.1%	4.2%	1.1%	2.3%
2	地域教育文化学部等	14	18	6	38
	(%)	2.0%	3.4%	6.5%	2.9%
3	理学部・放射線同位元素実験室	13	26	3	42
	(%)	1.8%	4.9%	3.3%	3.2%
4	医学部・医学部附属病院等	528	244	56	828
	(%)	74.4%	46.3%	60.9%	62.3%
5	工学部・理工学研究科(工学)等	41	97	4	142
	(%)	5.8%	18.4%	4.3%	10.7%
6	農学部・附属やまがたフィールド科学センター等	9	26	5	40
	(%)	1.3%	4.9%	5.4%	3.0%
7	基盤教育院	2	1	0	3
	(%)	0.3%	0.2%	0.0%	0.2%
8	附属学校園(附属幼稚園を含む。)	33	21	1	55
	(%)	4.6%	4.0%	1.1%	4.1%
9	事務局・小白川事務局等	57	70	10	137
	(%)	8.0%	13.3%	10.9%	10.3%
	無回答	5	2	6	13
	(%)	0.7%	0.4%	6.5%	1.0%
	不正回答	0	0	0	0
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	全体(人)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	全体計(人)
		710	527	92	1329
	(%)	合計(%)	合計(%)	合計(%)	合計(%)
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問3 あなたの職種を選択して○をつけて下さい。定時勤務職員、短時間勤務職員等の方は、よりふさわしいと思われる職種を1つ選択して下さい。

職種・大学院生の別	女性	男性	性別無回答	合計
1 大学教員	52 7.3%	239 45.4%	16 17.4%	307 23.1%
2 附属学校園教員	29 4.1%	18 3.4%	3 3.3%	50 3.8%
3 事務系職員(施設系・図書系を含む。)	170 23.9%	132 25.0%	22 23.9%	324 24.4%
4 教室系技術職員・教務職員	19 2.7%	23 4.4%	4 4.3%	46 3.5%
5 技能系職員	21 3.0%	24 4.6%	10 10.9%	55 4.1%
6 医療職員	371 52.3%	54 10.2%	27 29.3%	452 34.0%
7 医員及び研修医	26 3.7%	27 5.1%	2 2.2%	55 4.1%
8 非常勤の研究員	7 1.0%	2 0.4%	1 1.1%	10 0.8%
9 その他	13 1.8%	6 1.1%	4 4.3%	23 1.7%
無回答	2 0.3%	2 0.4%	3 3.3%	8 0.6%
(%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
不正回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
(%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全体(人)	合計(人) 710	合計(人) 527	合計(人) 92	全体計(人) 1329
(%)	合計(%) 100.0%	合計(%) 100.0%	合計(%) 100.0%	全体計(%) 100.0%

問4

問3で、「大学教員」「非常勤の研究員」と回答した方は、もっともあてはまる研究領域を1つ選んで○をつけて下さい。

	研究領域	女性	男性	性別無回答	合計
1	人文科学系	5 0.7%	12 2.3%	0 0.0%	17 1.3%
2	社会科学系	2 0.3%	13 2.5%	1 1.1%	16 1.2%
3	理学系	4 0.6%	28 5.3%	1 1.1%	33 2.5%
4	工学系	3 0.4%	55 10.4%	1 1.1%	59 4.4%
5	農学系	2 0.3%	14 2.7%	1 1.1%	17 1.3%
6	医歯薬学系	31 4.4%	104 19.7%	10 10.9%	145 10.9%
7	教育学系・教員養成系	5 0.7%	2 0.4%	2 2.2%	9 0.7%
8	総合科学系	2 0.3%	2 0.4%	0 0.0%	4 0.3%
9	その他	3 0.4%	5 0.9%	0 0.0%	8 0.6%
	非該当	645 90.8%	282 53.5%	73 79.3%	1000 75.2%
	(%)	1 0.1%	5 0.9%	1 1.1%	7 0.5%
	無回答	7 1.0%	5 0.9%	2 2.2%	14 1.1%
	(%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	不正回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	(%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	全体(人)	合計(人) 710	合計(人) 527	合計(人) 92	全体計(人) 1329
	(%)	合計(%) 100.0%	合計(%) 100.0%	合計(%) 100.0%	全体計(%) 100.0%

問5 問3で「大学教員」と回答した方は、現在の職階について、もともとあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	大学教員の職階	女性	男性	性別無回答	合計
1	教授	13 1.8%	76 14.4%	2 2.2%	91 6.8%
2	准教授	12 1.7%	58 11.0%	3 3.3%	73 5.5%
3	常勤講師	3 0.4%	23 4.4%	2 2.2%	28 2.1%
4	助教	20 2.8%	70 13.3%	6 6.5%	96 7.2%
5	助手	3 0.4%	3 0.6%	0 0.0%	6 0.5%
6	その他	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	非該当 (%)	658 92.7%	287 54.5%	75 81.5%	1020 76.7%
	無回答 (%)	1 0.1%	8 1.5%	2 2.2%	11 0.8%
	不正回答 (%)	0 0.0%	2 0.4%	1 1.1%	3 0.2%
	全体(人)	合計(人)	合計(人)		全体計(人)
		710	527	92	1329
	(%)	合計(%)	合計(%)		
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6

問3で「大学教員」と回答した方に、おうかがいします。初めて大学・研究機関等に勤めてから何年になりますか。1年未満の方は0とご記入下さい。出産や育児による中断があった方は、その期間を含めてご回答下さい。

年数	出産・育児による中断期間	女性	男性	性別無回答	合計
1年未満		4	14	1	19
1～3年		3	21	2	26
4～6年		14	24	0	38
7～10年		6	31	4	41
11～20年		18	87	4	109
21～30年		1	39	2	42
31～40年		1	13	1	15
41年～		1	2	0	3
	回答数	48	231	14	293
	平均	10.47	14.42	13.64	12.84
	非該当 (%)	658	287	76	1021
	無回答 (%)	92.7%	54.5%	82.6%	76.8%
		4	7	2	13
	(%)	0.6%	1.3%	2.2%	1.0%
	不正回答 (%)	0	2	0	2
	(%)	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%
	計	710	527	92	1329

	出産・育児による中断期間(年)	女性	男性	性別無回答	合計
		1			1
	0.25				
	0.5	2			2
		1	7		11
	1.5	1			1
	2	1			1
	6	1			1
	回答数	10	7	0	17

問7 問3で「大学教員」と回答した方に、昨年度(平成20年度)の教育研究活動等についてうかがいます。

(1) 教育活動について、本務校への出勤日数・担当授業数等をお答え下さい。兼任で出講キャンパスが複数にわたる場合、本務校であれば出勤日として下さい。

a学期中の出勤日数	女性	男性	性別無回答	合計
週0日(人)	1	4	0	5
(%)	2.3%	1.9%	0.0%	1.8%
週2日(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
週3日(人)	1	0	0	1
(%)	2.3%	0.0%	0.0%	0.4%
週4日(人)	1	10	0	11
(%)	2.3%	4.6%	0.0%	4.1%
週4.5日(人)	1	1	0	2
(%)	2.3%	0.5%	0.0%	0.7%
週4.8日(人)	1	1	0	2
(%)	2.3%	0.5%	0.0%	0.7%
週5日(人)	30	136	8	174
(%)	68.2%	63.0%	72.7%	64.2%
週5.5日(人)	0	5	0	5
(%)	0.0%	2.3%	0.0%	1.8%
週6日(人)	6	37	2	45
(%)	13.6%	17.1%	18.2%	16.6%
週6.5日(人)	0	2	0	2
(%)	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%
週7日(人)	3	19	1	23
(%)	6.8%	8.8%	9.1%	8.5%
回答数	44	216	11	271
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均	5.08	5.22	5.36	5.22
無回答	7	21	5	33
不正回答	0	2	0	2
非該当	659	288	76	1023
計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

b夏休みなど長期休業中の出勤日数	女性	男性	性別無回答	合計
週0日(人)	2	9	1	12
(%)	7.7%	6.3%	16.7%	6.9%
週1日(人)	2	4	0	6
(%)	7.7%	2.8%	0.0%	3.4%
週2日(人)	0	6	0	6
(%)	0.0%	4.2%	0.0%	3.4%
週3日(人)	0	4	0	4
(%)	0.0%	2.8%	0.0%	2.3%
週4日(人)	3	12	0	15
(%)	11.5%	8.5%	0.0%	8.6%
週4.3日(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.7%	0.0%	0.6%
週4.5日(人)	0	3	0	3
(%)	0.0%	2.1%	0.0%	1.7%
週4.8日(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.7%	0.0%	0.6%
週5日(人)	18	81	4	103
(%)	69.2%	57.0%	66.7%	59.2%
週5.5日(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.7%	0.0%	0.6%
週6日(人)	1	14	1	16
(%)	3.8%	9.9%	16.7%	9.2%
週7日(人)	0	6	0	6
(%)	0.0%	4.2%	0.0%	3.4%
回答数	26	142	6	174
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均	4.23	4.47	4.33	4.35
無回答	9	21	4	34
不正回答	1	2	0	3
非該当	674	362	82	1118
計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
(非該当)長期休業はない	15	73	6	94
(%)				

c)授業・実習などのコマ数	女性	男性	性別無回答	合計
週1コマ未満(人)	3	18	2	23
(%)	8.6%	9.7%	22.2%	10.0%
週1～2コマ(人)	10	63	3	76
(%)	28.6%	34.1%	33.3%	33.2%
週2.5コマ(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
週3コマ(人)	5	32	0	37
(%)	14.3%	17.3%	0.0%	16.2%
週4コマ(人)	4	19	0	23
(%)	11.4%	10.3%	0.0%	10.0%
週4.5コマ(人)	2	2	1	5
(%)	5.7%	1.1%	11.1%	2.2%
週5コマ(人)	3	18	0	21
(%)	8.6%	9.7%	0.0%	9.2%
週5.5コマ(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
週6コマ(人)	4	12	2	18
(%)	11.4%	6.5%	22.2%	7.9%
週7コマ(人)	0	5	1	6
(%)	0.0%	2.7%	11.1%	2.6%
週8コマ(人)	1	5	0	6
(%)	2.9%	2.7%	0.0%	2.6%
週9コマ(人)	1	1	0	2
(%)	2.9%	0.5%	0.0%	0.9%
週10コマ(人)	1	3	0	4
(%)	2.9%	1.6%	0.0%	1.7%
週12コマ(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
週14コマ(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
週16コマ(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
週20コマ(人)	1	2	0	3
(%)	2.9%	1.1%	0.0%	1.3%
回答数	35	185	9	229
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	4.09	3.50	3.17	3.59
不正回答	6	22	3	31
非該当	0	1	0	1
計(人)	669	319	80	1068
(非該当)受け持ちはない	710	527	92	1329
	10	30	4	44

d)他大学の非常勤	女性	男性	性別無回答	合計
週0コマ(人)	4	53	4	61
(%)	21.1%	58.2%	66.7%	52.6%
週0.02コマ(人)	1	1	0	2
(%)	5.3%	1.1%	0.0%	1.7%
週0.1コマ(人)	1	0	0	1
(%)	5.3%	0.0%	0.0%	0.9%
週0.25コマ(人)	0	1	0	1
(%)	0.0%	1.1%	0.0%	0.9%
週0.5コマ(人)	0	3	1	4
(%)	0.0%	3.3%	16.7%	3.4%
週1コマ(人)	7	23	1	31
(%)	36.8%	25.3%	16.7%	26.7%
週2コマ(人)	4	8	0	12
(%)	21.1%	8.8%	0.0%	10.3%
週3コマ(人)	1	2	0	3
(%)	5.3%	2.2%	0.0%	2.6%
週5コマ(人)	1	0	0	1
(%)	5.3%	0.0%	0.0%	0.9%
回答数	19	91	6	116
無回答	9	27	3	39
非該当	682	409	83	1174
計(人)	710	527	92	1329
(非該当)受け持ちはない	23	120	7	150

(2)

e学生の研究指導の時間数	女性	男性	性別無回答	合計
週1～5時間(人) %	29 80.6%	76 43.2%	7 77.8%	112 50.7%
週5～10時間(人) %	3 8.3%	45 25.6%	1 11.1%	49 22.2%
週12～20時間(人) %	4 11.1%	42 23.9%	1 11.1%	47 21.3%
週24時間(人) %	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	1 0.5%
週25時間(人) %	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	1 0.5%
週30時間(人) %	0 0.0%	5 2.8%	0 0.0%	5 2.3%
週40時間(人) %	0 0.0%	3 1.7%	0 0.0%	3 1.4%
週45時間(人) %	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	1 0.5%
週50時間(人) %	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	1 0.5%
週360時間(人) %	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	1 0.5%
回答数	36	176	9	221
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	4.43	11.64	5.33	7.13
非該当	8	25	3	36
	666	326	80	1072
計(人) (%)	710	527	92	1329
(非該当)受け持ちはない (%)	7	37	4	48

学内外の委員会等への出席回数をお答え下さい。また、研究活動について、出張や研究費、学術誌への掲載論文数をお答え下さい。

f学内の会議(回数/月)	女性	男性	性別無回答	合計
0～3 (%)	23 62.2%	125 63.1%	7 70.0%	155 63.3%
4～6 (%)	6 16.2%	46 23.2%	3 30.0%	55 22.4%
7 (%)	1 2.7%	3 1.5%	0 0.0%	4 1.6%
7.5 (%)	0 0.0%	3 1.5%	0 0.0%	3 1.2%
8 (%)	2 5.4%	4 2.0%	0 0.0%	6 2.4%
10 (%)	3 8.1%	10 5.1%	0 0.0%	13 5.3%
12 (%)	0 0.0%	2 1.0%	0 0.0%	2 0.8%
13 (%)	1 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%
14 (%)	1 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%
15 (%)	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.4%
20 (%)	0 0.0%	2 1.0%	0 0.0%	2 0.8%
28 (%)	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.4%
30 (%)	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.4%
回答数	37	198	10	245
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	3.98	3.86	2.75	3.53
不正回答	4	16	3	23
非該当	3	4	0	7
計(人) (%)	666	309	79	1054
(非該当)受け持ちはない (%)	710	527	92	1329
	10	23	3	36

g学外の会議(地方公共団体等の委員)(回数/月)	女性	男性	性別無回答	合計
0	0	35	3	38
(%)	0.0%	37.2%	42.9%	32.5%
0.038	1	0	0	1
(%)	6.3%	0.0%	0.0%	0.9%
0.1	1	4	0	5
(%)	6.3%	4.3%	0.0%	4.3%
0.2	0	1	0	1
(%)	0.0%	1.1%	0.0%	0.9%
0.25	1	1	0	2
(%)	6.3%	1.1%	0.0%	1.7%
0.3	1	2	0	3
(%)	6.3%	2.1%	0.0%	2.6%
0.5	4	5	2	11
(%)	25.0%	5.3%	28.6%	9.4%
1	5	26	2	33
(%)	31.3%	27.7%	28.2%	28.2%
2	3	12	0	15
(%)	18.8%	12.8%	0.0%	12.8%
3	0	4	0	4
(%)	0.0%	4.3%	0.0%	3.4%
4	0	3	0	3
(%)	0.0%	3.2%	0.0%	2.6%
5	0	1	0	1
(%)	0.0%	1.1%	0.0%	0.9%
回答数	16	94	7	117
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	0.86	0.88	0.43	0.72
不正回答	7	24	4	35
非該当	2	3	0	5
計(人)	685	406	81	1172
(非該当)受け持ちはない	710	527	92	1329
(%)	27	119	5	151

h学外の会議(学会や研究会の会合)(回数/月)	女性	男性	性別無回答	合計
0~0.1	1	17	0	18
(%)	3.6%	11.2%	0.0%	9.6%
0.2	0	3	0	3
(%)	0.0%	2.0%	0.0%	1.6%
0.25	1	1	0	2
(%)	3.6%	0.7%	0.0%	1.1%
0.3	2	3	0	5
(%)	7.1%	2.0%	0.0%	2.7%
0.33	1	0	0	1
(%)	3.6%	0.0%	0.0%	0.5%
0.4	1	0	0	1
(%)	3.6%	0.0%	0.0%	0.5%
0.5	5	26	2	33
(%)	17.9%	17.1%	25.0%	17.6%
0.58	1	0	0	1
(%)	3.6%	0.0%	0.0%	0.5%
1	11	73	4	88
(%)	39.3%	48.0%	50.0%	46.8%
1.5	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.7%	0.0%	0.5%
2	3	19	1	23
(%)	10.7%	12.5%	12.5%	12.2%
2.5	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.7%	0.0%	0.5%
3	1	2	0	3
(%)	3.6%	1.3%	0.0%	1.6%
3.5	1	0	0	1
(%)	3.6%	0.0%	0.0%	0.5%
4	0	4	1	5
(%)	0.0%	2.6%	12.5%	2.7%
5	0	2	0	2
(%)	0.0%	1.3%	0.0%	1.1%
回答数	28	152	8	188
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	1.01	1.07	1.38	1.15
不正回答	6	24	4	34
非該当	2	4	0	6
計(人)	674	347	80	1101
(非該当)受け持ちはない	710	527	92	1329
(%)	17	61	4	82

国内出張(日/年)	女性	男性	性別無回答	合計
0~5	21	60	8	89
(%)	47.7%	28.3%	61.5%	33.1%
6~10	10	77	3	90
(%)	22.7%	36.3%	23.1%	33.5%
11~20	9	47	1	57
(%)	20.5%	22.2%	7.7%	21.2%
21~30	3	11	1	15
(%)	6.8%	5.2%	7.7%	5.6%
31~40	0	6	0	6
(%)	0.0%	2.8%	0.0%	2.2%
41~50	1	5	0	6
(%)	2.3%	2.4%	0.0%	2.2%
60	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
70	0	2	0	2
(%)	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%
90	0	2	0	2
(%)	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%
120	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
回答数	44	212	13	269
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	10.61	14.17	6.65	10.48
不正回答	7	25	3	35
非該当	2	5	0	7
計(人)	657	285	76	1018
	710	527	92	1329

海外出張(日/年)	女性	男性	性別無回答	合計
0~5	37	161	10	208
(%)	88.1%	77.4%	90.9%	79.7%
11~15	1	5	0	6
(%)	2.4%	2.4%	0.0%	2.3%
16~20	0	4	0	4
(%)	0.0%	1.9%	0.0%	1.5%
21~30	0	3	0	3
(%)	0.0%	1.4%	0.0%	1.1%
40	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
110	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
150	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
300	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
回答数	42	208	11	261
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	1.45	5.68	1.73	2.95
不正回答	9	30	4	43
非該当	656	287	77	1020
計(人)	710	527	92	1329



k科研究費の採択	女性	男性	性別無回答	合計
有(人)	22	94	4	120
(%)	46.8%	42.9%	30.8%	43.0%
代表者	14	46	3	63
(%)				
分担者	8	31	1	40
(%)				
連携研究者	0	5	0	5
(%)				
なし(人)	25	125	9	159
(%)	53.2%	57.1%	69.2%	57.0%
合計(人)	47	219	13	279
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	4	19	3	26
不正回答	4	3	0	7
非該当	655	286	76	1017
計(人)	710	527	92	1329

l科研究費以外の研究費	女性	男性	性別無回答	合計
有(人)	7	89	2	98
(%)	15.6%	40.6%	15.4%	35.4%
なし(人)	38	130	11	179
(%)	84.4%	59.4%	84.6%	64.6%
合計(人)	45	219	13	277
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	6	19	3	28
不正回答	4	3	0	7
非該当	655	286	76	1017
計(人)	710	527	92	1329

m学術誌の掲載論文数	女性	男性	性別無回答	合計
0	10	49	1	60
(%)	22.2%	23.0%	8.3%	22.2%
1	20	58	5	83
(%)	44.4%	27.2%	41.7%	30.7%
2	7	31	3	41
(%)	15.6%	14.6%	25.0%	15.2%
3	5	28	2	35
(%)	11.1%	13.1%	16.7%	13.0%
4	1	14	0	15
(%)	2.2%	6.6%	0.0%	5.6%
5	1	14	0	15
(%)	2.2%	6.6%	0.0%	5.6%
6	0	4	1	5
(%)	0.0%	1.9%	8.3%	1.9%
7	0	4	0	4
(%)	0.0%	1.9%	0.0%	1.5%
8	1	2	0	3
(%)	2.2%	0.9%	0.0%	1.1%
9	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
10	0	3	0	3
(%)	0.0%	1.4%	0.0%	1.1%
12	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
13	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
16	0	2	0	2
(%)	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%
20	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.5%	0.0%	0.4%
回答数	45	213	12	270
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均	1.47	2.41	1.92	1.93
無回答	6	25	3	34
不正回答	2	3	0	5
非該当	657	286	77	1020
計(人)	710	527	92	1329

問3で「大学教員」と回答した方に、昨年度までの過去3年度(平成18、19、20年度)の大学院生(修士課程と博士課程を含む。)の指導についてうかがいます。

問8

(1)過去3年度に大学院生を指導しましたか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

料研費以外の研究費	女性	男性	性別無回答	合計
1 指導した (%)	17 35.4%	156 69.3%	7 53.8%	180 62.9%
2 指導する立場にはない (%)	25 52.1%	50 22.2%	6 46.2%	81 28.3%
3 指導する立場だが院生はいなかった (%)	6 12.5%	19 8.4%	0 0.0%	25 8.7%
合計(人)	48 100.0%	225 100.0%	13 100.0%	286 100.0%
無回答	3	12	3	18
不正回答	0	1	0	1
非該当	659	289	76	1024
計(人)	710	527	92	1329

(2) (1)で過去3年度に大学院生を指導したと答えた方は、その人数を男女別にお答えください。そのうち、研究職志望だった学生は何人くらいいましたか。

①指導した人数	女性	男性	性別無回答	合計
0 (%)	3 21.4%	50 37.9%	3 50.0%	56 36.8%
1 (%)	2 14.3%	36 27.3%	2 33.3%	40 26.3%
2 (%)	4 28.6%	22 16.7%	1 16.7%	27 17.8%
3 (%)	0 0.0%	11 8.3%	0 0.0%	11 7.2%
4 (%)	1 7.1%	7 5.3%	0 0.0%	8 5.3%
5 (%)	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.3%
6 (%)	1 7.1%	3 2.3%	0 0.0%	4 2.6%
7 (%)	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.7%
8 (%)	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.7%
9 (%)	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%
10 (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
12 (%)	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.7%
回答数	14	132	6	152
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非該当	2.79	1.47	0.67	1.64
計(人)	693	371	85	1149
	710	527	92	1329

①指導した人数	男性	女性	性別無回答	合計
0 (%)	10 6.6%	1 8.3%	1 14.3%	12 7.0%
1 (%)	39 25.7%	5 41.7%	1 14.3%	45 26.3%
2 (%)	28 18.4%	4 33.3%	3 42.9%	35 20.5%
3 (%)	16 10.5%	1 8.3%	1 14.3%	18 10.5%
4 (%)	10 6.6%	0 0.0%	1 14.3%	11 6.4%
5 (%)	10 6.6%	0 0.0%	0 0.0%	10 5.8%
6 (%)	7 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	7 4.1%
7 (%)	5 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 2.9%
9 (%)	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%
10 (%)	7 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	7 4.1%
11 (%)	2 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%
12 (%)	3 2.0%	1 8.3%	0 0.0%	4 2.3%
13 (%)	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%
15 (%)	3 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.8%
19 (%)	2 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%
21 (%)	2 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%
23 (%)	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%
25 (%)	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%
回答数	152	12	7	171
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	4.38	2.33	2.00	2.90
非該当	371	693	85	1149
計(人)	527	710	92	1329

②研究者志望の人数	女性	男性	性別無回答	合計
0	8	86	3	97
(%)	61.5%	74.8%	100.0%	74.0%
1	2	21	0	23
(%)	15.4%	18.3%	0.0%	17.6%
2	2	5	0	7
(%)	15.4%	4.3%	0.0%	5.3%
3	0	2	0	2
(%)	0.0%	1.7%	0.0%	1.5%
4	1	0	0	1
(%)	7.7%	0.0%	0.0%	0.8%
6	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.9%	0.0%	0.8%
回答数	13	115	3	131
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均	0.77	0.37	0.00	0.38
無回答	4	41	4	49
不正回答	0	0	0	0
非該当	693	371	85	1149
計(人)	710	527	92	1329

②研究者志望の人数	男性	女性	性別無回答	合計
0	10	69	3	82
(%)	83.3%	53.5%	60.0%	56.2%
1	2	30	2	34
(%)	16.7%	23.3%	40.0%	23.3%
2	0	14	0	14
(%)	0.0%	10.9%	0.0%	9.6%
3	0	2	0	2
(%)	0.0%	1.6%	0.0%	1.4%
4	0	3	0	3
(%)	0.0%	2.3%	0.0%	2.1%
5	0	8	0	8
(%)	0.0%	6.2%	0.0%	5.5%
7	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.8%	0.0%	0.7%
19	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.8%	0.0%	0.7%
25	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.8%	0.0%	0.7%
回答数	12	129	5	146
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均	0.17	1.29	0.40	0.62
無回答	5	27	2	34
不正回答	0	0	0	0
非該当	693	371	85	1149
計(人)	710	527	92	1329

II 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関して、お尋ねします。  
 問9 次にあげることについて、あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

A	子どもの世話は夫婦で協力して行うべきだ そう思う	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	586	380	66	1032
	(%)	82.5%	72.1%	71.7%	77.7%
2	まあそう思う	113	140	22	275
	(%)	15.9%	26.6%	23.9%	20.7%
3	あまり思わない	6	4	1	11
	(%)	0.8%	0.8%	1.1%	0.8%
4	そう思わない	4	1	2	7
	(%)	0.6%	0.2%	2.2%	0.5%
	無回答	1	2	1	4
	(%)	0.1%	0.4%	1.1%	0.3%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C	夫に経済力があれば、家事育児は妻が やるべきだ	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	25	22	5	52
	(%)	3.5%	4.2%	5.4%	3.9%
2	まあそう思う	104	103	13	220
	(%)	14.6%	19.5%	14.1%	16.6%
3	あまり思わない	344	243	42	629
	(%)	48.5%	46.1%	45.7%	47.3%
4	そう思わない	235	153	28	416
	(%)	33.1%	29.0%	30.4%	31.3%
	2と3の中間に○	0	1	1	2
	(%)	0.0%	0.2%	1.1%	0.2%
	無回答	2	5	3	10
	(%)	0.3%	0.9%	3.3%	0.8%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

E	日本の大学は女性の教職員が少ない	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	143	163	19	325
	(%)	20.1%	30.9%	20.7%	24.5%
2	まあそう思う	306	227	33	566
	(%)	43.1%	43.1%	35.9%	42.6%
3	あまり思わない	234	110	32	376
	(%)	33.0%	20.9%	34.8%	28.3%
4	そう思わない	19	20	6	45
	(%)	2.7%	3.8%	6.5%	3.4%
	2と3の中間に○	0	0	0	0
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	6	6	2	14
	(%)	0.8%	1.1%	2.2%	1.1%
	不正回答	2	1	0	3
	(%)	0.3%	0.2%	0.0%	0.2%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B	結婚は女性にとって不利になることが多い そう思う	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	132	82	22	236
	(%)	18.6%	15.6%	23.9%	17.8%
2	まあそう思う	261	201	29	491
	(%)	36.8%	38.1%	31.5%	36.9%
3	あまり思わない	228	161	28	417
	(%)	32.1%	30.6%	30.4%	31.4%
4	そう思わない	88	77	11	176
	(%)	12.4%	14.6%	12.0%	13.2%
	2と3の中間に○	0	1	0	1
	(%)	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	無回答	1	5	2	8
	(%)	0.1%	0.9%	2.2%	0.6%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ そう思う	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	14	19	2	35
	(%)	2.0%	3.6%	2.2%	2.6%
2	まあそう思う	67	82	8	157
	(%)	9.4%	15.6%	8.7%	11.8%
3	あまり思わない	302	234	48	584
	(%)	42.5%	44.4%	52.2%	43.9%
4	そう思わない	325	184	30	539
	(%)	45.8%	34.9%	32.6%	40.6%
	2と3の中間に○	0	0	1	1
	(%)	0.0%	0.0%	1.1%	0.1%
	無回答	2	4	2	8
	(%)	0.3%	0.8%	2.2%	0.6%
	不正回答	0	4	1	5
	(%)	0.0%	0.8%	1.1%	0.4%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

F	大学の女性教員はもっと増えてもよい	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	146 20.6%	147 27.9%	15 16.3%	308 23.2%
2	まあそう思う (%)	360 50.7%	226 42.9%	44 47.8%	630 47.4%
3	あまり思わない (%)	186 26.2%	131 24.9%	22 23.9%	339 25.5%
4	そう思わない (%)	10 1.4%	14 2.7%	7 7.6%	31 2.3%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	6 0.8%	7 1.3%	2 2.2%	15 1.1%
	不正回答	2 0.3%	2 0.4%	1 1.1%	5 0.4%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

G	本学は女性が働きやすい環境が整っている	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	16 2.3%	23 4.4%	5 5.4%	44 3.3%
2	まあそう思う (%)	203 28.6%	183 34.7%	24 26.1%	410 30.9%
3	あまり思わない (%)	347 48.9%	235 44.6%	42 45.7%	624 47.0%
4	そう思わない (%)	135 19.0%	80 15.2%	19 20.7%	234 17.6%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	9 1.3%	6 1.1%	2 2.2%	17 1.3%
	不正回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

H	本学は女性が育児休業を取得しやすい 雰囲気がある	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	41 5.8%	43 8.2%	4 4.3%	88 6.6%
2	まあそう思う (%)	269 37.9%	197 37.4%	33 35.9%	499 37.5%
3	あまり思わない (%)	255 35.9%	195 37.0%	31 33.7%	481 36.2%
4	そう思わない (%)	136 19.2%	77 14.6%	21 22.8%	234 17.6%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	9 1.3%	15 2.8%	3 3.3%	27 2.0%
	不正回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

I	本学は男性が育児休業を取得しやすい 雰囲気がある	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	7 1.0%	4 0.8%	2 2.2%	13 1.0%
2	まあそう思う (%)	34 4.8%	31 5.9%	11 12.0%	76 5.7%
3	あまり思わない (%)	291 41.0%	165 31.3%	29 31.5%	485 36.5%
4	そう思わない (%)	369 52.0%	318 60.3%	47 51.1%	734 55.2%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	9 1.3%	9 1.7%	2 2.2%	20 1.5%
	不正回答	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

問10 日本の大学で女性教員や研究者が少ない理由について、どう思われますか。あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

A	社会的な偏見があるから	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	62	48	5	115
	(%)	8.7%	9.1%	5.4%	8.7%
2	まあそう思う	216	145	20	381
	(%)	30.4%	27.5%	21.7%	28.7%
3	あまり思わない	340	218	45	603
	(%)	47.9%	41.4%	48.9%	45.4%
4	そう思わない	82	108	18	208
	(%)	11.5%	20.5%	19.6%	15.7%
	2と3の中間に○	0	1	0	1
	(%)	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	無回答	10	7	4	21
	(%)	1.4%	1.3%	4.3%	1.6%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B	男女間には能力の差があるから	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	15	12	3	30
	(%)	2.1%	2.3%	3.3%	2.3%
2	まあそう思う	114	47	17	178
	(%)	16.1%	8.9%	18.5%	13.4%
3	あまり思わない	393	226	37	656
	(%)	55.4%	42.9%	40.2%	49.4%
4	そう思わない	180	234	30	444
	(%)	25.4%	44.4%	32.6%	33.4%
	2と3の中間に○	0	1	1	2
	(%)	0.0%	0.2%	1.1%	0.2%
	無回答	8	7	4	19
	(%)	1.1%	1.3%	4.3%	1.4%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C	幼少期から男女で違った育てられ方をす	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	25	22	3	50
	(%)	3.5%	4.2%	3.3%	3.8%
2	まあそう思う	196	140	27	363
	(%)	27.6%	26.6%	29.3%	27.3%
3	あまり思わない	371	222	42	635
	(%)	52.3%	42.1%	45.7%	47.8%
4	そう思わない	111	134	16	261
	(%)	15.6%	25.4%	17.4%	19.6%
	2と3の中間に○	0	0	0	0
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	7	9	4	20
	(%)	1.0%	1.7%	4.3%	1.5%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D	女子に高学歴を期待しない親が多いから	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	12	14	2	28
	(%)	1.7%	2.7%	2.2%	2.1%
2	まあそう思う	135	122	17	274
	(%)	19.0%	23.1%	18.5%	20.6%
3	あまり思わない	408	241	42	691
	(%)	57.5%	45.7%	45.7%	52.0%
4	そう思わない	148	141	25	314
	(%)	20.8%	26.8%	27.2%	23.6%
	2と3の中間に○	0	0	0	0
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	7	9	6	22
	(%)	1.0%	1.7%	6.5%	1.7%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

E	中学や高校での進路指導が適切でないから	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	17	17	4	38
	(%)	2.4%	3.2%	4.3%	2.9%
2	まあそう思う	104	77	15	196
	(%)	14.6%	14.6%	16.3%	14.7%
3	あまり思わない	412	259	42	713
	(%)	58.0%	49.1%	45.7%	53.6%
4	そう思わない	169	163	25	357
	(%)	23.8%	30.9%	27.2%	26.9%
	2と3の中間に○	0	1	0	1
	(%)	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	無回答	8	10	6	24
	(%)	1.1%	1.9%	6.5%	1.8%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

F	お手本になるような女性研究者が少ないから	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	50	53	8	111
	(%)	7.0%	10.1%	8.7%	8.4%
2	まあそう思う	273	182	31	486
	(%)	38.5%	34.5%	33.7%	36.6%
3	あまり思わない	275	173	32	480
	(%)	38.7%	32.8%	34.8%	36.1%
4	そう思わない	104	111	15	230
	(%)	14.6%	21.1%	16.3%	17.3%
	2と3の中間に○	0	1	0	1
	(%)	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	無回答	8	7	6	21
	(%)	1.1%	1.3%	6.5%	1.6%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

G	男性が多い職場だから そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		73 10.3%	73 13.9%	9 9.8%	155 11.7%
2		364 51.3%	239 45.4%	39 42.4%	642 48.3%
3		208 29.3%	137 26.0%	25 27.2%	370 27.8%
4		58 8.2%	69 13.1%	13 14.1%	140 10.5%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	1 0.1%
	無回答	7 1.0%	8 1.5%	6 6.5%	21 1.6%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

I	男性を採用する傾向があるから そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		118 16.6%	57 10.8%	8 8.7%	183 13.8%
2		314 44.2%	177 33.6%	33 35.9%	524 39.4%
3		230 32.4%	191 36.2%	37 40.2%	458 34.5%
4		37 5.2%	93 17.6%	8 8.7%	138 10.4%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	10 1.4%	9 1.7%	6 6.5%	25 1.9%
	不正回答	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

K	育児期間後の復帰が困難だから そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		174 24.5%	92 17.5%	19 20.7%	285 21.4%
2		364 51.3%	238 45.2%	40 43.5%	642 48.3%
3		138 19.4%	133 25.2%	22 23.9%	293 22.0%
4		26 3.7%	55 10.4%	6 6.5%	87 6.5%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	8 1.1%	9 1.7%	5 5.4%	22 1.7%
	不正回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

H	労働時間が長いから そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		139 19.6%	107 20.3%	21 22.8%	267 20.1%
2		351 49.4%	195 37.0%	38 41.3%	584 43.9%
3		171 24.1%	148 28.1%	18 19.6%	337 25.4%
4		41 5.8%	68 12.9%	9 9.8%	118 8.9%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	8 1.1%	9 1.7%	6 6.5%	23 1.7%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

J	家庭と仕事の両立が困難だから そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		235 33.1%	128 24.3%	25 27.2%	388 29.2%
2		385 54.2%	253 48.0%	47 51.1%	685 51.5%
3		67 9.4%	101 19.2%	11 12.0%	179 13.5%
4		15 2.1%	38 7.2%	5 5.4%	58 4.4%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	8 1.1%	7 1.3%	4 4.3%	19 1.4%
	不正回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

L	研究に興味を持つ人が本能的性向として 女性に少ないから そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		48 6.8%	35 6.6%	5 5.4%	88 6.6%
2		195 27.5%	119 22.6%	18 19.6%	332 25.0%
3		333 46.9%	219 41.6%	41 44.6%	593 44.6%
4		126 17.7%	146 27.7%	24 26.1%	296 22.3%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	8 1.1%	8 1.5%	4 4.3%	20 1.5%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

問11 男女ともに、仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

A	性別役割分担の意識を変える そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		238	116	22	376
		33.5%	22.0%	23.9%	28.3%
2		362	248	46	656
		51.0%	47.1%	50.0%	49.4%
3		90	117	17	224
		12.7%	22.2%	18.5%	16.9%
4		9	38	2	49
		1.3%	7.2%	2.2%	3.7%
	2と3の中間に○	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	11	8	5	24
		1.5%	1.5%	5.4%	1.8%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B	仕事中心の考え方を考える そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		218	154	25	397
		30.7%	29.2%	27.2%	29.9%
2		369	253	50	672
		52.0%	48.0%	54.3%	50.6%
3		106	90	9	205
		14.9%	17.1%	9.8%	15.4%
4		7	25	3	35
		1.0%	4.7%	3.3%	2.6%
	2と3の中間に○	0	1	0	1
		0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	無回答	10	4	5	19
		1.4%	0.8%	5.4%	1.4%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C	職場の雰囲気を変える そう思う (%)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		315	162	29	506
		44.4%	30.7%	31.5%	38.1%
2		327	246	45	618
		46.1%	46.7%	48.9%	46.5%
3		58	98	9	165
		8.2%	18.6%	9.8%	12.4%
4		1	17	3	21
		0.1%	3.2%	3.3%	1.6%
	2と3の中間に○	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	9	4	5	18
		1.3%	0.8%	5.4%	1.4%
	不正回答	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	1.1%	0.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D	上司の理解	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		416	203	38	657
		58.6%	38.5%	41.3%	49.4%
2		264	255	40	559
		37.2%	48.4%	43.5%	42.1%
3		18	49	6	73
		2.5%	9.3%	6.5%	5.5%
4		2	15	3	20
		0.3%	2.8%	3.3%	1.5%
	2と3の中間に○	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	10	4	5	19
		1.4%	0.8%	5.4%	1.4%
	不正回答	0	1	0	1
		0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



E 労働時間の短縮		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	345 48.6%	197 37.4%	34 37.0%	576 43.3%
2	まあそう思う (%)	292 41.1%	208 39.5%	39 42.4%	539 40.6%
3	あまり思わない (%)	61 8.6%	100 19.0%	11 12.0%	172 12.9%
4	そう思わない (%)	1 0.1%	18 3.4%	2 2.2%	21 1.6%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	11	4	5	20
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

G 多様な休業制度		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	406 57.2%	213 40.4%	38 41.3%	657 49.4%
2	まあそう思う (%)	259 36.5%	229 43.5%	30 32.6%	518 39.0%
3	あまり思わない (%)	35 4.9%	67 12.7%	12 13.0%	114 8.6%
4	そう思わない (%)	0 0.0%	13 2.5%	6 6.5%	19 1.4%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	10	5	5	20
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

I 休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	251 35.4%	156 29.6%	26 28.3%	433 32.6%
2	まあそう思う (%)	276 38.9%	218 41.4%	40 43.5%	534 40.2%
3	あまり思わない (%)	150 21.1%	117 22.2%	18 19.6%	285 21.4%
4	そう思わない (%)	21 3.0%	30 5.7%	3 3.3%	54 4.1%
	無回答	12	6	5	23
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

F 勤務時間の弾力化		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	346 48.7%	224 42.5%	38 41.3%	608 45.7%
2	まあそう思う (%)	305 43.0%	245 46.5%	35 38.0%	585 44.0%
3	あまり思わない (%)	42 5.9%	42 8.0%	10 10.9%	94 7.1%
4	そう思わない (%)	3 0.4%	10 1.9%	3 3.3%	16 1.2%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	14	6	5	25
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

H 休業中の代替要員の確保		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	361 50.8%	239 45.4%	34 37.0%	634 47.7%
2	まあそう思う (%)	298 42.0%	231 43.8%	39 42.4%	568 42.7%
3	あまり思わない (%)	39 5.5%	42 8.0%	10 10.9%	91 6.8%
4	そう思わない (%)	1 0.1%	10 1.9%	3 3.3%	14 1.1%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	11	5	5	21
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

J 休業中の経済的支援		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	352 49.6%	196 37.2%	36 39.1%	584 43.9%
2	まあそう思う (%)	301 42.4%	228 43.3%	40 43.5%	569 42.8%
3	あまり思わない (%)	40 5.6%	85 16.1%	9 9.8%	134 10.1%
4	そう思わない (%)	5 0.7%	14 2.7%	2 2.2%	21 1.6%
	無回答	11	4	5	20
	不正回答	1	0	0	1
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

K 研究や授業等の支援員の確保		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	264	174	27	465
	(%)	37.2%	33.0%	29.3%	35.0%
2	まあそう思う	339	252	43	634
	(%)	47.7%	47.8%	46.7%	47.7%
3	あまり思わない	90	75	13	178
	(%)	12.7%	14.2%	14.1%	13.4%
4	そう思わない	4	15	2	21
	(%)	0.6%	2.8%	2.2%	1.6%
	無回答	13	10	7	30
		1.8%	1.9%	7.6%	2.3%
	不正回答	0	1	0	1
		0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

L 学内委員会等の負担の軽減		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	271	173	34	478
	(%)	38.2%	32.8%	37.0%	36.0%
2	まあそう思う	326	217	37	580
	(%)	45.9%	41.2%	40.2%	43.6%
3	あまり思わない	92	110	13	215
	(%)	13.0%	20.9%	14.1%	16.2%
4	そう思わない	6	22	1	29
	(%)	0.8%	4.2%	1.1%	2.2%
	無回答	14	5	7	26
		2.0%	0.9%	7.6%	2.0%
	不正回答	1	0	0	1
		0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

M 夕方5時以降の会議の廃止		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	390	217	44	651
	(%)	54.9%	41.2%	47.8%	49.0%
2	まあそう思う	250	169	36	455
	(%)	35.2%	32.1%	39.1%	34.2%
3	あまり思わない	55	109	6	170
	(%)	7.7%	20.7%	6.5%	12.8%
4	そう思わない	2	28	2	32
	(%)	0.3%	5.3%	2.2%	2.4%
	無回答	12	4	4	20
		1.7%	0.8%	4.3%	1.5%
	不正回答	1	0	0	1
		0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

N 職場内に授乳室やブレイルームを設置		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	308	169	37	514
	(%)	43.4%	32.1%	40.2%	38.7%
2	まあそう思う	289	239	35	563
	(%)	40.7%	45.4%	38.0%	42.4%
3	あまり思わない	95	93	11	199
	(%)	13.4%	17.6%	12.0%	15.0%
4	そう思わない	7	18	4	29
	(%)	1.0%	3.4%	4.3%	2.2%
	無回答	11	8	5	24
		1.5%	1.5%	5.4%	1.8%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

O 家事のサポート		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	267	121	30	418
	(%)	37.6%	23.0%	32.6%	31.5%
2	まあそう思う	292	236	41	569
	(%)	41.1%	44.8%	44.6%	42.8%
3	あまり思わない	119	130	13	262
	(%)	16.8%	24.7%	14.1%	19.7%
4	そう思わない	22	31	4	57
	(%)	3.1%	5.9%	4.3%	4.3%
	無回答	10	9	4	23
		1.4%	1.7%	4.3%	1.7%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

P 保育サービス利用の経済的支援		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う	371	177	37	585
	(%)	52.3%	33.6%	40.2%	44.0%
2	まあそう思う	285	254	37	576
	(%)	40.1%	48.2%	40.2%	43.3%
3	あまり思わない	40	75	10	125
	(%)	5.6%	14.2%	10.9%	9.4%
4	そう思わない	4	15	3	22
	(%)	0.6%	2.8%	3.3%	1.7%
	無回答	10	6	5	21
		1.4%	1.1%	5.4%	1.6%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q	病時保育	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	436 61.4%	219 41.6%	51 55.4%	706 53.1%
2	まあそう思う (%)	243 34.2%	248 47.1%	30 32.6%	521 39.2%
3	あまり思わない (%)	19 2.7%	45 8.5%	4 4.3%	68 5.1%
4	そう思わない (%)	1 0.1%	6 1.1%	1 1.1%	8 0.6%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	11 1.5%	9 1.7%	6 6.5%	26 2.0%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

S	両立に関する精神的支援 そう思う	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	347 48.9%	168 31.9%	42 45.7%	557 41.9%
2	まあそう思う (%)	282 39.7%	249 47.2%	36 39.1%	567 42.7%
3	あまり思わない (%)	65 9.2%	83 15.7%	8 8.7%	156 11.7%
4	そう思わない (%)	5 0.7%	19 3.6%	2 2.2%	26 2.0%
	無回答	11 1.5%	7 1.3%	4 4.3%	22 1.7%
	不正回答	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	1 0.1%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

B	出勤したくないと感じること よくある	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	よくある (%)	224 31.5%	102 19.4%	22 23.9%	348 26.2%
2	ときどきある (%)	270 38.0%	199 37.8%	33 35.9%	502 37.8%
3	あまりない (%)	166 23.4%	167 31.7%	23 25.0%	356 26.8%
4	まったくくない (%)	46 6.5%	56 10.6%	10 10.9%	112 8.4%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	4 0.6%	3 0.6%	3 3.3%	10 0.8%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

R	介護への支援 そう思う	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	そう思う (%)	409 57.6%	219 41.6%	47 51.1%	675 50.8%
2	まあそう思う (%)	271 38.2%	245 46.5%	37 40.2%	553 41.6%
3	あまり思わない (%)	18 2.5%	47 8.9%	1 1.1%	66 5.0%
4	そう思わない (%)	2 0.3%	8 1.5%	2 2.2%	12 0.9%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	10 1.4%	8 1.5%	5 5.4%	23 1.7%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

A	忙しすぎると感じる こと	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	よくある (%)	361 50.8%	258 49.0%	41 44.6%	660 49.7%
2	ときどきある (%)	247 34.8%	205 38.9%	31 33.7%	483 36.3%
3	あまりない (%)	82 11.5%	52 9.9%	11 12.0%	145 10.9%
4	まったくくない (%)	16 2.3%	10 1.9%	4 4.3%	30 2.3%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	4 0.6%	2 0.4%	4 4.3%	10 0.8%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

C	今の仕事を辞めたいと思うこと よくある	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	よくある (%)	164 23.1%	65 12.3%	20 21.7%	249 18.7%
2	ときどきある (%)	244 34.4%	129 24.5%	28 30.4%	401 30.2%
3	あまりない (%)	195 27.5%	198 37.6%	27 29.3%	420 31.6%
4	まったくくない (%)	100 14.1%	131 24.9%	13 14.1%	244 18.4%
	2と3の中間に○ (%)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 0.1%
	無回答	7 1.0%	4 0.8%	3 3.3%	14 1.1%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

問12 次のようなことを感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

D	会議や授業で発言しにくいと思うこと	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	よくある	139	71	19	229
	(%)	19.6%	13.5%	20.7%	17.2%
2	ときどきある	270	202	26	498
	(%)	38.0%	38.3%	28.3%	37.5%
3	あまりない	238	196	31	465
	(%)	33.5%	37.2%	33.7%	35.0%
4	まったくくない	45	52	11	108
	(%)	6.3%	9.9%	12.0%	8.1%
	無回答	18	6	5	29
	(%)	2.5%	1.1%	5.4%	2.2%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

F	職場に何でも話せる人がいないと感じること	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	よくある	72	45	10	127
	(%)	10.1%	8.5%	10.9%	9.6%
2	ときどきある	200	156	25	381
	(%)	28.2%	29.6%	27.2%	28.7%
3	あまりない	322	240	36	598
	(%)	45.4%	45.5%	39.1%	45.0%
4	まったくくない	107	80	17	204
	(%)	15.1%	15.2%	18.5%	15.3%
	2と3の中間に〇	0	0	0	0
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	9	6	4	19
	(%)	1.3%	1.1%	4.3%	1.4%
	不正回答	0	0	0	0
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問13 以下のうち、現在、仕事(研究や業務)を行う際に障害となっている要因は何ですか。主なものを3つまで選択しあてはまる記号に〇をつけて下さい。

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
A. 職場の人間関係	259	153	33	445
(%)	17.6%	12.6%	16.0%	15.4%
B. 主となる仕事と関係のない業務	338	251	37	626
(%)	22.9%	20.6%	18.0%	21.6%
C. 管理的事務	88	113	13	214
(%)	6.0%	9.3%	6.3%	7.4%
D. 研究・業務費の金額	50	117	10	177
(%)	3.4%	9.6%	4.9%	6.1%
E. 研究や業務のスペース・設備	73	115	13	201
(%)	5.0%	9.4%	6.3%	6.9%
F. 研究や業務時間が十分とれないこと	156	184	23	363
(%)	10.6%	15.1%	11.2%	12.5%
G. 研究や業務を補助する人がいないこと	114	149	19	282
(%)	7.7%	12.2%	9.2%	9.7%
H. 女性(男性)であるための差別	19	4	4	27
(%)	1.3%	0.3%	1.9%	0.9%

E	性別によって異なる処遇があると感じること	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	よくある	85	46	11	142
	(%)	12.0%	8.7%	12.0%	10.7%
2	ときどきある	210	153	35	398
	(%)	29.6%	29.0%	38.0%	29.9%
3	あまりない	338	239	36	613
	(%)	47.6%	45.4%	39.1%	46.1%
4	まったくくない	71	83	7	161
	(%)	10.0%	15.7%	7.6%	12.1%
	無回答	6	6	3	15
	(%)	0.8%	1.1%	3.3%	1.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
I. 妊娠・出産	58	8	7	73
(%)	3.9%	0.7%	3.4%	2.5%
J. 育児・子供の教育	98	40	14	152
(%)	6.6%	3.3%	6.8%	5.2%
K. 介護・看病	55	18	10	83
(%)	3.7%	1.5%	4.9%	2.9%
L. 家事	94	19	13	126
(%)	6.4%	1.6%	6.3%	4.3%
M. 家族の人間関係	20	13	3	36
(%)	1.4%	1.1%	1.5%	1.2%
N. その他	52	33	7	92
(%)	3.5%	2.7%	3.4%	3.2%
回答数	1474	1217	206	2897
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答超過件数	7	5	3	15

問14 次のような法律や制度を知っていますか。

(1)男女共同参画社会基本法(平成11年)		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	知っている	143	144	28	315
	(%)	20.1%	27.3%	30.4%	23.7%
2	聞いたことはあるが内容には詳しくない	491	337	53	881
	(%)	69.2%	63.9%	57.6%	66.3%
3	知らない	73	44	9	126
	(%)	10.3%	8.3%	9.8%	9.5%
	無回答	3	2	2	7
	(%)	0.4%	0.4%	2.2%	0.5%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3)大学院生の長期履修制度		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	知っている	185	191	26	402
	(%)	26.1%	36.2%	28.3%	30.2%
2	知らない	517	332	62	911
	(%)	72.8%	63.0%	67.4%	68.5%
	無回答	8	4	4	16
	(%)	1.1%	0.8%	4.3%	1.2%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問15 本学の以下の取り組みをご存じですか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

(1)男女共同参画推進室		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	知っている	112	165	20	297
	(%)	15.8%	31.3%	21.7%	22.3%
2	聞いたことはあるが内容には詳しくない	216	193	26	435
	(%)	30.4%	36.6%	28.3%	32.7%
3	知らない	370	164	35	569
	(%)	52.1%	31.1%	38.0%	42.8%
	無回答	12	5	11	28
	(%)	1.7%	0.9%	12.0%	2.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3)託児サポーター制度		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	知っている	81	79	15	175
	(%)	11.4%	15.0%	16.3%	13.2%
2	聞いたことはあるが内容には詳しくない	131	112	11	254
	(%)	18.5%	21.3%	12.0%	19.1%
3	知らない	483	329	51	863
	(%)	68.0%	62.4%	55.4%	64.9%
	無回答	15	7	15	37
	(%)	2.1%	1.3%	16.3%	2.8%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2)科学研究費補助金の中断・再開制度		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	知っている	163	173	25	361
	(%)	23.0%	32.8%	27.2%	27.2%
2	知らない	542	352	62	956
	(%)	76.3%	66.8%	67.4%	71.9%
	無回答	5	2	5	12
	(%)	0.7%	0.4%	5.4%	0.9%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4)利用経験		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	利用した	1	0	0	1
	(%)	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
2	利用しなかった	6	0	0	6
	(%)	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%
	無回答	0	0	0	0
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不正回答	20	5	5	30
	(%)	2.8%	0.9%	5.4%	2.3%
	非該当	683	522	87	1292
	(%)	96.2%	99.1%	94.6%	97.2%
	合計(人)	710	527	92	1329

(2)「女性研究者支援モデル育成」の採択		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	知っている	43	72	13	128
	(%)	6.1%	13.7%	14.1%	9.6%
2	聞いたことはあるが内容には詳しくない	139	111	12	262
	(%)	19.6%	21.1%	13.0%	19.7%
3	知らない	516	338	54	908
	(%)	72.7%	64.1%	58.7%	68.3%
	無回答	12	6	13	31
	(%)	1.7%	1.1%	14.1%	2.3%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅲ. 最後にあなた自身やご家族についておうかがいします。

問16 年齢(10月1日現在)と性別をお答え下さい。あてはまる記号に○をつけて下さい。

年齢	女性	男性	性別無回答	合計(人)
a.29才以下	260	69	12	341
(%)	0.368	0.131	0.162	0.261
b.30才～34才	111	70	7	188
(%)	0.157	0.133	0.095	0.144
c.35才～39才	91	72	17	180
(%)	0.129	0.137	0.230	0.138
d.40才～44才	70	62	20	152
(%)	0.099	0.118	0.270	0.116
e.45才～49才	49	75	2	126
(%)	0.069	0.143	0.027	0.096
f.50才～54才	74	69	2	145
(%)	0.105	0.131	0.027	0.111
g.55才～59才	42	64	8	114
(%)	0.059	0.122	0.108	0.087
h.60才以上	10	45	6	61
(%)	0.014	0.086	0.081	0.047
回答数	707	526	74	1307
(%)	99.6%	99.8%	80.4%	98.3%
無回答	3	1	18	22
(%)	0.4%	0.2%	19.6%	1.7%
不正回答	0	0	0	0
非該当	0	0	0	0
計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	女性	男性	性別無回答	合計(人)
性別	710	527	92	1329
(%)	53.4%	39.7%	6.9%	100.0%

あなたの卒業・修了(中退を含む。)した学校の所在地と、学校教育終了後、初めてついた仕事の勤務地、それぞれについて、以下の表のあてはまる番号に○をつけて下さい。大学等には国公立/私立の別に○をつけて下さい。キャンパス等が複数の都道府県にわたる場合は本部所在地ではなく、在学・勤務時に最も長い時間を過ごした所をお答え下さい。

高校	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1 行っていない	0	4	0	4
(%)	0.0%	0.8%	0.0%	0.3%
2 山形県内	511	233	45	789
(%)	72.0%	44.2%	48.9%	59.4%
3 山形県以外の東北地方	65	87	7	159
(%)	9.2%	16.5%	7.6%	12.0%
4 東北地方以外の国内・海外	70	170	10	250
(%)	9.9%	32.3%	10.9%	18.8%
無回答	63	32	30	125
(%)	8.9%	6.1%	32.6%	9.4%
不正回答	1	1	0	2
(%)	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%
合計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

大学学部・高専・短大	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1 行っていない	56	52	4	112
(%)	7.9%	9.9%	4.3%	8.4%
2 山形県内	303	160	27	490
(%)	42.7%	30.4%	29.3%	36.9%
3 山形県以外の東北地方	105	111	13	229
(%)	14.8%	21.1%	14.1%	17.2%
4 東北地方以外の国内・海外	181	156	13	350
(%)	25.5%	29.6%	14.1%	26.3%
無回答	62	47	35	144
(%)	8.7%	8.9%	38.0%	10.8%
不正回答	3	1	0	4
(%)	0.4%	0.2%	0.0%	0.3%
合計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設置者	女性	男性	性別無回答	合計(人)
国公立	218	216	14	448
(%)	30.7%	41.0%	15.2%	33.7%
私立	119	51	9	179
(%)	16.8%	9.7%	9.8%	13.5%
無回答	253	161	30	444
(%)	35.6%	30.6%	32.6%	33.4%
非該当	120	99	39	258
(%)	16.9%	18.8%	42.4%	19.4%
合計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

修士課程	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1 行っていない	299	163	13	475
(%)	42.1%	30.9%	14.1%	35.7%
2 山形県内	42	52	6	100
(%)	5.9%	9.9%	6.5%	7.5%
3 山形県以外の東北地方	9	50	3	62
(%)	1.3%	9.5%	3.3%	4.7%
4 東北地方以外の国内・海外	34	97	6	137
(%)	4.8%	18.4%	6.5%	10.3%
無回答	324	165	64	553
(%)	45.6%	31.3%	69.6%	41.6%
不正回答	1	0	0	1
(%)	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
非該当	1	0	0	1
(%)	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
合計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

博士課程	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1 行っていない	333	198	16	547
(%)	46.9%	37.6%	17.4%	41.2%
2 山形県内	18	50	6	74
(%)	2.5%	9.5%	6.5%	5.6%
3 山形県以外の東北地方	7	39	4	50
(%)	1.0%	7.4%	4.3%	3.8%
4 東北地方以外の国内・海外	19	81	2	102
(%)	2.7%	15.4%	2.2%	7.7%
無回答	332	159	64	555
(%)	46.8%	30.2%	69.6%	41.8%
不正回答	1	0	0	1
(%)	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
非該当	0	0	0	0
(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

設置者	国公立	私立	無回答	不正回答	非該当	合計(人)
(%)	6.5%	21.8%	115	6	167	
設置者	46	13	14	2	6	
(%)	1.8%	2.7%	2.2%	7.6%	83.7%	
無回答	31	71	7	109		
(%)	4.4%	13.5%	0.0%	0.0%	0.2%	
不正回答	2	0	0	2		
(%)	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	
非該当	618	327	77	1022		
(%)	87.0%	62.0%	83.7%	76.9%		
合計(人)	710	527	92	1329		
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

設置者	国公立	私立	無回答	不正回答	非該当	合計(人)
(%)	3.7%	19.2%	101	4	131	
設置者	26	3	6	1	4	
(%)	0.4%	1.1%	1.1%	1.1%	0.8%	
無回答	16	60	7	83		
(%)	2.3%	11.4%	7.6%	6.2%		
不正回答	1	1	0	2		
(%)	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%		
非該当	664	359	80	1103		
(%)	93.5%	68.1%	87.0%	83.0%		
合計(人)	710	527	92	1329		
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

1	最初の職場 行っていない (%)	女性		男性		性別無回答	合計(人)
		人数	割合	人数	割合		
2	山形県内 (%)	416	58.6%	276	52.4%	36	728
3	山形県以外の東北地方 (%)	33	4.6%	49	9.3%	4	86
4	東北地方以外の国内・海外 (%)	114	16.1%	134	25.4%	8	256
	無回答	147	20.7%	68	12.9%	44	259
	不正回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0
	非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0
	合計(人) (%)	710	100.0%	527	100.0%	92	1329

問18 配偶者・パートナーの有無、同居・別居についてお答え下さい。

1	配偶者・パートナーはいない (%)	女性		男性		性別無回答	合計(人)
		人数	割合	人数	割合		
2	配偶者・パートナーと同居 (%)	324	45.6%	357	67.7%	54	735
3	配偶者・パートナーと別居 (%)	71	10.0%	55	10.4%	1	127
	無回答	6	0.8%	3	0.6%	15	24
	非該当	1	0.1%	0	0.0%	0	1
	合計(人) (%)	710	100.0%	527	100.0%	92	1329

→「1 いらない」と回答した方は、理由について差し支えない範囲でお答え下さい。

1	死別 (%)	女性		男性		性別無回答	合計(人)
		人数	割合	人数	割合		
2	離婚 (%)	20	2.8%	8	1.5%	0	28
3	適当な相手がいらない (%)	213	30.0%	72	13.7%	14	299
4	必要ない (%)	19	2.7%	9	1.7%	2	30
5	その他 (%)	29	4.1%	13	2.5%	3	45
	無回答	18	2.5%	7	1.3%	0	25
	不正回答	0	0.0%	3	0.6%	1	4
	非該当	402	56.6%	413	78.4%	70	885
	合計(人) (%)	710	100.0%	527	100.0%	92	1329



→「2 同居」3 別居」と回答した方は、配偶者・パートナーの就職状況をお答え下さい。 問19

あなたは、家事や育児・介護を平日にどのくらい行いますか。家族がいない等の場合は2に○をつけ、家族はいてもご自身は行わない場合は0分とご記入下さい。

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	327 (%)	119 22.6%	32 34.8%	478 36.0%
2	17 2.4%	92 17.5%	2 2.2%	111 8.4%
3	11 1.5%	170 32.3%	12 13.0%	193 14.5%
4	14 2.0%	12 2.3%	0 0.0%	26 2.0%
	26 3.7%	19 3.6%	9 9.8%	54 4.1%
	315 44.4%	115 21.8%	37 40.2%	467 35.1%
	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

	家事の時間(分)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0	32	75	2	109
	%	4.5%	14.2%	2.2%	8.2%
2	0.5~20	16	67	1	84
		2.3%	12.7%	1.1%	6.3%
3	30~60	176	243	23	442
		24.8%	46.1%	25.0%	33.3%
4	70~120	162	47	17	226
		22.8%	8.9%	18.5%	17.0%
5	130~180	97	14	10	121
		13.7%	2.7%	10.9%	9.1%
6	210~360	98	6	12	116
		13.8%	1.1%	13.0%	8.7%
7	390~480	12	1	2	15
		1.7%	0.2%	2.2%	1.1%
8	510~960	8	0	1	9
		1.1%	0.0%	1.1%	0.7%
	回答	601	453	68	1122
	平均(分)	137	48	136	107
	無回答	106	74	24	204
		14.9%	14.0%	26.1%	15.3%
	不正回答	3	0	0	3
		0.4%	0.0%	0.0%	0.2%
	非該当	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計(人)(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	育児の時間(分)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0	27	41	4	72
	%	15.1%	24.3%	12.1%	18.9%
2	10	0	7	1	8
		0.0%	4.1%	3.0%	2.1%
3	15	0	6	0	6
		0.0%	3.6%	0.0%	1.6%
4	20	0	1	0	1
		0.0%	0.6%	0.0%	0.3%
5	30	6	29	4	39
		3.4%	17.2%	12.1%	10.2%
6	40	0	1	0	1
		0.0%	0.6%	0.0%	0.3%
7	60	29	46	7	82
		16.2%	27.2%	21.2%	21.5%
8	90	3	6	0	9
		1.7%	3.6%	0.0%	2.4%
9	120	34	19	4	57
		19.0%	11.2%	12.1%	15.0%
10	150	5	1	0	6
		2.8%	0.6%	0.0%	1.6%
11	180	13	6	6	25
		7.3%	3.6%	18.2%	6.6%
12	210	1	0	0	1
		0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
13	240	10	1	1	12
		5.6%	0.6%	3.0%	3.1%
14	270	3	0	0	3
		1.7%	0.0%	0.0%	0.8%
15	300	22	2	3	27
		12.3%	1.2%	9.1%	7.1%
16	330	2	0	0	2
		1.1%	0.0%	0.0%	0.5%
17	360	10	1	1	12
		5.6%	0.6%	3.0%	3.1%
18	420	4	0	0	4
		2.2%	0.0%	0.0%	1.0%
19	450	1	0	0	1
		0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
20	480	4	0	0	4
		2.2%	0.0%	0.0%	1.0%
21	540	1	0	1	2
		0.6%	0.0%	3.0%	0.5%

22	720	1	0	0	1
		0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
23	840	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	3.0%	0.3%
24	900	1	0	0	1
		0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
25	1080	1	0	0	1
		0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
26	1200	0	1	0	1
		0.0%	0.6%	0.0%	0.3%
27	1440	1	1	0	2
		0.6%	0.6%	0.0%	0.5%
	回答	179	169	33	381
		25.2%	32.1%	35.9%	28.7%
	平均(分)	181	69	151	134
	無回答	76	27	18	121
		10.7%	5.1%	19.6%	9.1%
	不正回答	3	1	0	4
		0.4%	0.2%	0.0%	0.3%
	非該当	452	330	41	823
		63.7%	62.6%	44.6%	61.9%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	180	169	33	382
	25.4%	32.1%	35.9%	28.7%
2	452	331	41	824
	63.7%	62.8%	44.6%	62.0%
	無回答	76	18	121
	10.7%	5.1%	19.6%	9.1%
	不正回答	2	0	2
	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
	非該当	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計(人)	710	527	92
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%

	介護の時間(分)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0	49	81	10	140
	%	54.4%	85.3%	100.0%	71.8%
2	2.5	1	0	0	1
		1.1%	0.0%	0.0%	0.5%
3	10	2	1	0	3
		2.2%	1.1%	0.0%	1.5%
4	15	0	1	0	1
		0.0%	1.1%	0.0%	0.5%
5	20	2	0	0	2
		2.2%	0.0%	0.0%	1.0%
6	30	9	2	0	11
		10.0%	2.1%	0.0%	5.6%
7	60	16	5	0	21
		17.8%	5.3%	0.0%	10.8%
8	120	7	2	0	9
		7.8%	2.1%	0.0%	4.6%
9	150	0	1	0	1
		0.0%	1.1%	0.0%	0.5%
10	180	1	0	0	1
		1.1%	0.0%	0.0%	0.5%
11	240	2	1	0	3
		2.2%	1.1%	0.0%	1.5%
12	330	1	0	0	1
		1.1%	0.0%	0.0%	0.5%
13	420	0	1	0	1
		0.0%	1.1%	0.0%	0.5%
	回答	90	95	10	195
		12.7%	18.0%	10.9%	14.7%
	平均(分)	35	15	0	17
	無回答	106	42	24	172
		14.9%	8.0%	26.1%	12.9%
	不正回答	2	2	0	4
		0.3%	0.4%	0.0%	0.3%
	非該当	512	388	58	958
		72.1%	73.6%	63.0%	72.1%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

		女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	介護時間回答 (%)	90	96	10	196
		12.7%	18.2%	10.9%	14.7%
2	介護が必要な家族はいない (%)	512	388	58	958
	無回答	107	42	24	173
		15.1%	8.0%	26.1%	13.0%
	不正回答	1	1	0	2
		0.1%	0.2%	0.0%	0.2%
	非該当	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問20 あなたは、お子様をお持ちですか。あてはまる番号に○をつけて下さい。いない方は将来の希望の有無をお答え下さい。お持ちの方は年齢別のお子様の数をご記入下さい。

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	410	172	28	610
	57.7%	32.6%	30.4%	45.9%
2	286	348	46	680
	40.3%	66.0%	50.0%	51.2%
	14	7	18	39
	2.0%	1.3%	19.6%	2.9%
	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	710	527	92	1329
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2 子どもを持っている⇒

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	230	294	41	565
	32.4%	55.8%	44.6%	42.5%
2	55	45	5	105
	7.7%	8.5%	5.4%	7.9%
3	0	8	0	8
	0.0%	1.5%	0.0%	0.6%
4	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1	1	2	4
	0.1%	0.2%	2.2%	0.3%
	424	179	44	647
	59.7%	34.0%	47.8%	48.7%
	710	527	92	1329
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

1 子どもはいない⇒ 将来子どもを持つ希望の有無に○をつけて下さい。

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	294	118	16	428
	41.4%	22.4%	17.4%	32.2%
2	92	49	12	153
	13.0%	9.3%	13.0%	11.5%
	24	8	5	37
	3.4%	1.5%	5.4%	2.8%
	19	16	1	36
	2.7%	3.0%	1.1%	2.7%
	281	336	58	675
	39.6%	63.8%	63.0%	50.8%
	710	527	92	1329
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	229	274	31	534
	32.3%	52.0%	33.7%	40.2%
2	47	64	13	124
	6.6%	12.1%	14.1%	9.3%
3	9	8	2	19
	1.3%	1.5%	2.2%	1.4%
4	0	1	0	1
	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
	1	1	2	4
	0.1%	0.2%	2.2%	0.3%
	424	179	44	647
	59.7%	34.0%	47.8%	48.7%
	710	527	92	1329
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	子どもの年齢 小学生	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0人	204	254	32	490
	(%)	28.7%	48.2%	34.8%	36.9%
2	1人	57	62	11	130
	(%)	8.0%	11.8%	12.0%	9.8%
3	2人	22	28	3	53
	(%)	3.1%	5.3%	3.3%	4.0%
4	3人	2	3	0	5
	(%)	0.3%	0.6%	0.0%	0.4%
	無回答	1	1	2	4
		0.1%	0.2%	2.2%	0.3%
	非該当	424	179	44	647
		59.7%	34.0%	47.8%	48.7%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	子どもの年齢 高校生	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0人	232	298	41	571
	(%)	32.7%	56.5%	44.6%	43.0%
2	1人	43	41	5	89
	(%)	6.1%	7.8%	5.4%	6.7%
3	2人	9	8	0	17
	(%)	1.3%	1.5%	0.0%	1.3%
4	3人	1	0	0	1
	(%)	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
	無回答	1	1	2	4
		0.1%	0.2%	2.2%	0.3%
	非該当	424	179	44	647
		59.7%	34.0%	47.8%	48.7%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	子どもの年齢 中学生	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0人	247	293	35	575
	(%)	34.8%	55.6%	38.0%	43.3%
2	1人	32	51	9	92
	(%)	4.5%	9.7%	9.8%	6.9%
3	2人	6	3	1	10
	(%)	0.8%	0.6%	1.1%	0.8%
4	3人	0	0	1	1
	(%)	0.0%	0.0%	1.1%	0.1%
	無回答	1	1	2	4
		0.1%	0.2%	2.2%	0.3%
	非該当	424	179	44	647
		59.7%	34.0%	47.8%	48.7%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	子どもの年齢 その他	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0人	169	181	30	380
	(%)	23.8%	34.3%	32.6%	28.6%
2	1人	36	43	1	80
	(%)	5.1%	8.2%	1.1%	6.0%
3	2人	57	92	12	161
	(%)	8.0%	17.5%	13.0%	12.1%
4	3人	21	26	3	50
	(%)	3.0%	4.9%	3.3%	3.8%
5	4人	1	1	0	2
	(%)	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%
	無回答	1	4	2	7
		0.1%	0.8%	2.2%	0.5%
	不正回答	1	1	0	2
		0.1%	0.2%	0.0%	0.2%
	非該当	424	179	44	647
		59.7%	34.0%	47.8%	48.7%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問21 お子様がいる方、また将来持つ希望のある方は、理想のお子様の数は何人ですか。

問22

中学生以下のお子様がいる方にうかがいます。お子様の病気によって仕事を休んだことは、年に何日くらいありますか。

理想の子どもの数	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	18	16	0	34
(%)	3.4%	4.0%	0.0%	3.5%
2	4	1	0	5
(%)	0.8%	0.2%	0.0%	0.5%
3	260	183	23	466
(%)	49.1%	45.4%	47.9%	47.6%
4	18	4	1	23
(%)	3.4%	1.0%	2.1%	2.3%
5	212	180	22	414
(%)	40.1%	44.7%	45.8%	42.2%
6	4	0	0	4
(%)	0.8%	0.0%	0.0%	0.4%
7	12	9	1	22
(%)	2.3%	2.2%	2.1%	2.2%
8	0	1	0	1
(%)	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
9	1	8	0	9
(%)	0.2%	2.0%	0.0%	0.9%
10	0	1	1	2
(%)	0.0%	0.2%	2.1%	0.2%
回答	529.00	403.00	48.00	980.00
	74.5%	76.5%	52.2%	73.7%
平均	2.4	2.5	2.7	2.5
無回答	69	65	17	151
	9.7%	12.3%	18.5%	11.4%
不正回答	17	3	0	20
	2.4%	0.6%	0.0%	1.5%
非該当	95	56	27	178
	13.4%	10.6%	29.3%	13.4%
合計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	子どもの病気によって仕事を休んだ日数(年間)	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	0	44	101	10	155
(%)		29.9%	58.0%	37.0%	44.5%
2	0.5	2	0	0	2
(%)		1.4%	0.0%	0.0%	0.6%
3	1	17	25	7	49
(%)		11.6%	14.4%	25.9%	14.1%
4	1.5	2	0	0	2
(%)		1.4%	0.0%	0.0%	0.6%
5	2	12	17	1	30
(%)		8.2%	9.8%	3.7%	8.6%
6	2.5	3	2	1	6
(%)		2.0%	1.1%	3.7%	1.7%
7	3	12	11	3	26
(%)		8.2%	6.3%	11.1%	7.5%
8	3.5	2	1	0	3
(%)		1.4%	0.6%	0.0%	0.9%
9	4	5	2	0	7
(%)		3.4%	1.1%	0.0%	2.0%
10	4.5	1	0	1	2
(%)		0.7%	0.0%	3.7%	0.6%
11	5~8.5	28	12	3	43
(%)		19.0%	6.9%	11.1%	12.4%
12	10~15	15	2	1	18
(%)		10.2%	1.1%	3.7%	5.2%
13	20	2	1	0	3
(%)		1.4%	0.6%	0.0%	0.9%
14	30	1	0	0	1
(%)		0.7%	0.0%	0.0%	0.3%
15	40	1	0	0	1
(%)		0.7%	0.0%	0.0%	0.3%
回答		147	174	27	348
		20.7%	33.0%	29.3%	26.2%
平均(分)		3.6	1.3	1.9	2.3
無回答		14	14	4	32
		2.0%	2.7%	4.3%	2.4%
不正回答		5	1	0	6
		0.7%	0.2%	0.0%	0.5%
非該当		544	338	61	943
		76.6%	64.1%	66.3%	71.0%
合計(人)		710	527	92	1329
(%)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問23 問22で休んだ日数は十分でしたか。十分でなかった場合、何日位必要だと思いましたが、  
また、十分に休めなかった理由は何か。

休みは	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1 十分だった	41	50	7	98
(%)	33.6%	44.6%	28.0%	37.8%
2 十分でなかった	81	62	18	161
(%)	66.4%	55.4%	72.0%	62.2%
回答	122	112	25	259
(%)	17.2%	21.3%	27.2%	19.5%
無回答	13	8	1	22
(%)	1.8%	1.5%	1.1%	1.7%
不正回答	1	1	0	2
(%)	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%
非該当	574	406	66	1046
(%)	80.8%	77.0%	71.7%	78.7%
合計(人)	710	527	92	1329
(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	必要な日数	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	1	0	1	0	1
	(%)	0.0%	1.7%	0.0%	0.7%
2	2	3	3	2	8
	(%)	4.3%	5.1%	14.3%	5.6%
3	2.5	2	2	0	4
	(%)	2.9%	3.4%	0.0%	2.8%
4	3	9	13	6	28
	(%)	12.9%	22.0%	42.9%	19.6%
5	3.5	6	0	1	7
	(%)	8.6%	0.0%	7.1%	4.9%
6	4	1	1	0	2
	(%)	1.4%	1.7%	0.0%	1.4%
7	5	5	8	0	13
	(%)	7.1%	13.6%	0.0%	9.1%
8	6	1	0	0	1
	(%)	1.4%	0.0%	0.0%	0.7%
9	7	11	14	2	27
	(%)	15.7%	23.7%	14.3%	18.9%
10	8	2	1	0	3
	(%)	2.9%	1.7%	0.0%	2.1%
11	10~10.5	12	11	2	25
	(%)	17.1%	18.6%	14.3%	17.5%
12	12~12.5	2	0	0	2
	(%)	2.9%	0.0%	0.0%	1.4%
13	14	2	2	0	4
	(%)	2.9%	3.4%	0.0%	2.8%
14	15	6	1	0	7
	(%)	8.6%	1.7%	0.0%	4.9%
15	20	7	1	1	9
	(%)	10.0%	1.7%	7.1%	6.3%
16	30	1	1	0	2
	(%)	1.4%	1.7%	0.0%	1.4%
	回答	70	59	14	143
	(%)	9.9%	11.2%	15.2%	10.8%
	平均(分)	8.9	6.9	5.7	7.1
	無回答	20	11	4	35
	(%)	2.8%	2.1%	4.3%	2.6%
	不正回答	1	0	1	2
	(%)	0.1%	0.0%	1.1%	0.2%
	非該当	619	457	73	1149
	(%)	87.2%	86.7%	79.3%	86.5%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問25 お子様を困難なく保育園に入れることができましたか。

	保育園へ 簡単に入れた	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		25 3.5%	28 5.3%	10 10.9%	63 4.7%
2	少し困難だった	40 5.6%	19 3.6%	1 1.1%	60 4.5%
3	困難だった	10 1.4%	7 1.3%	3 3.3%	20 1.5%
4	利用しなかった	18 2.5%	36 6.8%	4 4.3%	58 4.4%
	無回答	4 0.6%	9 1.7%	0 0.0%	13 1.0%
	不正回答	12 1.7%	12 2.3%	2 2.2%	26 2.0%
	非該当	601 84.6%	416 78.9%	72 78.3%	1089 81.9%
	合計(人)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

問26 現在、お子様の昼間の育児を行っているのは、主にどなたですか。また、あなたが残業する場合、育児を行っているのは主にどなたですか。それぞれの時間について、以下の表のあてはまる番号に○をつけて下さい。

	昼間の育児 配偶者	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		2 1.9%	67 65.7%	5 27.9%	74 33.2%
2	子どもの祖父母	19 18.4%	6 5.9%	1 5.6%	26 11.7%
3	保育園	70 68.0%	26 25.5%	11 61.1%	107 48.0%
4	学童保育	11 10.7%	3 2.9%	1 5.6%	15 6.7%
5	本人・きょうだい自己管理	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%
	合計(人)	103 100.0%	102 100.0%	18 100.0%	223 100.0%

	残業の場合 配偶者	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1		33 30.6%	82 84.5%	9 56.3%	124 56.1%
2	子どもの祖父母	44 40.7%	7 7.2%	4 25.0%	55 24.9%
3	保育園	24 22.2%	7 7.2%	3 18.8%	34 15.4%
4	学童保育	6 5.6%	1 1.0%	0 0.0%	7 3.2%
5	本人・きょうだい自己管理	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
	合計(人)	108 100.0%	97 100.0%	16 100.0%	221 100.0%



問27 子育てと仕事を両立させる上で、困難に感じることがありますか。次の中からあてはまる記号をいくつでも選んで○をつけて下さい。

a	仕事に対して家族の理解が得にくい	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	9 1.3%	15 2.8%	3 3.3%	27 2.0%
2	選択なし (%)	89 12.5%	85 16.1%	15 16.3%	189 14.2%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	7 1.0%	4 0.8%	2 2.2%	13 1.0%
	非該当	604 85.1%	422 80.1%	72 78.3%	1098 82.6%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

b	職場で子育てに対する理解が得にくい	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	19 2.7%	23 4.4%	2 2.2%	44 3.3%
2	選択なし (%)	79 11.1%	77 14.6%	16 17.4%	172 12.9%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	15 2.1%	5 0.9%	2 2.2%	22 1.7%
	非該当	596 83.9%	421 79.9%	72 78.3%	1089 81.9%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

c	仕事が忙しく、子どもにかかる時間が削られる	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	63 8.9%	64 12.1%	7 7.6%	134 10.1%
2	選択なし (%)	35 4.9%	36 6.8%	11 12.0%	82 6.2%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	25 3.5%	19 3.6%	4 4.3%	48 3.6%
	非該当	586 82.5%	407 77.2%	70 76.1%	1063 80.0%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

d	早退、遅刻、休みなど、勤務が不規則になる	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	28 3.9%	15 2.8%	3 3.3%	46 3.5%
2	選択なし (%)	70 9.9%	85 16.1%	15 16.3%	170 12.8%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	16 2.3%	2 0.4%	4 4.3%	22 1.7%
	非該当	595 83.8%	424 80.5%	70 76.1%	1089 81.9%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

e	仕事忙しいときのサポート体制が十分でない	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	34 4.8%	34 6.5%	6 6.5%	74 5.6%
2	選択なし (%)	64 9.0%	66 12.5%	12 13.0%	142 10.7%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	16 2.3%	11 2.1%	4 4.3%	31 2.3%
	非該当	595 83.8%	415 78.7%	70 76.1%	1080 81.3%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

g	仕事と子育てを両立させようとすると不利益を被る	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	22 3.1%	27 5.1%	3 3.3%	52 3.9%
2	選択なし (%)	76 10.7%	73 13.9%	15 16.3%	164 12.3%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	12 1.7%	6 1.1%	2 2.2%	20 1.5%
	非該当	599 84.4%	420 79.7%	72 78.3%	1091 82.1%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

i	その他	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	4 0.6%	6 1.1%	0 0.0%	10 0.8%
2	選択なし (%)	94 13.2%	94 17.8%	18 19.6%	206 15.5%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	0 0.0%	0 0.0%	2 2.2%	2 0.2%
	非該当	611 86.1%	426 80.8%	72 78.3%	1109 83.4%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

f	疲労、睡眠不足、精神的ストレスなど	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	67 9.4%	44 8.3%	8 8.7%	119 9.0%
2	選択なし (%)	31 4.4%	56 10.6%	10 10.9%	97 7.3%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	33 4.6%	11 2.1%	5 5.4%	49 3.7%
	非該当	578 81.4%	415 78.7%	69 75.0%	1062 79.9%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

h	仕事と子育ての両立に関する悩みを相談する人がいない	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	○で選択 (%)	9 1.3%	9 1.7%	1 1.1%	19 1.4%
2	選択なし (%)	89 12.5%	91 17.3%	17 18.5%	197 14.8%
	無回答	1 0.1%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.2%
	不正回答	5 0.7%	3 0.6%	1 1.1%	9 0.7%
	非該当	606 85.4%	423 80.3%	73 79.3%	1102 82.9%
	合計(人) (%)	710 100.0%	527 100.0%	92 100.0%	1329 100.0%

問28 医学部(飯田キャンパス)には山形大学医学部保育所が平成19年から設置されていますが、学内の保育所についておうかがいします。

(1)飯田キャンパス勤務の方は、保育園を利用されたことはありませんか。

	利用している	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	利用している	16	11	0	27
	(%)	2.3%	2.1%	0.0%	2.0%
2	利用していない	46	43	15	104
	(%)	6.5%	8.2%	16.3%	7.8%
	無回答	5	3	0	8
		0.7%	0.6%	0.0%	0.6%
	不正回答	56	35	10	101
		7.9%	6.6%	10.9%	7.6%
	非該当	587	435	67	1089
		82.7%	82.5%	72.8%	81.9%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2)飯田キャンパス以外の勤務の方は、お勤めのキャンパスに保育所があれば利用したいですか。

	利用したい	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	利用したい	13	16	1	30
	(%)	1.8%	3.0%	1.1%	2.3%
2	利用予定はない	11	24	2	37
	(%)	1.5%	4.6%	2.2%	2.8%
	無回答	6	5	0	11
		0.8%	0.9%	0.0%	0.8%
	不正回答	32	33	12	77
		4.5%	6.3%	13.0%	5.8%
	非該当	648	449	77	1174
		91.3%	85.2%	83.7%	88.3%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問29 昨年度に男女共同参画推進準備室が実施したアンケート調査に答えて頂きましたか。

	答えた	女性	男性	性別無回答	合計(人)
1	答えた	362	239	37	638
	(%)	51.0%	45.4%	40.2%	48.0%
2	答えてない	173	97	17	287
	(%)	24.4%	18.4%	18.5%	21.6%
3	覚えてない	152	178	23	353
	(%)	21.4%	33.8%	25.0%	26.6%
	無回答	23	13	15	51
		3.2%	2.5%	16.3%	3.8%
	非該当	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計(人)	710	527	92	1329
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## 資料4 先行調査

アルファベット順。以下の先行調査・資料は、2009年8月に山形大学男女共同参画推進室で入手できたものの一部をピックアップしたものである。収集できなかった調査、また収集時以後に行われた調査もあり、また、大学によって調査時期、調査方法、調査内容がそれぞれ異なっているので、詳しくはそれぞれの調査を参照して頂きたい。

### ① 女性研究者支援モデル育成採択機関の調査

- 秋田大学男女共同参画推進専門委員会，2007，『男女共同参画推進に関する意識調査報告書』，  
<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/danjyo/contents/1903%20report.pdf>.
- 千葉大学両立支援企画室，2009，『千葉大学における両立支援ニーズ調査報告書』，  
[http://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/common/pdf/invest\\_h20.pdf](http://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/common/pdf/invest_h20.pdf).
- 独立行政法人産業技術総合研究所，2006，「別紙 男女共同参画推進に関するアンケート調査結果」『産業技術総合研究所男女共同参画の推進策』：27-57，  
<http://unit.aist.go.jp/gender/ci/data/2005survey-summarized.pdf>.
- 独立行政法人森林総合研究所男女共同参画室，2009，『森林総合研究所における男女共同参画意識調査報告書』，独立行政法人森林総合研究所男女共同参画室.
- 金沢大学男女共同参画推進委員会，2008，『金沢大学男女共同参画に関する提言書－男女共同参画に関するアンケート調査の結果を踏まえて』，  
[http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad\\_jinji/danjo/teigensyo.pdf](http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_jinji/danjo/teigensyo.pdf).
- 慶應義塾大学ワークライフバランス研究センター，2009，『慶應義塾大学教員のワークライフバランスと男女共同参画に関する調査』，[http://www.wlb.keio.ac.jp/project/doc/H20research\\_WLB.pdf](http://www.wlb.keio.ac.jp/project/doc/H20research_WLB.pdf).
- 神戸大学男女共同参画推進室，2008，『神戸大学教職員の男女共同参画に関する意識調査報告書』，  
<http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/data/pdf/ishikityousa080627.pdf>.
- 国立大学法人熊本大学，2009，『「女性研究者支援モデル育成事業」に係る熊本大学男女共同参画意識調査』，  
<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/data/report20090323.pdf>.
- 国立大学法人東京農工大学女性キャリア支援・開発センター，2008，『事業紹介／平成19年度活動報告』，国立大学法人東京農工大学女性キャリア支援・開発センター.
- 一，2009，『事業紹介／平成20年度活動報告』，国立大学法人東京農工大学女性キャリア支援・開発センター.
- 京都大学男女共同参画企画推進委員会，n.d.，『「京都大学男女共同参画推進に関する意識・実態調査」報告書』，  
[http://geco.adm.kyoto-u.ac.jp/activity/chosa\\_zenbun.html#001](http://geco.adm.kyoto-u.ac.jp/activity/chosa_zenbun.html#001).
- 九州大学高等研究機構女性研究者支援室，2008，『研究者養成のための支援ニーズ調査結果の概要』，  
[http://sofre.kyushu-u.ac.jp/sofre\\_files/needs.pdf](http://sofre.kyushu-u.ac.jp/sofre_files/needs.pdf).
- 名古屋大学男女共同参画推進専門委員会・男女共同参画室，2009，「2008年度男女共同参画推進に関する部局アンケート結果」『名古屋大学における男女共同参画報告書2008年度』：120-126，名古屋大学男女共同参画推進専門委員会・男女共同参画室.
- 日本大学 研究委員会男女研究者共同参画専門部会 女性研究者支援推進ユニット，2008，『日本大学における男女共同参画に関する意識調査（2008年度）』，

<http://www.nihon-u.ac.jp/research/careerway/> .

日本女子大学女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室, 2008, 『日本女子大学家政理学科・理学部卒業生にみる「マルチキャリアパスアンケート」結果報告書』, <http://mcm-www.jwu.ac.jp/~mcpweb/research/img/report.pdf>.

島根大学男女共同参画推進室, 2009, 『国立大学法人島根大学男女共同参画に関する意識調査アンケート集計結果』, <http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/gender/article/001/report.pdf>.

静岡大学男女共同参画戦略ワーキンググループ, 2008, 『静岡大学における男女共同参画に関する意識・実態調査結果報告書』, <http://www.shizuoka.ac.jp/sankaku/rinkpdf/kekkahoukoku200811.pdf>.

東北大学男女共同参画委員会, 2006, 『男女共同参画委員会報告書 平成18年度』, <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/houkokusyo/H18.pdf>.

東京大学大学院理学系研究科・理学部, 2009, 『理学系研究科男女共同参画アンケート集計結果』, <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku.html>.

筑波大学男女共同参画推進室, 2009, 『男女共同参画アンケート調査結果報告—ダイジェスト版—』, [http://www.tsukuba.ac.jp/about/kyoudousankaku/pdf/anq\\_result.pdf](http://www.tsukuba.ac.jp/about/kyoudousankaku/pdf/anq_result.pdf).

早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所, 2008, 『研究者養成のための男女平等プランに関する調査 (5) 男女共同参画推進に関する意識・実態調査2008年度教職員調査報告書』, 早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所.

山形大学男女共同参画推進準備室, 2009, 『男女共同参画に係るアンケート調査集計結果の概要』, <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/d-file/20090225.pdf>.

## ② 他調査・資料等

男女共同参画学協会連絡会, 2008, 『平成19年度「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」』, <http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/>.

独立行政法人労働政策研究・研修機構, 2009, 『ユースフル労働統計—労働統計加工指標集— (2009年版)』, [http://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/kako/2008/documents/6\\_p44-52.pdf](http://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/kako/2008/documents/6_p44-52.pdf)

米澤彰純編, 2007, 「第2部 大学教員からみた都市と大学「大学教員の生活実態に関する調査」から」『都市と大学の連携・評価に関する政策研究—地方分権・規制緩和の時代を背景として—』85-237, 平成17-18年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書, <http://www.she.he.tohoku.ac.jp/yonezawa/TKP2.pdf>.

原ひろ子編, 1999, 『女性研究者のキャリア形成 : 研究環境調査のジェンダー分析から』, 勁草書房.

加野芳正, 1988, 『アカデミック・ウーマン—女性学者の社会学—』, 東信堂.

NHK放送文化研究所, 2006, 『2005年国民生活時間調査報告書』, [http://www.nhk.or.jp/bunken/research/life/life\\_20060210.pdf](http://www.nhk.or.jp/bunken/research/life/life_20060210.pdf).

登谷美穂子・坂東晶子, 1985, 「研究者の活動量とライフサイクル」『科学』4月号: 244-249, 岩波書店.

塩田庄兵衛編, 1984, 『婦人研究者のライフサイクル調査研究V “アンケートによる実態調査”の分析』, 文部省科学研究費総合研究A(広領域)研究成果報告書, 立命館大学.

山形大学男女共同参画推進室, 2009, 『山形大学の男女別教員数と女性割合 (2009年10月1日現在)』, <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/d-file/20091113.pdf>.

## 9. おわりに

これまで、平成 21 年度「男女共同参画に係るアンケート調査」について、調査方法、回答者のプロフィール、ライフについて、ワークについて、ワークライフバランスについて、次世代の女性研究者・職員の育成、取り組みの周知度、また自由記述の分析を行ってきた。

結果を見て感じていることは、性別や職種を限らず、とにかく仕事が忙しく、ワークライフバランスに何らかの不満を感じている人が非常に多いということである。その中でも家事、育児、介護などの家庭面での負担を行うことの多い女性たちには、特に負担感が強い。

今回のアンケート結果は、この報告書の分析のみの使用に終わらせるのではなく、そのような大きな負担を感じている人たちにとって、また全ての教職員にとって、どのようなサポートが有効であるか、どのように組織として支援していくかを共に考えていく参考にしたいと考えている。

最後に、大変お忙しい中、回答にご協力頂いた皆様と、また配布・回収にご協力いただいた職員の皆様に感謝を申し上げたい。

平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費  
「女性研究者支援モデル育成」事業  
「山形ワークライフバランス・イノベーション」

第 2 部 男女共同参画に係るアンケート結果報告書

2010 年 3 月発行

発行 山形大学男女共同参画推進室

連絡先 〒990-8560 山形市小白川町 1 丁目 4-12

Tel 023-628-4937,4938,4939 Fax:023-628-4014

URL <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/danjo.html>

E-mail [danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)